

平成 29 年度

社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会

事 業 報 告 書

平成 29 年度 社会福祉法人静岡市社会福祉協議会事業活動の総括

平成 29 年度の基本方針を「いま、あらためて社会福祉協議会の役割とは～『我が事・丸ごと』の地域づくりを目指して～」とし、「法人運営の強化と組織体制の再構築」「日常生活圏域における住民主体の福祉サービスの充実」「住民一人ひとりの暮らしを支える総合相談、生活支援体制の強化」「適切なサービス提供と公益法人としての取り組みの充実」の 4 つの重点目標を掲げ、この実現を図るために 13 本の重点事業を中心に事業運営に取り組みました。

具体的には、月次経営報告に基づいた経営管理を継続的に実施し、適正な法人運営に努めるとともに、今後の法人経営のビジョンを示した中長期経営計画策定に着手しました。

日常生活圏域における福祉サービスの充実では、第 3 次地域福祉活動計画に基づいて、地域福祉活動推進の要となる地区社会福祉協議会が運営課題や実践活動について共有する場として、地区社会福祉協議会連絡会を各区で立ち上げ、地域での支え合いの仕組みづくりについて協議し、市内全体で住民主体の支え合い活動を促進しました。

総合相談の強化として、各区で無料職業相談窓口を設置し、総合相談窓口における就労支援を拡充しました。

また、成年後見事業に関わる潜在的なニーズに対応するため、成年後見相談モデル事業を実施しました。

生活支援体制整備については、生活圏域の拡大に伴い生活支援コーディネーターを拡充し、各地域における自主的な支え合いの取り組みを推進しました。

また、本会独自の生活困窮者支援を実施するほか、各事業所において適切なサービス提供ができるよう職員の資質向上に努めるとともに、利用者及び住民からの苦情や意見等については各部署、部門で共有しサービス提供の改善を進めました。指定管理事業及び受託事業については、本会のこれまでの実績を踏まえ、社会に求められる法人としてのビジョンを掲げ取り組みました。

平成 29 年度の特記事項として、社会福祉法人制度改革によって設置された会計監査人による予備調査指摘事項により、社会福祉法の改正のねらいである「ガバナンス」と「内部統制」に大きな問題があるとの指摘を受け、組織体制及び組織運営について抜本的な見直しを行いました。改善にあたっては、指摘事項に対する改善計画を各部門で策定し、第 4 回理事会での承認後、毎月の経営企画会議で改善状況等を確認、共有化し、更には内部監査においても確認しながら進めてまいりました。成果については、法定監査(中間期)の中で監査・確認を受け、会計監査人より「8 月より組織体制を改善し、その上で明らかに組織全体が一体となって改善の方向に向かっている。今までにない風を実感した。」との評価を受けたところであります。しかし、まだまだ改善すべきところは多々ありますが、「組織」が一体となって改善に向かっているという言葉を励みに、引き続き改善に取り組んでまいります。

〈平成 29 年度に行った重点事業〉

1 法人運営の強化と組織体制の再構築

会計監査人による予備調査指摘事項をきっかけに、社会福祉法人改革の趣旨を再度鑑み、経営組織の体制、ガバナンスや内部統制等を抜本的に見直し、再構築を進めてまいりました。また、社会福祉法人を取り巻く環境変化等が大きい中、今後の経営の指標、拠りどころとなるべく経営計画(中長期経営計画)の策定に向け、プロジェクト化して検討を進めてまいりました。

2 日常生活圏域における住民主体の福祉サービスの充実

第 3 次地域福祉活動計画における各区実施計画に基づき、より一層区及び小地域における地域福祉活動の推進を図るとともに、個別の生活課題について共有し、地域での支え合い活動が推進されるよう住民福祉懇談会や支え合いの地域づくり会議を開催しました。

また、地域住民主体の支え合い活動として、支え合いボランティアや居場所づくり、小地域での助け合い活動等に取り組む地区や地域の活動が拡充しました。

3 住民一人ひとりの暮らしを支える総合相談、生活支援体制の強化

平成 28 年度から実施している本会独自の生活困窮者に対する住居確保や経済的な支援事業を継続して実施するほか、静岡県社会福祉協議会や静岡市の制度や施策を結びつけた支援を実施することで、困りごとの解決と生活の立て直しに向けた支援を複合的に実施しました。

また、区域の生活支援体制整備事業の拡充に伴い、生活支援コーディネーターの資質向上を高めるための研修会を実施するほか、区域の生活支援コーディネーターが圏域の生活支援コーディネーターを指導育成する体制を確立しました。あわせて、支え合いの地域づくり通信を発行し、取り組みの紹介や PR に努めました。

4 適切なサービス提供と公益法人としての取り組みの充実

介護保険事業では、利用者主体のサービス提供に努めるとともに健全経営のため、事業内容や人員体制について常に見直しを行い、適正なサービス運営に努めました。

また、平成 28 年度から実施している認知症カフェによって更に地域住民に開かれた施設となるよう、実施内容の拡充を行い、利用者の増加や施設の認知度の向上を図りました。

子育て支援施策の拡充に伴う放課後児童クラブ開所時間の延長対応のほか、支援員の処遇改善を実施し、労働環境の改善に着手するとともに、利用者の利便性の向上するための環境改善を静岡市に申し入れる等、整備の改善に努めました。

《目 次》

I	法人組織運営の基盤強化 (総務課、経理課)	
1	法人運営事業	1
II	地域福祉活動の推進 (地域福祉推進課、葵区地域福祉推進センター、駿河区地域福祉推進センター、清水区地域福祉推進センター)	
1	地域福祉推進事業	9
2	ボランティアセンター運営事業	41
III	生活支援事業 (地域福祉推進課、葵区地域福祉推進センター、駿河区地域福祉推進センター、清水区地域福祉推進センター)	
1	生活福祉資金貸付事業	52
2	生活困窮者自立相談支援事業	55
IV	権利擁護事業 (地域福祉権利擁護センター)	
1	日常生活自立支援事業	60
2	法人後見事業	62
V	共同募金 (地域福祉推進課、葵区地域福祉推進センター、駿河区地域福祉推進センター、清水区地域福祉推進センター)	
1	共同募金配分金事業	63
VI	介護事業 (介護事業課)	
1	訪問介護事業	74
2	障害福祉サービス事業	78
3	通所介護事業	77
4	訪問入浴介護事業	79
5	居宅介護支援事業	80
6	訪問看護事業	82

VII 指定管理事業

(施設サービス課、葵区地域福祉推進センター、清水区地域福祉推進センター、介護事業課)

1	静岡市地域福祉交流プラザ指定管理事業	84
2	静岡市高齢者生活福祉センター指定管理事業	91
3	静岡市清水中央老人福祉センター指定管理事業	93
4	静岡市児童館指定管理事業	94
5	静岡市中央子育て支援センター指定管理事業	96
6	静岡市中央福祉センター指定管理事業	99
7	静岡市清水社会福祉会館指定管理事業	100

VIII 受託事業

(施設サービス課、地域福祉推進課、葵区地域福祉推進センター、駿河区地域福祉推進センター、清水区地域福祉推進センター)

1	地域包括支援センター事業	105
2	静岡市高齢者・障害者住宅改造費補助事業	111
3	放課後児童健全育成事業	112
4	由比・長田子育て支援センター運営事業	116
5	ファミリー・サポート・センター運営事業	118
	参考 各課所掌事務	120

I 法人組織運営の基盤強化

1 法人運営事業

社会福祉法人制度改革に向け、新たな組織体制や運営体制の構築を図ったが、会計監査人による予備調査により、その組織体制や運営体制はじめ、多くの厳しい指摘事項を受け、再度、法人制度改革の趣旨を鑑み、原点に立ち返り、組織はじめとして様々な仕組み等を再構築することが必要となった。これら指摘事項はすべて「法人としてあり方」に関わるものであり、早急な改善が必要となり、法人上げての改善に着手した。改善にあたっては、監事等の助言をいただき改善の計画化を行い、確実に改善を進めるため、月次でPDCAのマネジメントサイクルを回し、改善の実効性を高め改善を図った。

一方、社会、経済等の環境が大きく変化していく中、今後の法人経営の指標、拠りどころとなるべく中長期経営計画の策定をプロジェクト化し進めるとともに、様々なリスク(情報リスク、災害リスク)に備え、対策を講じた。

中長期経営計画の策定を進める中で、本会の内部能力(ビジネスモデル、ヒト、モノ、カネ)において分析、整理したところ組織マネジメントや財務マネジメント等内部能力に多くの課題があるということが明確になった。

(1)会員の確保と拡大

社会福祉協議会は、活動趣旨に賛同する市民や企業、社会福祉事業経営者等が会員として参加することで構成されており、会員からの会費は地域福祉活動を進めるための貴重な財源となっている。

会員募集及び会費納入については、自治会及び町内会、民生委員・児童委員等の協力の下、依頼を行い、各会員から59,223,373円の会費をいただいた。

しかし、平成27年度以降、会費額は減少しており、会員の拡大による地域福祉活動財源となる会費の確保は重要な課題である。

この会費は、概ね小学校区を単位として組織している「地区社会福祉協議会」の活動経費、活動支援の経費として、その約9割を充当し、地域福祉の推進を図っている。

会費収入の状況（過去5か年）

年度	一般会費	賛助会費	施設・団体会費	特別会費	合計
29	51,836,621円	4,403,400円	704,784円	2,278,568円	59,223,373円
28	51,638,663円	4,594,300円	825,892円	2,279,568円	59,338,423円
27	51,932,482円	4,894,792円	707,784円	2,386,000円	59,921,058円
26	51,704,760円	4,744,100円	747,784円	2,547,000円	59,743,644円
25	51,887,166円	4,424,395円	700,000円	2,413,971円	59,425,532円

(2) 本会への寄付による事業支援

本会の事業推進のために篤志家や企業等の団体から寄付が寄せられた。

① 寄付金等の受け入れ状況(過去5か年)

年度	一	一般寄付金	指定寄付金	合計	物品寄付※
29	件数	98 件	3 件	101 件	12 件
	金額	5,779,728 円	3,122,838 円	9,262,224 円	888,924 円
28	件数	104 件	3 件	107 件	10 件
	金額	5,312,829 円	53,217,999 円	58,530,828 円	605,120 円
27	件数	125 件	17 件	142 件	26 件
	金額	5,029,468 円	3,524,755 円	8,554,223 円	2,383,058 円
26	件数	123 件	22 件	145 件	49 件
	金額	15,223,965 円	4,685,728 円	19,909,693 円	7,486,925 円
25	件数	128 件	26 件	154 件	57 件
	金額	7,970,136 円	7,210,453 円	15,180,589 円	9,138,045 円

※物品寄付の金額は相当額

② 福祉団体助成

市内の社会福祉団体等に対して、その事業及び運営を支援するため助成を行った。

18 団体 総額 6,769,000 円

③ その他

ア あいネットグループ寄付助成事業

子育て支援と障がい児者の福祉の向上に資する事業や活動を行っている各種団体に対して助成した。

8 団体 総額 792,318 円

イ 宮地三千代・展江特別基金助成事業

児童福祉の向上に資する事業について助成を行った。

2 団体 総額 130,610 円

(3) 組織運営

法人運営上の重要事項を迅速に審議するため、理事会を必要な都度実施し、法人としての意思決定を行った。

また、改正社会福祉法に則り、会計監査人の設置、理事会及び評議員会の審議事項を整理したほか、各種規程の制定や修正、評議員選任・解任委員会を行った。

① 理事会 理事定数 16 名 監事 3 名 顧問 1 名 [10回開催]

実施日	主な審議事項
平成 29 年 6 月 9 日(金)	平成 28 年度事業報告及び決算、会計監査人の選定、定款及び各種規程の整備
6 月 29 日(木)	会長及び常務理事の選任
7 月 14 日(金)	第 1 回補正予算、評議員候補者の選任

実施日	主な審議事項
8月30日(水)	予備調査改善計画、第2回補正予算、放課後児童クラブ支援員の処遇改善
10月4日(水)	城東地域包括支援センターの分割、日本財団助成事業への応募
10月31日(火)	児童館ほか指定管理事業への応募
12月1日(金)	職員の給与及び昇任昇格に関する規程の一部改正、12ヶ月期賞与支払い
12月8日(金)	職員及びパートタイム等職員給与規程、出張旅費規程の制定
平成30年 2月14日(水)	成年後見相談モデル事業の拡充、幹部職員の人事
3月14日(水)	第3回補正予算、平成30年度事業計画・予算

②評議員会 評議員定数27名 [5回開催]

実施日	主な審議事項
平成29年 6月29日(木)	平成28年度事業報告及び決算、理事及び監事、会計監査人の選任、定款及び各種規程の整備
7月26日(水)	第1回補正予算
9月19日(火)	第2回補正予算、放課後児童クラブ支援員の処遇改善
10月31日(火)	児童館ほか指定管理事業への応募
平成30年 3月29日(木)	第3回補正予算、平成30年度事業計画・予算

③評議員選任・解任委員会 委員5名

評議員選任規程に則り、理事会で推薦された3名についての審議を行った。なお、3名については辞任届を受理した3名の欠員補充となる。

実施日 平成29年8月29日(火)

④正副会長会議 会長1名 副会長3名 常務理事1名 [12回開催]

運営上の課題等の協議、理事会及び評議員会上程議案の協議、月次経営報告、各種事業報告、寄付及び会費並びに共同募金等の報告等を行った。

実施日 平成29年4月28日(金)、5月26日(金)、6月23日(金)、7月28日(金)、
8月21日(月)、10月3日(金)、10月20日(金)、11月24日(金)、12月22日(金)、
平成30年1月27日(金)、2月2日(金)、3月6日(火)

⑤役員研修会

社会福祉法の改正により、改革される社会福祉法人の組織経営や役員等に求められる責務について学び、今後の法人運営についてさらに理解を深めてもらうために研修会を実施した。

【役員全体研修会】

対象 理事、監事、顧問、評議員

日時 平成29年10月4日(水)

会場 クーポール会館 7階月華

テーマ 「社会福祉法人制度改革の求めるもの」～法人の今後の在り方～
講 師 辻・本郷税理士法人 公益法人部 部長 市川琢也氏
参加者 53名(うち職員29名)

(4)組織統制

法人として適切な運営を行うため、経理、出納事務の適正化や法人が実施する事業について外部及び内部からの視点によって統制を図った。

①監査

ア 行政監査

i)指導監査

静岡市福祉総務課による社会福祉法第56条に基づく指導監査が行われた。

実施日 平成30年3月1日、2日

監査人 3名

監査項目 a 組織 運営
b 資産 負債
c 会計 経理

監査結果 文書指摘 0件
口頭指摘 3件
助言 0件

イ 外部監査

i)法定監査

経理及び出納事務等の適正化を目的として、公認会計士による外部監査(法定監査)が行われた。(事業所での現地調査を含む)

【決算監査(予備調査)】

実施日 平成29年4月4日、19日、5月8日、9日、10日、15日、16日、17日、
20日、25日、26日、31日(延べ12日間)

監査人 3名

監査結果 指摘事項42件

【中間監査(法定監査)】

実施日 平成29年10月11日、12月14日、18日、19日、20日、平成30年1月10日
11日、18日、19日、22日、25日、29日(延べ12日間)

監査人 3名

監査結果 指摘事項 51件

ウ 監事監査

i)決算監査

平成28年度における理事の業務執行状況および財産の状況等について監査が行われた。

実施日 【業務監査】平成29年5月29日

【会計監査】5月30日、31日(延べ3日間)

監査人 2名(監事定数2名)

監査項目【業務監査】

a 行政監査の指摘確認と改善状況
b 定款の状況
c 理事の業務執行状況
d 登記の状況

- e 事業全般の状況
- f 社協運営の状況
- g 生活福祉資金 日常生活自立支援事業の状況
- h 危機管理の状況

【会計監査】

- a 内部牽制組織の状況
- b 物品購入と契約
- c 収入と支出
- d 予算の編成、執行状況
- e 事業区分、拠点区分、サービス区分と帳簿の整備状況
- f 残高確認と実査
- g 計算書類 附属明細書の妥当性

エ 内部監査

公認会計士による外部監査と連携した内部監査を実施し、外部監査の有効性を高めた。

実施期間 平成 29 年 9 月 11 日～平成 29 年 11 月 10 日

対象 全部署及び全事業所

- 監査重点対象項目
- a 小口現金、つり銭等現金管理状況（実査）
 - b 現金徴収に対する手続等の確認
 - c 物品検収に対する確認
 - d 固定資産管理状況確認及び実査
 - e 外部監査指摘事項についての確認
 - f 外部監査指摘改善状況の確認
 - g その他

②専門機関との顧問契約

組織の適正運営に資するため、専門職と顧問契約し助言等をいただいた。

弁護士 公認会計士 社会保険労務士事務所

(5)各種委員会等の開催

本会を継続的かつ安定的に運営するために各種委員会等を設置している。

①苦情解決委員会

本会に寄せられた苦情及び意見等への対応について報告と協議を行った。

また、その内容について、苦情解決第三者委員から指導や助言を受けた。

[第1回] 平成 29 年 8 月 29 日(火) 26 件(平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 3 月末日分)

[第2回] 平成 30 年 3 月 26 日(月) 28 件(平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月末日分)

②情報システム委員会

各部署及び事業所から選出された職員（委員）からなる「情報システム委員会」を中心としたネットワークシステム管理体制の構築を目指し、協議の場として委員会を開催した。

実施回数 7 回

委員および事務局 10 名

主な内容 システム導入検討、業務用端末に関する協議、システム運用ルール協議等

(6)職員研修

人材育成には研修の充実強化が必須となっており、階層別研修、専門研修、外部研修、自己啓発等を積極的に進めている。なお、介護職員等の専門職は各所属で別々に実務研修を実施している。

①階層別研修

階層別研修は新任職員研修、主事級研修、主任級研修、副主幹・主幹級研修、管理職研修等を位置づけており、これら各階級別の研修は、外部講師や内部講師により研修を実施した。特に、新任職員研修は職員が最初に受講する研修であることから重要な位置づけとしている。

新任職員研修等 5 研修 延べ 10 日 延べ 311 人

②専門研修

専門研修は、事務遂行能力向上のため、経理事務、文書事務、契約事務、リスクマネジメント等の研修を実施した。これらの研修は、研修講師や研修対象者をその都度選んで実施した。特に、メンタルヘルス対策やリスクマネジメントの研修は現在の組織運営に必要不可欠であり、管理者としての対応、職員同士の対応等、課題の多い分野となっている。

リスクマネジメント研修等 4 研修 延べ 4 日 延べ 113 人(メンタル、交通、接遇、文書)

③外部研修

全国社会福祉協議会、静岡県社会福祉協議会、各種団体及び研修機関等が主催する外部研修に参加した。

市町社会福祉協議会新任職員研修会等 341 研修 延べ 523 人

④職場研修

職場を活性化するため、所属長や OJT 育成担当者が中心となって日常業務を通じて研修を実施しており、今後、本会として組織強化のためには、さらに充実して行かなければならぬ。

(7)プロジェクト

①中長期経営計画策定

法人の意志決定の指標、拠りどころとなる中長期経営計画（経営戦略）を平成 29 年 6 月～平成 30 年 6 月にかけて、コンサルタントの支援を得て策定することとしている。

コアメンバー 8 名 サブメンバー 5 名 事務局 1 名

平成 29 年 6 月 12 日 キックオフ

毎月 1 回実施 (10:00～17:00)

平成 29 年 6 月～平成 29 年 10 月 現状分析

平成 29 年 11 月～平成 30 年 1 月 戰略策定

平成 30 年 2 月～平成 30 年 6 月 中期経営計画策定

(8)職員管理

①福利厚生の充実

予防接種費用の一部負担について非常勤職員含め組織内で均一化した。

②交通事故防止の取り組み

交通安全協会各支部が実施する各種研修会参加を奨励し、各部署から幅広く参加させるとともに、事故防止に関する注意喚起を定例的に実施した。

改善事項

(1)予備調査指摘事項に対する改善

法定監査を視野にした予備調査を中心として、会計監査人より人事給与関係業務はじめとして、組織体制、ガバナンス、内部統制等に対して厳しい指摘を受け、その指摘に対して、監事の助言をいただきながら重要度等鑑み改善計画を策定し、法人として改善を図った。改善を進めるにあたり、月次でPDCAのマネジメントサイクルを回し、改善の実行性を高め改善を図った。

改善を図った主な指摘項目等については以下のとおりである。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ①給与規程の改定 | ②就業規程の改定 |
| ③各種手当の見直し、整理 | ④役割、権限の見直し（幹部職員の兼職解除） |
| ⑤新給与システムへの移行 | ⑥給与計算におけるスプレットシートの排除 |
| ⑦給与計算誤り | ⑦時間外勤務申請方法等統一化 |
| ⑧委託業務の見直し（分離発注等） | ⑨児童クラブ物品調達方法確立 |
| ⑩児童クラブ債権管理方法の確立 | |

(2)中長期経営計画の策定

法人の意志決定の指標、拠りどころとなる中長期経営計画（経営戦略）の策定に向け、プロジェクトチームによる検討を行った。中長期経営計画については6月までに策定するよう検討を進めている。

(3)災害マニュアル及び防災組織体制の見直し

近未来において発生する可能性が高い大規模災害に備え、近年全国各地における様々な自然災害等により得た現状、課題等鑑み、本会の災害対応マニュアルの刷新を図った。

また、災害発生時点での初動体制の強化を図るための指示命令発信手段、職員間の相互通信手段の構築を図った。

(4)セキュリティ対策の強化

新たな情報管理ソフトとセキュリティソフトを一体的に導入したことにより、情報管理体制および本会ネットワークへのウィルス感染対策等を強化した。

課題

(1)法定監査(予備調査)指摘事項に対する継続的な改善

予備調査及び中間期法定監査にて指摘を受けた事項については、改善を進めているが、水平展開が出来ていない項目や、組織内での取組みに差を感じる事項も見受けられた。内部監査部門の強化等を図り、部門ではなく、法人としての改善を着実に図るように進める必要がある。

(2)現状分析より見えてきた本会の「弱み」

中長期経営計画策定プロジェクトの中で、本会の内部能力（ビジネスモデル、ヒト、モノ、カネ）について分析、整理したところ、組織（ヒト）マネジメント、財務マネジメント等内部能力に多くのマイナス要素である「弱み」があるという経営課題が明確化された。

経営課題としてのマイナス要素である「弱み」は環境変化の激しい時代を迎え早急に克服していく必要がある。6月に策定が完了する中長期経営計画と連動させながら課題克服の計画化を進めることとする。

(3)人材雇用と育成

日本社会の構造が大きく変化してきている中、雇用環境は本会においてもとても厳しい時代となっている。本会のサービスの原価は「ヒト」であり、「ヒト」があつての本会の事業である。人材獲得が難しい時代、いかに有用な人材を獲得し、育成、定着化させていくのか。人事戦略を抜本的に見直す必要がある。

(4)交通事故防止対策

職員 1,200 名を超える法人で、社有車はじめとして、バイク等多くの車両を活用して事業を行っている。毎年定期的に職員教育はじめとして様々な手段を活用して、交通安全の注意喚起を行っているものの、交通事故発生件数は増加の一途である。従来からの対策を見直し、より効果的な交通事故防止対策を講じることとする。

(5)情報システムリスク対策

情報化社会の今、本会においても情報システムにかかる比重が年々大きくなっている。比重が大きくなると同時にリスクも大きくなり、その対策にかけるコストも当然大きくなる。技術革新と同時にコンピューターウィルス等外的脅威の進化のスピードも速く、常に新たな対策に迫られているのが現状である。常に、情報セキュリティの精度を安定的なレベルで維持、運用する必要がある一方コストコントロールも必要で常に見直しが必要である。本会の情報システムの到達点を明確化し、そこに向けてどのように精度を高めて行くのか、今後の具体的な戦術を策定する必要に迫られている。

II 地域福祉活動の推進

1 地域福祉推進事業

平成 27 年度から平成 34 年度までを計画期間とする「第 3 次地域福祉活動計画」における各区実施計画に基づき、各種事業に取り組んだ。

区地域福祉推進センターにおいて、「地域福祉コーディネーター」を各地区に配置し、地区社会福祉協議会活動や福祉教育活動の地域支援のほか、生活困窮者自立相談支援事業等と連携して個別課題の解決を目指す地域づくりに取り組む地区を支援した。

改正介護保険法に基づく生活支援体制整備事業においては、新たに 8 つの日常生活圏域 22 地区を指定し、生活支援コーディネーターが地域づくり会議や支え合い活動の支援等を実施した。

(1) 第3次地域福祉活動計画の推進

① 地域福祉活動計画評価推進委員会の開催

[第 1 回]

期 日 平成 29 年 8 月 23 日(水)
会 場 静岡市中央福祉センター 31 会議室
内 容 平成 28 年度事業評価と平成 29 年度のとりくみについて
暮らし・しごと相談支援センターの業務について
出席者 18 名

[第 2 回]

期 日 平成 30 年 3 月 8 日(木)
会 場 静岡県総合社会福祉会館 602 会議室
内 容 平成 29 年度上半期の事業評価及び平成 30 年度の取り組みについて
出席者 16 名

② 小グループによる区ごとのヒアリング

日 時 a 平成 30 年 1 月 29 日(月)
b 平成 30 年 2 月 6 日(火)
c 平成 30 年 2 月 8 日(木)
会 場 a 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 1 階第 1 会議室
b 静岡市清水社会福祉会館 3 階中会議室
c 駿河生涯学習センター 302 会議室
内 容 平成 29 年度上半期事業評価(a 葵区、b 清水区、c 駿河区)
出席者 a 7 名
b 3 名
c 5 名

(2) 地区社会福祉協議会活動の支援

住民主体の地域福祉活動を一層推進するため、地区社協に対し活動助成金を交付した。

また、役員の研修会や円滑な運営を図るための会議の開催のほか、本会職員が地区に出向いて情報提供や助言等の活動支援に取り組んだ。

①地区社会福祉協議会の設置状況

区分	葵区	駿河区	清水区	計
設置か所数	35 地区	18 地区	21 地区	74 地区
未設置数	2 地区	—	—	2 地区

②運営費及び活動費の助成

助成の区分	葵区	駿河区	清水区
地区社会福祉協議会助成金	35 地区 17,150,000 円	18 地区 12,183,000 円	21 地区 16,106,000 円
S型デイサービス事業助成金	29 地区 76 会場 13,819,040 円	18 地区 61 会場 12,220,000 円	21 地区 130 会場 26,010,000 円
子育て支援事業助成金	20 地区 23 会場 1,790,000 円	13 地区 13 会場 1,040,000 円	19 地区 39 会場 2,970,000 円

③地区社会福祉協議会連絡会の支援

地区社会福祉協議会の活動に関する情報共有と連携促進を図るため、各区の地区社会福祉協議会連絡会の運営支援を行った。

【葵区】

ア 会議及び研修

i) 静岡市葵区地区社会福祉協議会連絡会

【第1回】地区社協会長、企画運営委員長合同会議

期 日 平成 29 年 4 月 26 日(水)

会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室

内 容 平成 28 年度 葵区地区社協の事業報告等

平成 29 年度 葵区地区社協の事業計画、実施計画等

平成 29 年度 葵区地区社協連絡会の事業計画

地区社会福祉協議会へのご協力のお願いについて

参加者 36 地区 57 名(未設置地区含)

【第2回】地区社協役員研修会

期 日 平成 29 年 11 月 24 日(金)

会 場 掛川市東部地域健康医療支援センター「東部ふくしあ」

内 容 掛川市西山口地区福祉協議会における支え合い活動視察研修

参加者 21 地区 21 名

【第3回】地区社協会長会議

期 日 平成 30 年 2 月 13 日(火)

会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室

内 容 情報交換会「地域資源を活用した支え合い活動の展開について」

参加者 28 地区 45 名(未設置地区含)

ii) 会計担当者研修会

期 日 平成 29 年 5 月 1 日(月)

会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室

内 容 地区社協の会計処理について説明

参加者 16 地区 17 名

iii) 広報担当者研修会

期 日 平成 29 年 6 月 1 日(木)
会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室
内 容 事例発表
a 城内地区社会福祉協議会 大石三男 氏
b 服織西地区社会福祉推進協議会 吉永 初 氏
情報交換会
参加者 23 地区 32 名

【駿河区】

ア 会議及び研修

i)会長・企画運営委員長合同会議

期 日 平成 29 年 4 月 19 日(水)
会 場 クーポール会館
内 容 駿河区地域福祉推進センター平成 29 年度重点事業について
地域福祉コーディネーターの地区社協支援目標について
参加者 18 地区 44 名

ii)駿河区地区社協連絡会発足式

期 日 平成 29 年 4 月 19 日(水)
会 場 クーポール会館
内 容 議事
a 設立の経緯及び主旨について、会則(案)について
b 役員の選任について、今後の予定について
記念講演
演題「地区社協のこれまでとこれから～地域の役割と期待」
講師 静岡市社会福祉協議会 会長 山本伸晴

参加者 16 地区 31 名

iii)地区社協会計担当者研修会

期 日 平成 29 年 8 月 4 日(金)
会 場 駿河生涯学習センター 303 会議室
内 容 地区社会福祉協議会の会計について、質疑応答、情報交換
参加者 17 地区 17 名

iv)会長・企画運営委員長合同会議

期 日 平成 29 年 11 月 2 日(木)
会 場 駿河生涯学習センター 301・302 活動室
内 容 生活支援体制整備事業及び生活支援コーディネーターの活動状況について、地区社協活動便覧の作成について、各地区の活動状況について
参加者 18 地区 34 名

v)支え合いの仕組みづくり研修会

期 日 平成 30 年 2 月 28 日(水)
会 場 静岡音楽館 AOI 7 階講堂
内 容 テーマ「地域における支え合いの実践事例から 地域に必要な仕組みづくりを考える」
コーディネーター
静岡県立大学短期大学部 社会福祉学科 准教授 江原勝幸氏
a 基調報告「地域における支え合いの活動の推進について」
報告者 静岡市社会福祉協議会 駿河区地域福祉推進センター

- b 実践報告「地域福祉アンケート調査の取り組み」
 　　報告者 駿河区東豊田地区社会福祉協議会
 　　　企画運営委員長 江間三夫氏
- c 実践報告「居場所・ぷらっと安東の取り組み」
 　　報告者 葵区安東地区社会福祉推進協議会 会長 鈴木健仁氏
 　　　副会長 本杉靖子氏
- d 実践報告「生活支援・道悦島応援隊の取り組み」
 　　報告者 島田市道悦島地区社会福祉協議会 会長 小林 強氏
 　　参加者 地区社協会長、役員、自治会関係者、民生委員等 17 地区 100 名

【清水区】

ア 会議及び研修

i) 静岡市清水区地区社会福祉協議会連絡会

【清水地区社協連絡会設立記念式典】
 　期 日 平成 29 年 4 月 28 日(金)
 　会 場 ホテルサンルート清水 3 階富士
 　内 容 会長及び来賓等ご挨拶
 　　　　清水区における地区社協の歩み
 　参加者 21 地区 49 名

【第 1 回】会長会議

期 日 平成 29 年 7 月 31 日(月)
 　会 場 静岡市清水社会福祉会館 3 階中会議室
 　内 容 平成 29 年度静岡市社会福祉協議会 事業報告及び決算報告
 　　　　地区社協連絡会の進め方について
 　　　　地区社協運営に関する意見交換等
 　参加者 20 地区 20 名

【第 2 回】会長・企画委員長合同研修会

期 日 平成 29 年 10 月 18 日(水)
 　会 場 静岡市清水社会福祉会館 3 階大・中会議室
 　内 容 講演「住民主体の生活支援体制づくり」
 　　　　講師 静岡福祉大学 福祉心理学科 准教授 渡邊英勝氏
 　　　　生活支援コーディネーターの活動報告
 　参加者 21 地区 54 名

【第 3 回】地区社協会長、企画委員長合同会議

期 日 平成 30 年 1 月 31 日(水)
 　会 場 静岡市清水社会福祉会館 3 階大・中会議室
 　内 容 平成 29 年度事業の活動報告
 　　　　各地区社協の取り組み及び生活支援体制整備事業の進捗状況
 　　　　平成 30 年度事業の方向性の共有
 　　　　意見交換ほか
 　参加者 21 地区 58 名

ii) 地区社協会長、企画委員長合同会議

期 日 平成 29 年 4 月 28 日(金)
 　会 場 静岡市清水社会福祉会館 3 階大・中会議室
 　内 容 平成 29 年度地区社協関係事業計画等の説明及び意見交換
 　参加者 21 地区 59 名

iii)企画委員長会議

【第1回】

期日 平成29年6月23日(金)
会場 静岡市清水社会福祉会館 3階大・中会議室
内容 本会からの事務連絡、協力依頼
企画委員会の運営及び課題等についての意見交換
地区社協間の情報共有

参加者 21地区41名

【第2回】

期日 平成30年2月23日(金)
会場 静岡市清水社会福祉会館 3階大・中会議室
内容 各種事業報告、決算書作成の依頼
各地区社協で取り組まれた事業の実施報告
意見交換

参加者 21地区37名

iv)会計担当者会議

期日 平成29年6月5日(月)
会場 静岡市清水社会福祉会館 3階中会議室
内容 地区社会福祉協議会に対する助成金について
助成金交付のスケジュールについて
参加者 17地区17名

④S型デイサービス事業の推進

介護予防事業として位置づけられているS型デイサービス事業の拡充と健康増進や仲間づくりの推進のため、本事業運営の趣旨や目的の周知徹底とともに、未実施地区における実施に向けた働きかけを行った。

また、新規会場における事業の定着と実施地区における継続的な支援のため指導員による巡回指導や研修会等を実施した。

【葵区】

ア 実施地区連絡会

期日 平成29年5月30日(火)
会場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3階第1・2研修室
内容 行政説明、平成28年度事業報告、平成29年度事業計画
元気いきいき！シニアサポートー事業報告、会場事例発表について
参加者 27地区66会場71人

イ レクリエーション研修会

期日 平成29年8月29日(火)、30日(水)
会場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3階第1・2研修室
内容 静岡県レクリエーション協会講師によるレクリエーション研修
参加者 23地区62会場111人

ウ 会場発表会

期日 平成29年10月27日(金)、30日(月)、31日(火)
会場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3階第1・2研修室
内容 「会場で実施している健康体操、レクリエーションや手作りゲームの発表」

及び「会場 PR 紙掲示」
参加者 40 会場 375 人（発表者 275 人、見学者延べ 100 人）
会場 PR 紙 48 会場

エ 認知症講演会

期 日 平成 30 年 1 月 17 日（水）
会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室
内 容 外部講師による「認知症講座」
参加者 18 地区 35 会場 68 人

オ S 型デイサービス説明会（未設置地区対象）

期 日 平成 30 年 1 月 17 日（水）
会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室
内 容 説明「地域での高齢者の見守りや支援の必要性」及び「S 型デイサービス開催要領」
参加者 13 地区 32 人

カ 各地区社協単位のボランティア研修会

i) 千代田東地区 4 会場合同ボランティア研修会

期 日 平成 29 年 11 月 17 日（金）
会 場 JA 安東支店 会議室
内 容 レクリエーション指導
参加者 4 会場 70 人

ii) 賢機南地区 5 会場合同ボランティア研修会

期 日 平成 30 年 1 月 30 日（火）
会 場 松富第 1 公民館
内 容 レクリエーション指導
参加者 5 会場 60 人

iii) 城北地区 5 会場合同ボランティア研修会

期 日 平成 30 年 2 月 3 日（土）
会 場 つばさ静岡
内 容 講話、レクリエーション指導
参加者 5 会場 70 人

iv) 麻機地区 4 会場合同ボランティア研修会

期 日 平成 30 年 2 月 5 日（月）
会 場 大野木荘（梅ヶ島コンヤ温泉郷）
内 容 レクリエーション指導
参加者 4 会場 35 人

キ 巡回指導

平成 29 年度実施状況 29 地区 76 会場 合計 157 回（延べ）

ク S 型デイサービス設置地区、会場数の推移（過去 5 か年）

	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
実施地区数	29 地区	29 地区	29 地区	27 地区	26 地区
会 場 数	76 会場	74 会場	72 会場	69 会場	66 会場

【駿河区】

ア S 型デイサービス実施会場連絡会

期 日 平成 29 年 8 月 29 日（火）
会 場 駿河生涯学習センター ホール

内 容 講演「S型デイサービスの意義と運営スタッフに必要な視点」
講師 静岡福祉大学 健康福祉学科 教授 西尾敦史氏
駿河区内 S型デイサービス実施状況の報告
参加者 18 地区 61 会場 118 人

イ 地区社協ボランティア研修会

i)長田南地区ボランティア研修会

期 日 平成 29 年 4 月 4 日(火)
会 場 用宗公民館
内 容 S型デイサービス説明 レクリエーションの実際
参加者 4 会場 53 名

ii)長田東地区ボランティア研修会

期 日 平成 29 年 6 月 6 日(火)、6 月 9 日(金)
会 場 みずほ公民館
内 容 S型デイサービス説明 レクリエーションの実際
参加者 5 会場 48 名

iii)西豊田地区ボランティア研修会

期 日 平成 29 年 9 月 26 日(火)
会 場 駿河生涯学習センター
内 容 S型デイサービスの意義 地域の現状 グループワーク
参加者 4 会場 74 名

iv)大里東地区ボランティア研修会

期 日 平成 29 年 9 月 30 日(土)
会 場 高松公民館
内 容 S型デイサービス説明 レクリエーションの実際
参加者 5 会場 55 名

v)東豊田地区ボランティア研修会

期 日 平成 29 年 12 月 6 日(水)
会 場 用宗公民館
内 容 S型デイサービス各会場のレクリエーション発表
参加者 3 会場 36 名

vi)大里西地区ボランティア研修会

期 日 平成 30 年 1 月 13 日(土)
会 場 中原公民館
内 容 S型デイサービス各会場のレクリエーション発表
参加者 5 会場 57 名

vii)富士見地区ボランティア研修会

期 日 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 毎月第 3 月曜日
会 場 八幡山地域包括支援センター
内 容 でんでん体操ワンポイント説明 レクリエーション交流
参加者 6 会場 延べ 240 名

ウ 巡回指導

平成 29 年度実施状況 18 地区 61 会場 合計 174 回(延べ)

エ S型デイサービス設置地区、会場数の推移(過去5か年)

	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
実施地区数	18地区	18地区	18地区	18地区	17地区
会場数	61会場	60会場	57会場	55会場	53会場

【清水区】

ア S型デイサービス運営委員長会議

期日 平成29年7月13日(木)
会場 静岡市清水社会福祉会館 3階大・中会議室
内容 ボランティアスタッフ懇談会の開催について
平成28年度活動実績報告等について
緊急時の対応について
参加者 21地区 36人

イ S型デイサービス事業ボランティアスタッフリーダー研修会

期日 平成30年2月6日(火)~8日(木)
会場 静岡市清水社会福祉会館 6階多目的ホール
内容 ボランティアスタッフリーダーの資質の向上と各会場の内容充実について
講師による福祉レクリエーションの指導
講師 静岡県レクリエーション協会 理事長 渡邊佳洋氏
対象者 S型デイサービスに係るボランティアスタッフリーダー
参加者 2月6日(火) 45会場 76人
2月7日(水) 43会場 81人
2月8日(木) 36会場 64人
計 124会場 221人

ウ S型デイサービス事業ボランティアスタッフ懇談会

期日 平成29年9月4日(月)~9月8日(金) 全5回
会場 静岡市清水社会福祉会館 6階多目的ホール
内容 S型デイサービスの運営上の課題などについての意見交換
参加者 9月4日(月) [25会場 46人]、 9月5日(火) [22会場 44人]
9月6日(水) [26会場 51人]、 9月7日(木) [25会場 48人]
9月8日(金) [23会場 47人]、

エ 巡回指導

平成29年度実施状況 21地区 130会場 合計 209回(延べ)

オ S型デイサービス設置地区、会場数の推移(過去5か年)

	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
実施地区数	21地区	21地区	21地区	21地区	21地区
会場数	130会場	127会場	124会場	123会場	121会場

⑤子育て支援事業の推進

地域で行われる子育て支援事業の拡充を図るため、地区社協に対して事業の目的や重要性等について周知を図り、実施に向けた働きかけを行うとともに、活動の担い手となる子育てサロンボランティアを対象に下記の会議及び研修を実施した。

【葵区】

ア 子育てサロンボランティア交流会

期日 平成29年8月4日(金)

会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3階第1・2研修室
 内 容 子育てサロン運営について意見交換
 参加者 16地区42人 託児2人

イ 子育てサロンボランティア研修会

期 日 平成29年2月19日(月)
 会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3階第1・2研修室
 内 容 講演 ママが笑顔になる子育て支援
 講師 AMI助産院 院長 近藤亜美氏
 参加者 18地区34人

ウ 子育てサロン設置地区、会場数の推移(過去5か年)

	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
実施地区数	21地区	20地区	19地区	17地区	16地区
子育てサロン	22会場	22会場	22会場	19会場	18会場
パパトーク	1会場	1会場	1会場	2会場	1会場

【駿河区】

ア 子育てサロン実施会場連絡会

期 日 平成29年8月1日(火)
 会 場 駿河生涯学習センター 302活動室
 内 容 講演「参加から参画へ～子育てサロンの可能性」
 講 師 NPO法人 あそび子育て研究協会中部支部 代表 大川美佐子氏
 参加者 12地区29人

イ 子育てサロン設置地区、会場数の推移(過去5か年)

	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
実施地区数	13地区	10地区	9地区	8地区	7地区
子育てサロン	13会場	10会場	9会場	8会場	7会場

【清水区】

ア 清水区子育てトークの会スタッフ連絡会

期 日 平成29年5月18日(木)
 会 場 静岡市清水社会福祉会館 3階大・中会議室
 内 容 子育て支援事業実施報告、年間計画、各地区子育てトークの会及び区内の子育て支援関係機関との意見交換
 参加者 20地区34人、関係機関16人

イ 清水区子育てトークの会スタッフ研修会

期 日 平成29年7月7日(金)
 会 場 静岡市清水社会福祉会館 6階多目的ホール
 内 容 子育て支援センターから見える今どきの子育て事情～子どもの育ちと子育て家庭を支えるために～
 講 師 静岡市清水中央子育て支援センター 所長 今村恵美子
 参加者 56人

ウ 清水区子育てトークの会ボランティア懇談会

期 日 平成29年11月7日(火)
 会 場 静岡市清水社会福祉会館 6階多目的ホール
 内 容 子育てトークの会運営についての情報交換
 参加者 32人

エ 子育てトークの会活動紹介パネル展

期 日 平成 29 年 8 月 14 日(月)～9 月 4 日(月)

会 場 静岡市清水社会福祉会館 1 階ギャラリー

内 容 各地区子育てトークの会の活動を紹介するパネルの展示

オ 子育て支援事業(子育てトーク)実施地区、会場数の推移(過去 5 か年)

	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
実施地区数	19 地区				
子育てトーク	36 会場	36 会場	39 会場	39 会場	40 会場
パパトーク	3 会場				

⑥地区社会福祉協議会への支援と活動への参画

地区担当職員が隨時、地区社協活動に参加し、活動への支援や助言を行うほか、地域ニーズの把握と地区社協活動の情報収集を行った。

【葵区】

区分		地区数	回数	延べ人数
会議出席	総会	33 地区	33 回	38 人
	理事会	10 地区	23 回	27 人
	企画委員会	10 地区	39 回	49 人
	その他の会議	18 地区	51 回	90 人
活動訪問・連絡調整	S型デイサービス 高齢者サロン	33 地区	124 回	179 人
	子育てサロン	21 地区	22 回	24 人
	その他の活動	22 地区	70 回	87 人
	連絡調整	15 地区	31 回	35 人
合計		37 地区※	393 回	529 人

※延べ数ではなく、出席した地区数

【駿河区】

区分		地区数	回数	延べ人数
会議出席	総会	18 地区	18 回	33 人
	理事会	1 地区	2 回	3 人
	企画委員会	9 地区	40 回	47 人
	その他の会議	7 地区	12 回	16 人
活動訪問・連絡調整	S型デイサービス 高齢者サロン	18 地区	120 回	156 人
	子育てサロン	11 地区	24 回	30 人
	その他の活動	12 地区	21 回	22 人
	連絡調整	12 地区	117 回	120 人
合計		18 地区※	354 回	427 人

※延べ数ではなく、出席した地区数

【清水区】

区分		地区数	回数	延べ人数
会議出席	総会	21 地区	21 回	38 人
	理事会	3 地区	3 回	3 人
	企画委員会	21 地区	154 回	169 人
	その他の会議	16 地区	112 回	147 人
活動訪問・連絡調整	S型デイサービス 高齢者サロン	16 地区	111 回	149 人
	子育てサロン	12 地区	29 回	36 人
	その他の活動	21 地区	80 回	96 人
	連絡調整	21 地区	76 回	78 人
合計		21 地区※	586 回	716 人

※延べ数ではなく、出席した地区数

⑦他市町社協、地区社協の視察受け入れの調整

県内外の地区社協の視察を積極的に受け入れ、本市における地区社協活動を PR とともに、他都市の地域活動について理解を深めた。

ア 岩手県県央地区社会福祉協議会

平成 29 年 9 月 5 日（火） 静岡市清水社会福祉会館 13 名（静岡市社協、三保地区社協）

イ 島田市初倉地区民生委員・児童委員協議会

平成 29 年 9 月 20 日（水） 駒越生涯学習交流館 18 名

ウ 御殿場市原里地域福祉推進委員会

平成 29 年 10 月 27 日（金） 御殿場市役所原里支所 約 80 名

エ 沼津市第五地区社会福祉協議会

平成 29 年 11 月 8 日（水） 岡生涯学習交流館 16 名（岡地区社協）

才 掛川市和田岡地区福祉協議会

平成 29 年 11 月 27 日(月) 廣原生涯学習交流館 30 人

カ タイ チュラロンコーン大学

平成 30 年 3 月 1 日 (木) 有度地区社協 S 型デイサービス上原会場 17 名

⑧地区社会福祉協議会未設置地区への支援

葵区では、伝馬町地区、青葉地区における地区社協の組織化に向け、働きかけを行うとともに、当該地区で行われているサロン活動等の協力を行った。

伝馬町地区においては、他地区社協との情報交換会、青葉地区においては、自治会長会議での地区社協の説明を行い、設立に向けての理解を求めた。

ア サロン開催協力会場数

i)高齢者サロン 3 会場

伝馬町…春日健康サロン、春日三丁目きずなクラブ

青葉…健康のつどい「憩い」(教覚寺)

イ 情報交換会、勉強会等の開催

i)伝馬町

支え合いの地域づくり会議(城東地域包括圏域)を実施した。

期日 平成 29 年 8 月 3 日(木)

会場 静岡労政会館

内容 小地域における課題の共有

参加者 自治会 3 人 民生委員 2 人 ※伝馬町学区のみ

ii)青葉

地区社協立ち上げ準備委員会の委員との面談を実施した。

ウ 自治会等の会議、小地域福祉活動への出席

地区	区分	回数	延べ 人数
伝馬町	会議等	5 回	10 人
	高齢者サロン	2 回	4 人
	その他の活動	8 回	10 人
	合計	15 回	24 人

地区	区分	回数	延べ 人数
青葉	会議等	4 回	8 人
	高齢者サロン	1 回	2 人
	その他の活動	5 回	5 人
	合計	10 回	15 人

エ 自治会への市社協会費事務手数料還元

伝馬町 30,820 円

青葉 14,000 円

(3)生活支援コーディネーター設置事業

平成 27 年度の介護保険制度改革において位置づけられた「生活支援コーディネーター」について、平成 27 年から配置している区域生活支援コーディネーターに加え、平成 29 年度は市内 16 の日常生活圏域を指定地区として、静岡市との委託契約の下、当該圏域に配置を行った。

平成 29 年度は、区域 3 名、日常生活圏域に 10 名の生活支援コーディネーターを配置するとともに、各地区において支え合いの風土づくり、主体づくり、活動づくりに取り組んだ。具体的には「地域づくり会議」(協議体の設置、福祉懇談会やボランティア講座等の総称)を実施したほか、福祉ニーズを把握するためのアンケート調査、担い手養成のためのボランティア講座等を住民とともに進め、支え合いの地域づくりの推進を図った。

①生活支援コーディネーターの配置

ア 区域

行政区	所属	役職	氏名
葵 区	葵区地域福祉推進センター	主任	小久江陽子
駿河区	駿河区地域福祉推進センター	主幹	村松千春
清水区	清水区地域福祉推進センター	主任	大澤佑介

イ 日常生活圏域

行政区	日常生活圏域	所属	役職	氏名
葵 区	城西	葵区地域福祉推進センター	嘱託員	池ヶ谷真理
	城東	〃	嘱託員	池ヶ谷真理
	藁科	〃	嘱託員	有賀由美子
	服織	〃	嘱託員	有賀由美子
	麻機千代田	〃	主事	青野真也
	賤機	〃	主事	岡田紗矢香
	美和	〃	主事	岡田紗矢香
駿河区	小鹿豊田	駿河区地域福祉推進センター	主事	重廣泰乃
	長田	〃	嘱託員	柴田涼
	八幡山	〃	嘱託員	阿部理絵
	大谷久能	〃	嘱託員	阿部理絵
	丸子	〃	嘱託員	柴田涼
清水区	港北	清水区地域福祉推進センター	主事	大庭麻未
	港南	〃	嘱託員	平井祐子
	飯田庵原	〃	嘱託員	樋川淳子
	高部	〃	嘱託員	樋川淳子
	両河内	〃	主任	大澤佑介
	蒲原由比	〃	主事	大庭麻未

②生活支援コーディネーター活動実績(指定地区以外の地区への関わりを含む)

【葵区】生活支援コーディネーター 5人

活動内容		地区数	支援回数	延べ人数
事業・会議	支え合いの地域づくり会議	13 地区	1 回	8 人
	地域づくり会議	20 地区	14 回	113 人
	本会主催会議、研修	37 地区	15 回	76 人
地域づくり会議等合計		37 地区※	30 回	197 人
活動支援・連絡調整	地域包括支援センター	9 圈域	37 回	48 人
	地区社協会議、活動	35 地区	421 回	592 人
	民生委員児童委員協議会	23 地区	103 回	110 人
	自治会	19 地区	39 回	56 人
	その他	27 地区	214 回	266 人
活動支援・連絡調整合計		37 地区※	814 回	1,072 人

※延べ数ではなく、出席した地区数

【駿河区】生活支援コーディネーター 4人

活動内容		地区数	支援回数	延べ人数
事業・会議	支え合いの地域づくり会議	6 地区	5 回	19 人
	地域づくり会議	9 地区	99 回	114 人
	本会主催会議、研修	18 地区	8 回	39 人
地域づくり会議等合計		18 地区※	112 回	172 人
活動支援・連絡調整	地域包括支援センター	7 圈域	46 回	47 人
	地区社協会議、活動	18 地区	425 回	501 人
	民生委員児童委員協議会	14 地区	56 回	63 人
	自治会	10 地区	33 回	36 人
	その他	14 地区	133 回	159 人
活動支援・連絡調整合計		18 地区※	693 回	806 人

※延べ数ではなく、出席した地区数

【清水区】生活支援コーディネーター 4人

活動内容		地区数	支援回数	延べ人数
事業・会議	支え合いの地域づくり会議	3 地区	3 回	15 人
	地域づくり会議	12 地区	70 回	105 人
	本会主催会議、研修	21 地区	13 回	46 人
地域づくり会議等合計		21 地区※	86 回	166 人
活動支援・連絡調整	地域包括支援センター	6 圈域	64 回	73 人
	地区社協会議、活動	21 地区	633 回	700 人
	民生委員児童委員協議会	15 地区	56 回	66 人
	自治会	7 地区	16 回	16 人
	その他	19 地区	216 回	269 人
活動支援・連絡調整合計		21 地区※	985 回	1,124 人

※延べ数ではなく、出席した地区数

③支え合いの地域づくり会議の開催

【葵区】

(区域合同開催)

- 期　日　平成 29 年 8 月 3 日(木)
 会　場　静岡労政会館 6 階ホール
 内　容　a 趣旨説明「支え合いの地域づくりについて」
 　　　　　静岡市保健福祉長寿局地域包括ケア推進本部 次長 木下晴美氏
 　　　b 基調講演「地域で安心して暮らすために～地域で支え合い活動を広げるために～」
 　　　　　公益財団法人さわやか福祉財団 戦略アドバイザー 土屋幸己氏
 　　　c 支え合い活動の事例発表
 　　　　　「安倍口地区社会福祉協議会における地域活動
 　　　　　～ひとり暮らし高齢者見守り活動～」
 　　　　　安倍口地区社会福祉協議会 会長 山家良弘氏
 　　　d 葵区における支え合い活動の現状について
 　　　　　葵区生活支援コーディネーター 阿部 修
 　　　e 地区ごとのグループワーク

支え合い体験ゲーム
地域で取り組むべき課題の検討

f まとめ

対象地区 (城東圏域) 伝馬町、城内、安東、横内
(麻機千代田圏域) 竜南、城北、麻機、千代田
(美和圏域) 美和、安倍口、足久保、井宮、井宮北

出席者 13 地区 91 名

【駿河区】

(区域合同開催)

期日 平成 29 年 9 月 4 日(月)
会場 静岡県コンベンションアーツセンター 会議ホール風、1001-1
内容 第 1 部
a 趣旨説明 「支え合いの地域づくりについて」
静岡市保健福祉長寿局地域包括ケア推進本部 次長 木下晴美氏
b 基調講演 「地域で安心して暮らすために
～地域で支え合い活動を広げるために～」
公益財団法人さわやか福祉財団 戦略アドバイザー 土屋幸己氏
c 支え合い活動の事例発表
富士見地区社会福祉推進協議会
「ふれあいの場『有明なごみ』の活動について」
富士見地区社会福祉推進協議会 理事・有明町 2 区自治会
会長 山下金吾氏

第 2 部

d 地区ごとのグループワーク
支え合い体験ゲーム
地域で取り組むべき課題の検討

e まとめ

対象地区 (八幡山圏域) 森下、富士見
(大谷久能圏域) 大谷、久能
(丸子圏域) 長田西、長田北

※第 1 部は平成 29 年度の指定地区も対象

出席者 第 1 部：12 地区／73 名
第 2 部：7 地区／49 名

(圏域ごとの開催)

ア 大谷久能圏域支え合いの地域づくり会議

期日 平成 29 年 8 月 10 日(木)
会場 シーサイド大谷
内容 支え合いについての講義
大谷久能圏域の地域課題についての協議
出席者 19 名

【清水区】

(区域合同開催)

期日 平成 29 年 9 月 4 日(月)
会場 静岡県コンベンションアーツセンター 11 階会議ホール「風」
内容 a 趣旨説明 「支え合いの地域づくりについて」

静岡市保健福祉長寿局地域包括ケア推進本部 次長 木下晴美氏
b 基調講演「地域で安心して暮らすために
～地域で支え合い活動を広げるために～」
公益財団法人さわやか福祉財団 戦略アドバイザー 土屋幸己氏
c 支え合い活動の事例発表
「富士見地区社会福祉推進協議会
ふれあいの場『有明なごみ』の活動について」
富士見地区社会福祉協議会 理事・有明町2区自治会
会長 山下金吾氏
d 地区ごとのグループワーク、支え合い体験ゲーム
地域で取り組むべき課題の検討
e まとめ
対象地区 (両河内圏域) 両河内
(蒲原由比圏域) 蒲原、由比
出席者 3地区 27名

④社会資源の調査

地域の高齢者等の状況、ニーズ及び生活支援に関する社会資源を把握し、日常生活圏域ごとの状況一覧表を作成した。

⑤区地域支え合いネットワーク会議

【葵区】

[第1回]

期日 平成29年7月5日(水)
会場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3階第3研修室
出席者 15人
内容 葵区内地域支え合い活動の事例報告
生活支援体制整備事業の進捗状況の報告
グループワーク

[第2回]

期日 平成30年1月30日(火)
会場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3階第3研修室
出席者 13人
内容 地域包括ケア推進の方向性について(行政説明)
生活支援コーディネーター活動報告
グループワーク

[第3回]

期日 平成30年3月16日(金)
会場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3階第3研修室
出席者 12人
内容 平成29年度 生活支援体制整備事業 事業報告
平成30年度 生活支援体制整備事業 事業計画
支え合い推進委員について
グループワーク

【駿河区】

[第1回]

期 日 平成 29 年 8 月 17 日(木)
会 場 駿河生涯学習センター 302 活動室
出席者 13 人
内 容 支え合い活動事例報告、生活支援体制整備事業の進捗状況報告、意見交換

[第2回]

期 日 平成 30 年 2 月 1 日(木)
会 場 駿河生涯学習センター 302 活動室
出席者 15 人
内 容 支え合い活動の事例報告、平成 29 年度生活支援コーディネーター活動報告

[第3回]

期 日 平成 30 年 3 月 19 日(月)
会 場 駿河生涯学習センター 302 活動室
出席者 12 人
内 容 支え合い推進員の役割について、平成 29 年度生活支援コーディネーター活動報告、新しい日常生活圏域について

【清水区】

[第1回]

期 日 平成 29 年 8 月 7 日(月)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 3 階大会議室
出席者 13 人
内 容 生活支援体制整備事業の進捗状況の報告
グループワーク「支え合い活動に必要な環境を整えるために」

[第2回]

期 日 平成 30 年 2 月 26 日(月)
会 場 江尻生涯学習交流館 3 階集会室
出席者 11 人
内 容 支え合い活動の事例報告
平成 29 年度生活支援コーディネーター活動報告

[第3回]

期 日 平成 30 年 3 月 20 日(火)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 3 階大会議室
出席者 14 人
内 容 支え合い推進委員の役割について
平成 29 年度生活支援コーディネーター活動報告
新しい日常生活圏域について

⑥生活支援ボランティア入門講座

生活支援ボランティア活動への参加拡大を図るため、生活支援に特化したボランティア入門講座を各区で実施した。

【葵区】

ア シニアボランティア講座（生活支援ボランティア入門講座）

期 日 平成 29 年 9 月 19 日(火)～10 月 10 日(火) 全 4 回
会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室

内 容	第1回「生活支援ボランティアって？」 第2回「身近な地域の生活課題を考える」 第3回「地域で活躍する住民組織・ボランティア」 第4回「講座の振り返りとまとめ」
参加者	20人

【駿河区】

ア 生活応援ボランティア講座 入門編

期 日	平成 29 年 10 月 26 日(木)～11 月 30 日(木) 全 5 回
場 所	南部生涯学習センター ホール
内 容	第1回「なぜ地域での支え合いが必要か」 第2回「高齢者が地域で安心して暮らすために」 第3回「障がいのある方の地域での暮らしについて」 第4回「子どもの貧困問題と支援策について」 第5回「活動報告、今後に向けて」
参加者	23人

【清水区】

ア 生活支援ボランティア入門講座「生活お助け CAR BOY」

期 日	平成 29 年 8 月 24 日(木)～9 月 7 日(木) 全 3 回
会 場	静岡市清水社会福祉会館 4 階機能訓練室
内 容	第1回「ボランティア活動について」 「地域における支え合いの必要性について」 第2回「移送サービスにおける安全技術の進化」 「ドライバーと乗客を守る安全技術について」 「ドライバーの負担を軽減させる取り組み」 「運転ボランティアでの注意点」 第3回「地域における運転ボランティアの実践事例」
参加者	26人

⑦生活支援ボランティアフォローアップ講座

生活支援ボランティア入門講座受講修了者を主な対象として、ボランティア活動の組織化や活動後の支援を行うため、フォローアップ講座を実施した。

【葵区】

ア シニアボランティアフォローアップ講座(生活支援ボランティアフォローアップ講座)

期 日	平成 30 年 1 月 23 日(火)～平成 30 年 2 月 13 日(火) 全 4 回講座
場 所	静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 3 研修室
内 容	第1回「私にできることを考える」 第2回「気付き力を高める」 第3回「ボランティア活動体験」 第4回「体験報告会と今後の取り組み」
参加者	10人

【駿河区】

ア 生活応援ボランティア講座 フォローアップ編

期 日	平成 30 年 2 月 14 日(水)～3 月 9 日(金) 全 4 回
場 所	南部生涯学習センター ホール、3 階第 3 集会室
内 容	第1回「ボランティア活動に必要なスキルを学ぶ」

第2回「高齢者の特性と関わりについて」

第3回「ボランティア活動体験」

第4回「体験の振り返りとまとめ」

参加者 20人

【清水区】

ア ボランティアフォローアップ講座「生活お助け CAR BOY フォローアップ講座」

期日 平成30年2月22日(木)～3月15日(木) 全4回

会場 静岡市清水社会福祉会館 3階大会議室

内容 第1回 自分が目指すCAR BOY像って？

「事例から考えるCAR BOYのあり方」「体験発表」

第2回 利用者を理解しよう

「障がい者、介護についての知識を身に付けよう」

「活動中のコミュニケーション技術を学ぼう」

第3回 リフト車講習

「そよかぜの会の車椅子リフト付き・スロープ付車両の乗り方を学ぼう」

「緊急時に備えた対応(安全・安心な運転と緊急時の対応)」

第4回 CAR BOY実践

「今までの経験を生かして今日からあなたもCAR BOY！」

参加者 9人

⑧生活支援を目的とした地域ボランティアグループの組織化

介護保険制度や障害者総合支援法等の制度の狭間の福祉課題や生活課題の解決に向け、依頼内容とボランティアの調整を行い、課題解決に向けた取り組みを行った。

また、定例会等に職員が参加し、活動を支援した。

【葵区】

[生活応援しづおか(SOS)]

会員数 30人

活動延べ数 418人

依頼者数 27件

活動内容 話し相手、部屋の片付け、衣類整理、引越し荷造り、代筆等

【駿河区】

[生活応援ボランティアするが]

会員数 32人

活動延べ数 152人

依頼者数 12件

活動内容 話し相手、部屋の片付け、草取り、趣味活動支援等

【清水区】

[ちょいボラクラブ]

会員数 12人

活動延べ数 576人

依頼者数 51件

活動内容 部屋の片付け、物品整理、運搬等

⑨生活支援コーディネーター会議の開催

地域福祉活動の状況等を共有し、地域支援の方向性について調整及び協議を行うため、市域担当者と区域コーディネーターとの調整会議、区内での生活支援コーディネーターの連絡会議を区ごと毎月定期的に開催した。

⑩先進地視察研修の実施

生活支援体制整備事業推進に関する先進地であり、人口規模や推進体制が近い新潟市への視察研修を実施した。市域の協議体を運営し、本事業推進のための戦略を立てている行政担当課及びモデル事業として位置づけられている「実家の茶の間」へ伺った。

期 日 平成 30 年 2 月 13 日(火)～14 日(水)

会 場 新潟市福祉部地域包括ケア推進課(新潟市中央区学校町通 1 番町 602-1)
「実家の茶の間紫竹」(新潟市東区 4-21-62)

内 容 新潟市における生活支援体制整備事業の取り組みについて
実家の茶の間紫竹へ訪問、活動参加

参加者 葵 区 嘱託員 池ヶ谷真理
駿河区 嘱託員 阿部理絵
清水区 主 任 大澤佑介
地域福祉推進課 主 事 雨宮徹也

(4) 地域で支える仕組みづくり事業の推進

それぞれの地域において、地区社協活動支援、福祉教育事業、ボランティアコーディネート、相談事業を一体的に実施することにより、地域で支える仕組みづくり事業の推進を図った。

①自治会、関係機関との連携事業

地域福祉活動を進める上で地元自治会連合会や地域包括支援センター、児童館等の関係機関との連携は不可欠であることから、関係機関や関係者と密に連携を取り、支援ネットワークを構築するため、会議等を実施した。

【葵区】

ア 自治会における連携事業

i)井宮北地区自治会連合会

期 日 平成 30 年 1 月 12 日(金)
会 場 秋山公民館
内 容 地域資源の把握と共有化
参加者 15 名

イ 城東圏域地域ケア会議出席

支援ネットワークを構築するため、城東地域包括支援センター主催の職種別、地域別ケア会議に出席した。

i)司法書士との地域ケア会議

期 日 平成 30 年 1 月 16 日(火)
会 場 静岡市中央福祉センター 大会議室
内 容 講話「任意後見制度と成年後見制度について」、グループワーク
対 象 司法書士、居宅介護支援事業所、城東地域包括支援センター職員、
市社協職員

ii)障害(児)者支援事業所との地域ケア会議

期 日 平成 29 年 10 月 19 日(木)
会 場 静岡市中央福祉センター 大会議室

内 容 講話「引きこもりの方への支援方法と DanDan の役割」
「引きこもりの方への支援方法と障害者協会の役割」
「静岡市暮らし・しごと相談支援センターの役割」
グループワーク
対 象 静岡市ひきこもり地域支援センターDanDan しづおか、
障害(児)者支援事業所、城東地域包括支援センター職員、市社協職員

iii) 歯科医師との地域ケア会議

期 日 平成 30 年 2 月 14 日(水)
会 場 静岡市中央福祉センター 大会議室
内 容 歯科医師からの講話「訪問歯科診療の現状」、意見交換
対 象 歯科医師、居宅介護支援事業所、城東地域包括支援センター職員、
市社協職員

iv) 井川地区地域ケア会議

[第 1 回]

期 日 平成 29 年 7 月 12 日(水)
会 場 井川地区薬沢公民館
内 容 出席者からの報告と課題についての話し合い ほか
対 象 井川地区民生委員、児童委員、井川地区社協、井川交番、井川郵便局、
JA 井川支店、井川高齢者生活支援センター、城東地域包括支援
センター職員、市社協職員ほか

[第 2 回]

期 日 平成 29 年 11 月 14 日(火)
会 場 井川地区薬沢公民館
内 容 協議事項
「高齢者の見守りを地域でどのように進めていくのかについて」ほか
対 象 井川地区民生委員・児童委員、井川地区社協、井川交番、井川診療所、
井川地区ほのぼの会、北部保健福祉センター、井川高齢者生活支援
センター、城東地域包括支援センター職員、市社協職員

ウ 相談機関連携会議の開催

地域包括ケアシステムの構築を推進するため、障がい及び児童分野の相談窓口である事業所との連携を図り、地域支援等地域力の向上を目的に情報交換会の開催や連携会議に出席した。

i) 障害者相談支援事務局及び連絡調整会議

期 日 毎月 1 回(第 2 火曜日) 年 12 回
会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 3 研修室
内 容 障害者相談支援事業所間の情報共有
個別相談ケース(困難事例)への支援対策検討
出席者 障害者基幹相談センター、委託相談事業所、計画相談事業所
地域リハビリテーション推進センター、障害者福祉課、
精神保健福祉課、障害者支援課

ii) 葵区児童館連携会議

[第 1 回]

期 日 平成 29 年 6 月 27 日(火)
会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 1 階第 1 会議室
内 容 葵区児童館連絡会の目的、事業内容について

[第2回]

期日 平成29年11月28日(火)
会場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 1階第1会議室
内容 個別事例検討会(グループワーク)

[第3回]

期日 平成30年1月17日(水)
会場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3階第3研修室
内容 講演「児童ソーシャルワーカーを迎えて」
葵区民生委員児童委員協議会主催の研修会に同席させていただいた。

【駿河区】

ア 駿河区児童館連絡会

地域の社会資源の発掘や地域福祉活動の活性化について、情報共有や検討を行うほか、子育て支援機関との情報共有を行った。

期日 平成29年5月18日(木)、7月12日(水)、11月1日(水)、
平成30年2月 7日(水)
会場 静岡市長田児童館、静岡市中島児童館
内容 児童館における課題、意見交換、相談支援機関との情報共有

②地域福祉コーディネーター研修

各区地域福祉推進センターに配置されている地域福祉コーディネーターの資質向上を目的に研修を実施した。

期日 a 平成29年9月12日(火)、b 9月27日(水)
会場 a 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3階第3会議室
b 静岡市清水社会福祉会館 3階 大会議室
出席者 a 6人 b 15人
内容 a コーチトレーニング
b ワーカーからの「物語」の伝え方と、価値観を共有する関係構築のグループワーク
講師 首都大学東京 人文社会学部 人間社会学科 准教授 室田信一氏

(5)民生委員・児童委員研修事業

民生委員・児童委員の活動に必要な知識や技術の習得を目的として研修を実施した。

①市域を対象とした研修会

ア 全体研修会

期日 平成29年7月20日(木)
会場 静岡市清水文化会館 大ホール
参加者 999名
講演 「地域共生社会をどうつくるか」～孤立と困窮を生まないまちづくり～
講師 中央大学 法学部 教授 宮本太郎氏

イ 地区民生委員児童委員協議会正副会長・会計研修会

期日 平成30年2月26日(月)
会場 静岡県コンベンションアーツセンター 6階交流ホール
参加者 180名
内容 地区民児協会計事務について
実績報告書並びに活動負担金請求書の提出について

民生委員・児童委員活動記録について

説明 静岡市保健福祉長寿局健康福祉部
福祉総務課地域福祉・人権擁護係 主事 武田千穂 氏

ウ 主任児童委員研修会

期日 平成 29 年 9 月 21 日(木)
会場 静岡県コンベンションアーツセンター 6 階交流ホール
参加者 161 名
講演 「主任児童委員に期待すること」
講師 明治学院大学 学長 松原康雄氏

エ 人権啓発講演会

期日 平成 30 年 2 月 3 日(土)
会場 静岡市清水文化会館 大ホール
参加者 580 名
講演 「LGBT のことそして人権 -誰もが生きやすい社会へ-」
講師 弁護士 南 和行氏

オ 正副会長研修会

期日 平成 30 年 3 月 5 日(月)
会場 静岡県総合社会福祉会館 703 会議室
参加者 128 名
講演 「単位民児協の運営について」～地域住民や専門職との連携や協働～
講師 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 社会福祉学科 教授 金井 敏氏

カ 中堅民生委員・児童委員研修会

期日 平成 29 年 6 月 27 日(火)
会場 静岡県コンベンションアーツセンター 11 階会議ホール「風」
参加者 335 名
講演 「社会福祉の現状と民生委員活動のポイント」
講師 KT 福祉研究所 代表 松藤和生氏

キ 新任民生委員・児童委員研修(3回目)

期日 葵 区 平成 29 年 5 月 17 日(水)
駿河区 平成 29 年 5 月 15 日(月)
清水区 平成 29 年 5 月 29 日(月)
会場 葵 区 静岡県コンベンションアーツセンター 1001-1・2 会議室
駿河区 静岡県コンベンションアーツセンター 1001-2 会議室
清水区 静岡県コンベンションアーツセンター 6 階交流ホール
参加者 489 名
内 容 行政から制度等の説明
 介護保険制度について (高齢介護課)
 介護保険で利用できるサービスについて (高齢介護課)
 障害者福祉制度について (障害者支援課)
 障害者手帳に関するサービスについて (障害者支援課)
 福祉票の取り扱い及び書き方について (生活支援課)
 活動記録の取り扱い及び書き方について (生活支援課)

②各部会

【葵区】

ア 地域福祉部会

【第1回】

期 日 平成 29 年 7 月 27 日(木)

会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室

参加者 89 名

講 演 「地域福祉とは」

講 師 薺科北地区民児協 静岡大学名誉教授 小桜義明氏

【第2回】

期 日 平成 29 年 8 月 21 日(月)

会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室

参加者 87 名

講 演 「油断大敵、身の用心」

講 師 静岡中央警察署 交通安全課 係長 西澤洋二氏

イ 高齢者福祉部会

【第1回】

期 日 平成 29 年 6 月 30 日(金)

会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室

参加者 87 名

講 演 「健康長寿の生き方と逝き方」

講 師 薺科北地区民児協 静岡大学名誉教授 小桜義明氏

【第2回】

期 日 平成 29 年 8 月 28 日(月)

会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室

参加者 88 名

講 演 「交通ルールと事故防止策」

講 師 静岡県交通安全協会静岡中央地区支部 しづてつジャストライン(株)

ウ 児童福祉部会

【第1回】

期 日 平成 29 年 6 月 29 日(木)

会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室

参加者 85 名

講 演 「児童養護施設の現状」

講 師 児童養護施設 静岡ホーム 園長 藤田一敏氏

【第2回】

期 日 平成 29 年 8 月 31 日(木)

会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室

参加者 80 名

講 演 「子ども食堂」について

講 師 静岡県社会福祉協議会福祉企画部地域福祉課 主幹 木村 綾氏

竜南ひまわり子ども食堂 代表 宮下綾子氏

工 障害児(者)福祉部会

【第1回】

期 日 平成 29 年 5 月 29 日 (月)
会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室
参加者 80 名
講 演 「障がい児(者)理解と支援」
～障がい者の方からのお話をとおして～

講 師 Cut in KOZO 森崎興藏氏

【第2回】

期 日 平成 29 年 7 月 31 日 (月)
会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室
参加者 86 名
講 演 「障がい児(者)の支援と理解」
講 師 静岡市保健福祉長寿局健康福祉部
障害者福祉課 参事兼課長補佐 鈴木秀一氏

オ 主任児童委員部会

【第1回】

期 日 平成 29 年 5 月 25 日 (木)
会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室
参加者 40 名
講 演 「子育てハンドブックについて」
～何かあったときにどこにつなげたら良いのか～
講 師 静岡市子ども未来局子ども未来課 課長補佐兼企画調整係長 阿部薰夫氏
企画調整係主任主事 高松恵太氏
静岡市子ども未来局子ども家庭課 ひとり親家庭支援係長 望月正也氏
母子保健係主任保健師 石川節子氏

【第2回】

期 日 平成 29 年 6 月 30 日 (金)
会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室
参加者 34 名
講 演 「子ども達がその子らしく生きていけるように」
講 師 NPO 法人なのはな 代表 岡村由紀子氏

【駿河区】

ア 地域福祉部会

【第1回】

期 日 平成 29 年 6 月 2 日 (金)
会 場 静岡県コンベンションアーツセンター 1001-1 会議室
参加者 58 名
講 演 「生活保護制度の現状と役割～民生委員との連携～」
講 師 静岡市駿河福祉事務所生活支援課 課長 服部憲文氏
講 演 「生活困窮者と民生委員・児童委員の関わり」
講 師 静岡市暮らし・しごと相談支援センター所長 安藤千晶氏

【第2回】※地域福祉部会・高齢者福祉部会 合同部会

期 日 平成 29 年 10 月 3 日 (火)
会 場 静岡県コンベンションアーツセンター 1001-2 会議室

参加者 113名
講 演 「おいさんえびすケア会議について」
～地域での支え合い・助け合い活動の事例事項～
講 師 入江地区民児協会長
おいさんえびすケア会議 代表 稲田精三氏

イ 高齢者福祉部会

【第1回】

期 日 平成 29 年 6 月 13 日(火)
会 場 静岡県コンベンションアーツセンター 910 会議室
参加者 60 名
講 演 「高齢支援者と民生委員の関わり」
～包括センターの活動を中心にして～
講 師 大里中島地域包括支援センター 所長 小高球恵氏

【第2回】※地域福祉部会、高齢者福祉部会 合同部会

期 日 平成 29 年 10 月 3 日(火)
会 場 静岡県コンベンションアーツセンター 1001-2 会議室
参加者 113 名
講 演 「おいさんえびすケア会議について」
～地域での支え合い・助け合い活動の事例事項～
講 師 入江地区民児協会長
おいさんえびすケア会議 代表 稲田精三氏

ウ 児童福祉部会

【第1回】

期 日 平成 29 年 6 月 15 日(木)
会 場 静岡県コンベンションアーツセンター 910 会議室
参加者 59 名
講 演 a 「児童福祉部会について」
b 「子どもの幸せを考えるために」
c 「里親の体験談」
講 師 a 静岡市民生委員児童委員協議会 事務局長 村松伸隆
b NPO 法人静岡市里親家庭支援センター 事務局長 望月秀樹氏
c 養育里親・専門里親 窪谷容子氏

【第2回】

期 日 平成 29 年度 10 月 6 日(金)
会 場 社会福祉法人 静岡ホーム
参加者 57 名
内 容 静岡ホームの施設の概要及び質疑応答

エ 障害児(者)福祉部会

【第1回】

期 日 平成 29 年 6 月 29 日(木)
会 場 静岡県コンベンションアーツセンター 1001-1 会議室
参加者 59 名
講 演 「障害者手帳と民生委員として知ってほしいこと」
講 師 静岡市駿河福祉事務所障害者支援課 課長補佐兼支援係長 蟹名倫代氏

【第2回】

期 日 平成 29 年 10 月 2 日(月)
会 場 静岡県コンベンションアーツセンター 910 会議室
参加者 61 名
講 演 「障がい(児)者の災害時要援護者避難支援について」
講 師 西豊田地区民生委員児童委員協議会 前会長 青山文代氏

オ主任児童委員部会

【第1回】

期 日 平成 29 年 6 月 20 日(火)
会 場 南部生涯学習センター 第 3 集会室
参加者 32 名
講 演 「子ども支援と主任児童委員の関わり」
～家庭児童相談室の活動を中心に～
講 師 静岡市駿河福祉事務所子育て支援課家庭児童相談室 係長 松下龍一氏
ブロック交流会
家庭児童相談室見学

【第2回】

期 日 平成 29 年 10 月 17 日(火)
会 場 南部生涯学習センター 第 3 集会室
参加者 31 名
講 演 「見ようとしなければ見えない」
～「子どもの貧困」をめぐる現状&必要とされる支援～
講 師 独立型社会福祉事務所 子どもと家庭の相談室
寺子屋 お～ぷん・どあ 共同代表
一般社団法人 てのひら 代表理事
静岡市教育委員会 SSWr&SVr 川口正義氏

【清水区】

ア 地域福祉部会

【第1回】

期 日 平成 29 年 5 月 26 日(金)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 6 階多目的ホール
参加者 84 名
内 容 グループ討議
民生委員児童委員の活動にかかる用語の確認
自分自身や地域での民生委員児童委員の取り組み

【第2回】

期 日 平成 29 年 9 月 12 日(火)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 6 階多目的ホール
参加者 74 名
内 容 グループ討議
民生委員児童委員としての活動、取り組みを紹介し合う
各グループの話し合いの様子を発表

【第3回】

期 日 平成 30 年 2 月 1 日(木)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 6 階多目的ホール

参加者 78名
内 容 グループ討議
第二回研修の話し合い結果の発表
条文の確認
第二回研修会の職務の分類
分類結果の発表

イ 高齢者福祉部会

【第1回】

期 日 平成 29年 6月 2日(金)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 6階多目的ホール
参加者 82名
内 容 グループ討議
地域に住む高齢者の福祉ニーズを学ぶ

【第2回】

期 日 平成 29年 9月 26日(火)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 6階多目的ホール
参加者 70名
内 容 グループ討議
在宅高齢者の福祉のニーズを考える

【第3回】

期 日 平成 30年 1月 29日(月)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 6階多目的ホール
参加者 80名
内 容 グループ討議
高齢者福祉ニーズの事例について

ウ 児童福祉部会

【第1回】

期 日 平成 29年 6月 30日(金)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 3階大・中会議室
参加者 81名
講 演 「静岡市の子育て支援施策」
講 師 静岡市清水福祉事務所子育て支援課 課長 伏見和芳氏

【第2回】

期 日 平成 29年 10月 23日(月)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 3階大・中会議室
参加者 89名
講 演 「相談支援の心構えと要点」～傾聴のポイント～
講 師 ふるい後見事務所 社会福祉士 古井慶治氏

エ 障害児(者)福祉部会

【第1回】

期 日 平成 29年 5月 24日(水)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 3階大・中会議室
参加者 77名
講 演 「障がい福祉制度と障がいのある人への配慮」
講 師 静岡市保健福祉長寿局健康福祉部

障害者福祉課 参事兼課長補佐 鈴木秀一氏

【第2回】

期 日 平成 29 年 9 月 25 日(月)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 3 階大・中会議室
参加者 84 名
講 演 「知的障がいのある人が地域で安心して暮らすために」
～キャラバン隊の公演より考える～
講 師 静岡市清水手をつなぐ育成会 キャラバン隊ダイパニック

【第3回】

期 日 平成 30 年 1 月 25 日(木)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 6 階多目的ホール
参加者 80 名
内 容 グループ討議
障がい者の現状や悩み、課題等を理解し、民生委員としてどのように接したらよいのかを協議

オ主任児童委員部会

【第1回】

期 日 平成 29 年 6 月 14 日(水)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 3 階大会議室
参加者 38 名
内 容 主任児童委員活動の具体化について
平成 28 年度全国主任児童委員研修会報告
各ブロックでの話し合い

【第2回】

<中部ブロック>
期 日 平成 29 年 11 月 10 日(金)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 2 階ワークスペース
参加者 11 名
テーマ 学校・地域との関わり

<東部ブロック>

期 日 平成 29 年 10 月 19 日(木)
会 場 興津生涯学習交流館中会議室 1
参加者 12 名
テーマ 東ブロック内各地区の現状の把握と情報交換

<南部ブロック>

期 日 平成 29 年 10 月 13 日(金)
会 場 駒越南部交流センター小会議室
参加者 10 名
テーマ 子育て支援活動について、主任児童委員の任務について

<北部ブロック>

期 日 平成 29 年 10 月 11 日(水)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 3 階中会議室
参加者 12 名
テーマ 地域との関わり

【第3回】

期日 平成30年2月27日(火)
会場 静岡市清水社会福祉会館 6階多目的ホール
参加者 112名
講話 「ママが笑顔になる子育て支援」
講師 AMI助産院 院長 近藤亜美氏

③全民児連等各大会・研修会への参加

ア 関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会

期日 平成29年9月28日(木)～29日(金)
会場 NASPA ニューオータニ(新潟県南魚沼郡)
参加者 正副会長等9名、事務局2名 計11名

イ 都道府県・指定都市民児協事務局会議

期日 平成29年5月30日(火)
会場 東京ビッグサイト 605～606会議室
参加者 市民児協事務局長

ウ 指定都市社協・民児連連絡協議会

期日 平成29年8月24日(木)～25日(金)
会場 ANAクラウンプラザホテル新潟(新潟県新潟市)
参加者 市民児協会長、市民児協事務局長(地域福祉部部長)
市社協会長、市社協常務理事 計4名

エ 全国主任児童委員研修会(東日本)

期日 平成29年9月14日(木)～9月15日(金)
会場 東京ベイ幕張ホール(千葉県千葉市)
参加者 主任児童委員 6名

オ 民生委員・児童委員のための相談技法研修会(傾聴研修)

期日 平成29年8月21日(月)～22日(火)
会場 新横浜国際ホテル(神奈川県横浜市)
参加者 民生委員・児童委員 3名

カ 全国民生委員児童委員大会

期日 平成29年7月9日(日)～10日(月)
会場 東京ビッグサイト(東京都)
参加者 各地区会長60名、元民生委員4名、事務局5名 計69名

キ 民生委員・児童委員リーダー研修会

期日 平成29年11月13日(月)～15日(水)
会場 TOC有明(東京都)
参加者 民生委員・児童委員 3名

ク 全国児童委員研究協議会

期日 平成30年1月24日(水)～25日(木)
会場 新横浜プリンスホテル(神奈川県横浜市)
参加者 地区民生委員児童委員協議会会长ほか 計6名

ケ 全国民生委員指導者研修会(民生委員大学)

期日 平成30年2月14日(水)～16日(金)
会場 ロフォス湘南 太宰ホール(神奈川県三浦郡葉山町)
参加者 地区民生委員児童委員協議会会长 3名

(6)区地域福祉推進センターの運営

各区に設置する地域福祉推進センターにおいて、次のとおり区地域福祉推進委員会を開催し、区域における福祉課題について協議し、地域住民による自主的な福祉活動を推進するための様々な活動や地域活動に対する検討を行った。

①組織を運営する会議の開催

ア 区地域福祉推進委員会

センターの円滑な運営と地域福祉課題を検討する会議の開催

区分	葵 区	駿河区	清水区
開催回数	3回	3回	3回

②広報啓発活動

ア 区の広報啓発活動

区別	活動内容
葵 区	<p>地域交流まつりへの参加</p> <p>開催日 平成 29 年 11 月 11 日 (土) 場 所 静岡市城東保健福祉エリア 内 容 はとなを作ろう！、パネル展示、休憩室、 中古衣料回収、フードドライブ、市民アンケート、 共同募金、移動児童館、スタンプラリー 来場者 約 3,500 人 ボランティア 33 名</p> <p>(VII-1 地域福祉交流プラザ指定管理事業(2)-④にも記載)</p>
駿河区	<p>駿河ふれあいふくしフェスタ</p> <p>開催日 平成 29 年 11 月 23 日 (木 祝) 10:00~14:00 会 場 東静岡アート&スポーツ／広場 内 容 作業所製品の販売、ステージ、遊びコーナー、 模擬店、活動紹介、古着、エコキャップ回収、スタンプラリー 来場者 約 2,200 人 参加団体 52 団体 ボランティア 53 名</p>
清水区	<p>i)地域福祉パネル展</p> <p>地区社協事業への理解促進とボランティア活動への参加呼びかけのためのパネル展を 6 か所で開催</p> <p>a 平成 29 年 10 月 15 日 (日) 江尻地区 b 平成 29 年 10 月 22 日 (日) 袖師地区 c 平成 29 年 10 月 22 日 (日) 飯田地区 d 平成 29 年 11 月 5 日 (日) 船越地区 e 平成 29 年 11 月 12 日 (日) 辻地区</p> <p>ii)その他</p> <p>社会福祉資料の利用促進、ポスターの配布、そのほか市広報紙、タウン紙、報道機関等を通じた広報の実施。</p>

改善事項

(1)日常生活圏域生活支援コーディーターの配置

地域における支え合いの仕組みづくりをすすめるため、日常生活圏域 8 地区を含む 16 圏域 49 地区で住民と共に活動する生活支援コーディネーター 10 名を配置した。地域づくり会議や地区福祉懇談会、アンケート調査による地域課題の抽出と共有化に取り組み、住民の支え合い活動に対する意識化をすすめた。その結果、平成 29 年度中に「居場所」16 か所、「地域内の助け合いの会」13 か所が立ち上がり、地域における支え合い活動が新たに実施された。

(2)駿河区及び清水区「地区社協連絡会」の創設

地区社協間の連携や自主的、主体的な区の地域福祉活動の推進を実現することを目的に地区社協連絡会の組織化に取組み、駿河区及び清水区において「地区社協連絡会」を創設した。これにより既に組織化されている葵区を含め 3 区で地区社協連絡会が設立できた。

課題

(1)具体的で客観的な活動計画目標の指標化と PDCA サイクルによる活動の推進

住民、福祉関係者及び福祉事業者、福祉分野以外の公私の関係者等、全ての人が理解し、実践することができる地域福祉活動計画後期実施計画を策定するとともに、今後の事業展開を計画的にすすめる礎となるため、具体的で客観的な活動計画目標の指標化と PDCA サイクルによる活動の推進が課題である。

(2)地域での支え合いの仕組みづくりをすすめる地域づくり会議の設置

地域での支え合いの仕組みづくりをすすめるためには、地域住民が地域の課題に気づき、その解決に向け継続的に検討、協議を行っていく地域づくり会議の設置が必要である。とりわけ地域内の諸団体の連携や共有化が十分にとれていない地域においての設置をすすめていく必要がある。

(3)地域支え合い推進員の選出

地域特性や地域諸団体の関係性により支え合いの仕組みづくり活動の推進に活動差が生じている。それら地域においては本会との窓口となる地域のキーパーソンが不在であることから、本会と地域の窓口となる地域支え合い推進員の選出を、自治会連合会の区域を基準に設置される協議体の中で選出をお願いしていく。

(4)生活支援コーディネーターの支援スキルの向上

地域共生社会の実現に向けて支え合いの地域づくりに、より一層取り組み、具体的な支え合い活動を地域に定着させていくことが求められている。

そのため生活支援コーディネーターが地域支援を行っているが、職員の経験値により支援の視点や内容も一様ではなく地域支援の視点や支援内容の共有化やスキルの向上が課題である。

2 ボランティアセンター運営事業

静岡、清水のボランティア・市民活動センターを拠点として、ボランティア啓発事業やボランティア養成講座を開催し、市民のボランティアへの参加促進に努めた。

さらに、市民とボランティア活動を結ぶ窓口となるボランティア・市民活動センターを広く市民に知ってもらうために、パンフレットを作成し窓口で配布するとともにボランティア団体名簿を作成する等、広報啓発やボランティア活動促進のための連絡調整に努めた。

平成 27 年度より市より受託し運営をしている高齢者の介護予防と社会参加を目的にしたボランティアポイント制度「静岡市元気いきいき！シニアサポートー事業」は、サポートー及び活動場所となる施設、団体の登録と市民への浸透を図った。

(1)ボランティア活動の啓発

①ボランティア・市民活動キャラクター「はとな」を活用した啓発

ボランティア・市民活動キャラクター「はとな」をプリントしたTシャツを本会主催の各種イベントで販売し、子どもから大人まで幅広い年齢層を対象とした啓発活動を行った。

点数	はとな啓発費
147 点	29,400 円

(2)ボランティア活動情報の収集と提供

①ボランティア情報コーナーの設置

ボランティア活動を希望する市民が、ボランティア活動の情報を収集できるように、市内社会福祉施設やボランティア団体の活動情報を集めた「情報提供コーナー」をボランティア・市民活動センター内に設置し、ボランティア活動への参加のきっかけづくりを行った。

(3)ボランティアの育成及び組織化

①静岡市元気いきいき！シニアサポートー事業

65 歳以上のシニア世代の介護予防を目的として、市内の指定活動先でボランティア活動をするとポイントがたまり、静岡市の地場産品との交換ができる「静岡市元気いきいき！シニアサポートー事業」の管理運営業務を実施した。

ア 登録数

項目	葵区	駿河区	清水区	合計
サポートー	2,144 人	1,632 人	2,532 人	6,308 人
受入機関	247 か所	196 か所	284 か所	727 か所

イ 登録説明会の開催

i)サポートー登録説明会

サポートー登録希望者に向けた登録のための説明会を 36 回開催した。

ii)受入機関登録説明会

受入機関登録希望施設に向けた登録のための説明会を 27 回開催した。

iii)出張サポートー登録説明会

サポートー登録希望者に向けた登録のための説明会を指定会場で 80 回開催した。

iv)出張受入機関登録説明会

受入機関登録希望施設に向けた登録のための説明会を指定会場で1回開催した。

ウ マッチングイベント(活動先大相談会)の開催

各区で介護施設とサポーターとの活動先や活動内容を調整するイベントを行った。

i)葵区会場

開催日 平成30年2月8日(木)

場 所 静岡市城東保健福祉エリア

参加者 11団体 43人

内 容 サポーターの活動先の調整、情報交換、サポーター新規登録、ボランティア相談

ii)駿河区会場

開催日 平成29年8月4日(金)

場 所 駿河生涯学習センター

参加者 13団体 29人

内 容 サポーターの活動先の調整、情報交換

iii)清水区会場

開催日 平成29年12月4日(月)

場 所 静岡市清水社会福祉会館

参加者 10団体 27人

内 容 サポーターの活動先の調整、情報交換、サポーター新規登録、ボランティア相談

エ 受入機関活動報告件数

活動別	集計方法	種類	平成29年度	平成28年度
活動先事業所数 【か所】	実数	介護施設	183	208
		S型	254	246
		在宅支援	93	86
	延べ数	介護施設	1,324	1,383
		S型	2,737	2,696
		在宅支援	711	546
活動者数 【人】	実数		4,901	4,587
	延べ数		73,357	73,137

オ ポイント交換申請

年度	平成29年度	平成28年度
申請者数 【人】	4,272	3,977
申請ポイント【ポイント】	18,066,000	14,373,000

②ボランティア登録制度「ボランティア・はとなバンク」

市民や団体、企業が持つ特技や資格をボランティア活動につなげる「ボランティア・はとなバンク」の登録を、広報紙での周知や事例紹介を通して行った。

登録数の推移（件数）

区分	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
個人(人)	98	87	79	71	57
団体、企業(団体)	40	37	35	30	25
合計	138	124	114	101	82

③アイボランティア入門講座【ボランティア・市民活動センター清水】

視覚障がいへの理解とコミュニケーションを深め、視覚障がい者を支援するボランティア養成することを目的に開催した。

期 日 平成 29 年 6 月 6 日(火)～7 月 25 日(火) 全 4 回

会 場 静岡市清水社会福祉会館 3 階中会議室及び 6 階多目的ホール

内 容 視覚障がいと視覚障がい者を知る、ガイドヘルプ、外出支援、懇談会等

参加者 受講者数 13 人（内修了者 10 人）

④出張ボランティア講座(地区社会福祉協議会協働事業)

日常生活上の困りごとを抱える住民に対し、近隣住民が見守りや生活支援活動を進めていくきっかけを作るための講座を地区社会福祉協議会と協力して開催した。

【葵区】

ア 地域ボランティア対象

i) 横内地区社協

福祉委員研修

期 日 平成 29 年 12 月 5 日(火)

会 場 静岡市城東保健福祉エリア

内 容 今後の福祉活動について、支え合い活動事例紹介

参加者 20 人

ii) 城北地区社協

役員研修会

期 日 平成 29 年 8 月 24 日(木)

会 場 遊水地会館

内 容 支え合い活動の必要性

参加者 54 人

S 型デイサービス合同研修

期 日 平成 30 年 2 月 3 日(土)

会 場 つばさ静岡

内 容 レクリエーション研修

参加者 79 人

iii) 麻機地区社協

S 型デイサービス合同研修

期 日 平成 30 年 2 月 5 日(月)

会 場 大野木荘

内 容 ボランティア概論、レクリエーション研修

参加者 35 人

iv)千代田東地区社協

S型デイサービス合同研修

期 日 平成 29 年 11 月 17 日(金)
会 場 JA 上土支店 会議室
内 容 レクリエーション研修
参加者 70 人

v)西奈南地区社協

役員研修会

期 日 平成 29 年 11 月 25 日(土)
会 場 瀬名川公民館
内 容 地区社協、ボランティア概論
参加者 42 人

vi)賤機南地区社協

S型デイサービスボランティア研修

期 日 平成 30 年 1 月 30 日(火)
会 場 松富第 1 公民館
内 容 レクリエーション研修
参加者 60 人

vii)服織地区社協

期 日 平成 29 年 11 月 17 日(金)
会 場 薫科生涯学習センター
内 容 「たすけあいの会」に期待すること
参加者 35 人

イ 運転支援ボランティア入門講座【葵区】

期 日 平成 30 年 1 月 26 日(金)～2 月 23 日(金)全 4 回
場 所 北部生涯学習センター美和分館
内 容 第 1 回「ボランティア活動について、運転支援の必要性」
第 2 回「道路交通法における注意点、地域交通弱者への取り組み」
第 3 回「認特 丸子まちづくり協議会、運転ボランティアそよかぜ」
第 4 回「グループワーク」
参加者 44 人

【駿河区】

ア 出張ボランティア養成講座(西豊田地区)

期 日 平成 30 年 3 月 13 日(火)
会 場 静岡県立大学短期大学部 講堂
内 容 障がいまたは介護当事者の講話や宿泊型防災訓練の実施報告を通じ、地域における要援護者支援の重要性や課題を共有することを目的とし、「地域で取り組む要援護者支援シンポジウム」というテーマで開催した。
参加者 29 人

【清水区】

ア 出張ボランティア講座

地区社協役員や自治会役員、支え合い活動に関心のある住民を対象に、地域が抱える福祉課題を解決するための仕組みづくり、担い手づくりを進めることを目的に開催した。

i) 岡地区社協「岡地区支え合いボランティア研修会」

期日 平成 30 年 2 月 2 日(金)
会場 岡生涯学習交流館
参加者 岡ネットワーク推進委員、住民、岡地区社協役員・
自治役員等 計 38 名

ii) 駒越地区社協「駒越地区シニアサポートー懇談会」

期日 平成 30 年 2 月 27 日(水)
会場 駒越生涯学習交流館
参加者 駒越地区に住む 65 才以上の方、シニアサポートーに
登録している方 計 27 名

iii) 興津地区社協「おきつクラブで考える、趣味や特技を活かした地域貢献活動」

期日 平成 30 年 3 月 1 日(木)
会場 興津生涯学習交流館
参加者 興津地区社協役員・おきつクラブ会員等 計 16 人

iv) 庵原地区社協「地域で考える“ささえ合い”～今、まわりで起きていること～」

期日 平成 30 年 3 月 19 日(月)
会場 庵原生涯学習交流館
参加者 福祉なんでも相談電話ボランティア、庵原地区社協役員等 計 24 人

⑤介護支援者育成事業

在宅で家族を介護する人(介護者)の不安と孤立を防ぐため、介護情報の提供や交換を行いながら介護者同士の交流を通して仲間づくりをするための支援を行った。

また、事業実施にあたり介護パートナーズ養成講座修了生で結成された「あおい介護者パートナーズ」や「するが介護者パートナーズ」、「清水介護家族の会」、「ボランティアグループ『あい』」等の介護者支援団体やボランティアグループと連携し、各グループの育成につなげた。

【葵区】

ア 介護者ほッ！とおしゃべり会

期日、参加者

平成 29 年	4 月 20 日 (木)	参加者	13 人
平成 29 年	5 月 20 日 (土)	参加者	10 人
平成 29 年	6 月 20 日 (火)	参加者	14 人
平成 29 年	7 月 20 日 (木)	参加者	15 人
平成 29 年	8 月 20 日 (日)	参加者	15 人
平成 29 年	9 月 20 日 (水)	参加者	15 人
平成 29 年	10 月 20 日 (金)	参加者	10 人
平成 29 年	11 月 20 日 (月)	参加者	14 人
平成 29 年	12 月 20 日 (水)	参加者	20 人
平成 30 年	1 月 20 日 (土)	参加者	14 人
平成 30 年	2 月 20 日 (火)	参加者	17 人
平成 30 年	3 月 20 日 (火)	参加者	14 人

全 12 回 計 171 人

場所 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 1 階第 1 会議室ほか

内容 介護者同士のおしゃべり会

運営 あおい介護者パートナーズ

イ 介護者パートナーズ定例会

期日、参加者

平成 29 年	4 月 7 日 (金)	参加者	6 人
平成 29 年	5 月 11 日 (木)	参加者	9 人
平成 29 年	6 月 2 日 (金)	参加者	13 人
平成 29 年	7 月 7 日 (金)	参加者	12 人
平成 29 年	8 月 4 日 (金)	参加者	10 人
平成 29 年	9 月 1 日 (金)	参加者	9 人
平成 29 年	10 月 6 日 (金)	参加者	12 人
平成 29 年	11 月 2 日 (木)	参加者	18 人
平成 29 年	12 月 1 日 (金)	参加者	7 人
平成 30 年	1 月 5 日 (金)	参加者	11 人
平成 30 年	2 月 2 日 (金)	参加者	13 人
平成 30 年	3 月 2 日 (金)	参加者	10 人

全 12 回 計 130 人

場 所 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 1 階第 1 会議室ほか

内 容 介護者ほッ！とおしゃべり会の企画、介護についての学習会等

運 営 あおい介護者パートナーズ

ウ あおい介護者パートナーズ研修会

i)「社会福祉法人わらしな福祉会 りんどう」見学

期 日 平成 29 年 6 月 2 日 (金)

参加者 13 人

ii)「介護保険法改正について」

期 日 平成 29 年 10 月 6 日 (金)

参加者 12 人

エ あおい介護者パートナーズ養成講座

期 日 平成 30 年 2 月 6 日 (火)～2 月 27 日 (火) 全 4 回

会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 1 階第 1 会議室ほか

内 容 第 1 回「あおい介護者パートナーについて」

「ボランティアの心構え、注意点」

参加者 10 人

第 2 回「高齢社会における認知症の現状を知る」

「介護者ほッ！とおしゃべり会について」

参加者 9 人

第 3 回「介護者ほッ！とおしゃべり会」の見学

参加者 7 人

第 4 回「自身の介護体験について」、グループワーク

参加者 9 人

【駿河区】

ア するが介護者おしゃべり会

期日、参加者

平成 29 年	5 月 16 日 (火)	参加者	4 人
平成 29 年	6 月 15 日 (木)	参加者	6 人
平成 29 年	7 月 18 日 (火)	参加者	10 人
平成 29 年	9 月 15 日 (金)	参加者	2 人

平成 29 年 10 月 17 日 (火) 参加者 1 人
 平成 29 年 11 月 15 日 (水) 参加者 7 人
 平成 29 年 12 月 15 日 (金) 参加者 4 人
 平成 30 年 1 月 16 日 (火) 参加者 5 人
 平成 30 年 2 月 15 日 (木) 参加者 2 人
 平成 30 年 3 月 15 日 (木) 参加者 2 人
 全 10 回 計 43 人

場 所 南部生涯学習センター、長田生涯学習センター(7 月、11 月、2 月)
 内 容 介護者同士のおしゃべり会、情報交換
 運 営 するが介護者パートナーズ

イ 介護者を支えるボランティア講座

期 日 平成 30 年 3 月 8 日(木)、13 日(火) 全 2 回
 会 場 南部生涯学習センター 第 3 集会室
 内 容 第 1 回「傾聴の基本と心構え」
 第 2 回「超高齢社会と介護問題について」
 講 師 第 1 回 ふるい後見事務所 古井慶治氏
 第 2 回 静岡市駿河区大里中島地域包括支援センター 井出智子
 参加者 14 人

【清水区】

ア 高齢者・介護者応援ボランティア入門講座

期 日 平成 29 年 10 月 2 日(月)～12 月 19 日(火) 全 3 回
 会 場 静岡市清水社会福祉会館 3 階大・中会議室
 内 容 第 1 回「レクリエーションの必要性と効果」
 第 2 回「ゆうあい会『運動会』でのボランティア活動実践」
 第 3 回「高齢期における生活を助ける道具とその活用について」
 協 力 清水介護家族の会
 清水介護家族の会を支えるボランティア「あい」
 参加者 9 人

⑥ボランティア保険加入への受付業務

ボランティア活動中の事故や怪我を補償する保険の受付、加入者負担となる保険料の受領、事故発生時の保険請求手続きの支援を行った。

【ボランティア・市民活動センター静岡】 (件数 過去 5 か年)

	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
ボランティア活動保険	10,198	7,761	5,918	3,768	4,714
ボランティア行事用保険	270	282	260	367	304
送迎サービス補償/福祉サービス総合補償	15	14	20	20	18
合計	10,483	8,057	6,198	4,155	5,036

	(件数 過去 5か年)				
	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
ボランティア活動保険	2,764	3,775	3,428	4,114	3,630
ボランティア行事用保険	278	226	201	186	168
ふれあいサロン保険	53	55	57	65	66
送迎サービス補償/福祉サービス総合補償	3	4	2	5	9
合計	3,098	4,060	3,688	4,370	3,873

⑦収集活動の実施

ア エコキヤップ運動の実施

学校や企業、地域住民が、ペットボトルのキヤップ回収運動を通じて、ボランティア活動への参加への意識が向上することを目的にエコキヤップ運動への協力を推進した。

回収量 13,480kg

売却金額 72,792円(全額を「世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ寄付)

イ 使用済み切手の回収

市民等から使用済み古切手をいただき、社会福祉団体への寄付を通して活動協力を行った。

寄付先 「静岡光の家」

(4)ボランティアグループ・福祉団体等への支援

①静岡市ボランティア団体連絡協議会への支援

ボランティア活動の推進のため、ボランティア団体の活動に関する相談援助や情報提供、協議会定例会への出席等を随時行うとともに、主催事業への開催支援を行った。

ア 静岡地区ボランティア連絡会【ボランティア・市民活動センター静岡】

定期総会への出席(年1回)

運営委員会への出席(毎月1回 年12回)

いのちポカポカ街かどクリスマスの開催支援

イ 清水地区ボランティア連絡会【ボランティア・市民活動センター清水】

定期総会への出席(年1回)

役員会への出席(毎月1回 年12回)

定例会への出席(毎月2回 年24回)

歩こう会、研修会等の開催支援

(5)相談及びコーディネート

市民からのボランティア活動への参加相談や社会福祉施設等からボランティアの派遣依頼の相談を受け、専任のボランティアコーディネーターが活動団体との連絡調整や活動先の紹介や情報提供を行った。

主な活動 社会福祉施設内で利用者の話し相手、高齢者等への生活支援等

	(件数　過去5か年)									
	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度		平成25年度	
	静岡	清水	静岡	清水	静岡	清水	静岡	清水	静岡	清水
ボランティア活動への参加相談	98	53	97	56	69	145	71	149	63	145
ボランティアの派遣依頼相談	243	29	197	31	40	51	39	46	27	35
その他の相談	35	21	54	16	18	22	10	20	7	14
合計	376	103	348	103	127	218	120	215	97	194

(6)ボランティア拡大のための基盤整備

①ボランティア・市民活動センター運営委員会の開催

ボランティア・市民活動センターの事業運営にかかる事項を協議するため、運営委員会を開催した。

[第1回]

期日 平成29年7月6日(木)
 会場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟3階 第1・2研修室
 内容 趣旨説明 ボランティア・市民活動センターについて及び運営委員会について
 協議 運営委員会委員長、副委員長の選任について
 平成29年度、平成30年度の運営委員会の開催計画について
 報告 平成28年度ボランティア事業報告

出席者 12人

[第2回]

期日 平成29年11月16日(木)
 会場 静岡市清水社会福祉会館 3階 大・中会議室
 内容 報告 シニア世代のボランティア活動の現状と課題について
 静岡市社会福祉協議会におけるシニア世代のボランティア支援内容と課題について
 協議 Aグループ『新たにボランティアをしたい人へのアプローチ方法とは』
 Bグループ『65歳のあなたが参加したい魅力あるボランティア活動とは』

出席者 12人

[第3回]

期日 平成30年2月15日(木)
 会場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟1階 ボランティア交流室
 内容 協議 今後必要とされるシニアボランティア活動について
 出席者 10人

②休日及び夜間ボランティア・市民活動センター開館【ボランティア・市民活動センター清水】

平日の夜間及び土曜日、日曜日にボランティア・市民活動センターを開館し、活動に関する相談や活動場所の貸し出し、管理を行った。管理運営は、清水地区ボランティア連絡会の役員をはじめとするボランティア活動実践者が行った。

相談件数 29件

開設日 年間332日 従事スタッフ延べ509人

(7) 災害時のボランティア活動支援

① 災害ボランティアセンター運営協議会の開催

災害ボランティア本部（情報渉外センター、市内3か所の地区ボランティアセンター）の体制強化を目的に、災害ボランティアコーディネーター団体、静岡青年会議所、静岡市と開設や運営に関する協議を行った。

期 日	平成29年6月9日(金)、9月15日(金)、12月8日(金)、 平成30年1月26日(金)
会 場	静岡市城東保健福祉エリアほか
内 容	災害ボランティア本部に関する協議検討、各団体の情報交換ほか
参加団体	災害ボランティアコーディネーター静岡、清水災害ボランティアネットワーク、防災ボランティアかんばら、由比災害ボランティアコーディネーター、静岡青年会議所、静岡市市民自治推進課

② 災害ボランティアセンター立ち上げ訓練等の実施

静岡市地域防災計画に位置づけられる災害ボランティア本部について、市内3拠点と災害ボランティア情報渉外センターの合同訓練や清水地区、蒲原地区の災害ボランティアセンターの体験会を、関係団体との協働により実施した。

ア 市全体

期 日	事前研修 平成30年1月6日(土)、本研修 1月13日(土)
会 場	静岡市番町市民活動センター
内 容	災害ボランティア情報渉外センター、地区災害ボランティアセンター間の運営合同訓練、地域住民を招いた地区災害ボランティアセンター運営訓練等
主 催	静岡市災害ボランティアセンター運営協議会
講 師	災害ボランティアコーディネーター静岡 代表 笠原英男氏
参 加 者	災害ボランティアコーディネーター各団体、静岡青年会議所、職員等49人、地域住民16人

イ 清水地区

i) 蒲原地区災害ボランティアセンター体験会の開催

体験会を実施することにより災害ボランティアセンターの機能及び役割を確認するとともに地域住民の理解を深めることを目的に実施した。

期 日	平成29年11月11日(土)
会 場	静岡市蒲原保健福祉センター
内 容	災害ボランティア開設、運営体験ほか
参 加 者	30人

ii) 清水地区災害ボランティアセンター体験講座の開催

災害ボランティアセンターの運営の模擬訓練を通じて災害ボランティアセンターの円滑な立ち上げと市民の災害ボランティアへの理解を深めることを目的に実施した。

期 日	平成29年11月23日(木 祝)
会 場	静岡市清水社会福祉会館 6階多目的ホール及び1階ロビー
内 容	災害ボランティアセンター設置、体験シミュレーションほか
参 加 者	28人

改善事項

(1)地域の生活課題に対応する取り組みの推進

生活支援コーディネーターと連携し各区で生活支援ボランティア活動の拡充を図るほか、運転支援ボランティア講座を開催し、市民の買い物、外出支援活動等への意識喚起と組織化の取組をはじめた。

(2)駿河区のボランティア利用拠点の検討

駿河区においてボランティアの利用活動拠点がないことから、駿河区の地域福祉活動推進拠点整備の検討にあわせ、その確保に向け調整を行った。その結果、平成30年6月にオープンする静岡市地域福祉共生センター内にボランティア、市民が自由に利用できるスペースが確保されることになった。

課題

(1)区域及び小地域での生活課題に対応する取り組みの拡充支援

地域での住民相互による支え合い活動の拡充は急務な課題であり、区域及び小地域において取り組みが推進されるよう生活支援コーディネーターや地域包括支援センター等の関係機関と連携し、組織化や担い手を確保していく必要がある。

(2)シニアサポーター登録者の地域福祉活動への参加促進

地域福祉活動の担い手不足が地域の課題となっている。そのためサポーター通信の発行にあわせシニアサポーターに地域活動の情報提供に努めているが、地域ごとに地域活動とシニアサポーターを結びつけるマッチングの場を設ける等、きめ細かな対応は出来てなく、地域福祉活動への参加へ結びついていない。

(3)ボランティアセンター機能の拡充

現在、本会が設置運営するボランティア・市民活動センターは、中央福祉センターとは一とびあ清水の2か所である。ボランティア・市民活動センターは、ボランティアと活動(ボランティアを必要とする当事者等)を結ぶ窓口であり、市民が身近に相談、利用できることが必要である。そのため、各区におけるボランティア相談窓口機能の強化と区域ごとの連携、本部機能と区の関係や役割について整理していく必要がある。

III 生活支援事業

1 生活福祉資金貸付事業

低所得者、障がい者、高齢者等に対し生活福祉資金の貸付に必要な援助指導を行うことにより、経済的な自立や社会参加の促進を図ることを目的に各種資金の貸付相談や申請事務を行った。

また、貸付後の世帯状況を把握するため、償還が遅れている世帯を訪問し、自立した生活を維持するために必要な相談援助を行った。

①資金別相談件数

相談内容	区分	葵区	駿河区	清水区	計
総合支援資金		1 件	28 件	2 件	31 件
福祉費 生業費		2 件	3 件	1 件	6 件
福祉費 技能習得費		1 件	1 件	1 件	3 件
福祉費 住宅改修		0 件	0 件	0 件	0 件
福祉費 障害者自動車購入		0 件	1 件	0 件	1 件
福祉費 療養		7 件	1 件	3 件	11 件
福祉費 冠婚葬祭		1 件	1 件	0 件	2 件
福祉費 転宅		3 件	4 件	9 件	16 件
福祉費 就職支度		0 件	0 件	0 件	0 件
福祉費 その他		7 件	5 件	1 件	13 件
緊急小口		44 件	134 件	9 件	187 件
災害時緊急		0 件	0 件	0 件	0 件
教育支援資金		9 件	30 件	11 件	50 件
不動産担保型生活資金		6 件	3 件	1 件	10 件
臨時特例つなぎ資金		18 件	48 件	0 件	66 件
生活復興資金		0 件	0 件	0 件	0 件
その他(生活費)		22 件	62 件	51 件	135 件
合計		121 件	321 件	89 件	531 件

②申請決定件数

相談内容\区名	葵区	駿河区	清水区	計
総合支援資金(生活支援費)	0 件 0 円	0 件 0 円	0 件 0 円	0 件 0 円
(住宅入居費)	0 件 0 円	0 件 0 円	0 件 0 円	0 件 0 円
(一時生活再建費)	0 件 0 円	0 件 0 円	0 件 0 円	0 件 0 円
福祉費 住宅改修	0 件 0 円	3 件 560,000 円	0 件 0 円	3 件 560,000 円
福祉費 自動車購入	0 件 0 円	1 件 600,000 円	0 件 0 円	1 件 600,000 円
福祉費 療養	0 件 0 円	0 件 0 円	0 件 0 円	0 件 0 円
福祉費 転宅	0 件 0 円	1 件 500,000 円	0 件 0 円	1 件 500,000 円
緊急小口資金	24 件 955,000 円	67 件 2,965,000 円	2 件 110,000 円	93 件 4,030,000 円
災害時緊急	0 件 0 円	0 件 0 円	0 件 0 円	0 件 0 円
教育支援資金(就学支度)	1 件 363,000 円	7 件 2,766,000 円	2 件 377,000 円	10 件 3,506,000 円
教育支援資金(教育支援費)	1 件 35,000 円	3 件 1,864,000 円	1 件 420,000 円	5 件 2,319,000 円
臨時特例つなぎ資金	16 件 395,000 円	24 件 730,000 円	0 件 0 円	40 件 1,125,000 円
不動産担保型生活資金	1 件 73,000 円	0 件 0 円	0 件 0 円	1 件 73,000 円
福祉資金(その他)	1 件 87,000 円	1 件 500,000 円	2 件 198,000 円	4 件 785,000 円
合計	44 件 1,908,000 円	107 件 10,485,000 円	7 件 1,105,000 円	158 件 13,498,000 円

③過去 5か年の推移

ア 相談件数推移

年度 区名	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
葵 区	121 件	137 件	210 件	365 件	359 件
駿河区	321 件	366 件	451 件	311 件	298 件
清水区	89 件	208 件	238 件	255 件	243 件
合 計	531 件	711 件	899 件	931 件	900 件

イ 貸付決定件数推移

(延べ件数)

年度 区名	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
葵 区	44 件	61 件	92 件	96 件	117 件
駿河区	107 件	112 件	126 件	126 件	125 件
清水区	7 件	43 件	35 件	56 件	49 件
合 計	158 件	216 件	253 件	278 件	291 件

改善事項

(1)他制度や関係機関が実施する事業利用による相談者の安定した生活と自立を前提とした貸付相談の実施

本制度は低所得者や高齢者、障がい者の経済的な困窮を支え、在宅での生活と自立、社会参加の促進を図るものであるが、相談者には社会との関係性を絶たれ、ローン返済を抱える等、貸付金の返済が疑われる方も多い。そのため貸付により負債額を増やし、将来にわたって生活の自立を脅かすことのないよう、アセスメントを徹底し、フードバンク事業や法テラス、福祉事務所のワーカー等との関係機関との連携やそのサービス利用を前提とし、相談者の将来にわたっての生活の安定と自立を図る貸付相談を行った。

課 題

(1)相談対応の充実

複雑多岐にわたる相談では、時間を要することが多く、担当者だけで相談支援を行うことが難しくなっている。このため、貸付制度の役割や支援方法に関する情報共有を進め、突発的な相談に対しても職員誰もが対応できるような体制を構築する必要がある。

2 生活困窮者自立相談支援事業

平成 27 年 4 月生活困窮者自立支援法施行に伴い、自立相談支援事業は静岡市内 3 区において本格的に実施された。3 区で受けた相談内容を共有する中で、新たに見出された課題や支援の視点を法人全体として捉え支援できるように努めた。

無料職業紹介事業を市内 3 区において実施。直接企業への紹介ができることで支援の幅を広げることができた。

個別支援のかかわりから様々な関係機関と新たなネットワーク作りに努めた。

(1) 総合相談支援事業

① 相談受付集計(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月)

ア 総合相談支援事業

		葵	駿河	清水	全市
相談受付件数		412	375	533	1,320
相談対応件数	面談	691	649	609	1,949
	電話	1,539	1,077	1,484	4,100
	メール	10	1	7	18
	訪問	148	289	111	548
	同行支援	88	139	148	375
	ケース検討	104	62	85	251
プラン	作成数	64	42	77	183
	実人数(年間)	37	21	37	95
	継続中	26	8	21	55
プラン作成者中事業等利用状況	一般就労目標	21	17	48	86
	住居確保給付金	0	2	11	13
	一時生活支援事業	12	2	2	16
	就労準備支援事業	3	0	4	7
	就労訓練事業	0	1	1	2
	自立相談支援事業による就労支援	20	16	40	76
	生活福祉資金貸付	1	0	0	1
	生活保護受給者等就労自立促進事業	14	13	23	50
対応状況 新規受付分	終結	199	188	263	650
	専門機関につなぐ	47	45	63	155
	支援継続中	129	121	170	420

		葵	駿河	清水	全市
助成金等利用	県：就労支度金給付事業	1	1	6	8
	県：就労活動応援金付職場体験事業	1	0	4	5
	市社協特別支援事業	0	8	23	31
	【市社協特別支援事業活用の内訳】※1件の申請につき複数計上あり				
	医療費	20 件	自転車修理	1 件	
無料職業紹介事業	住居確保給付	4 件	公共料金	3 件	
	衣服等購入	2 件	薬代	1 件	
	(新規)受付求人数	5	2	7	14
	(新規)受付求職数	6	2	15	23
	あっせん数	5	1	8	14
就労者雇用形態	受付求人業種	土木作業・工場内作業・内職・骨董品修理 セキュリティースタッフ・指導員 フォークリフト作業・建設作業 清掃作業・菓子製造・ガラス溶接 等			
	就労者数	2	11	16	29
就労者雇用形態	正規	0	1	9	10
	非正規	2	10	6	18
	その他 不明	0	0	1	1

イ ふれあい福祉相談

相談種別	開設日数 (日)	件数(件)	相談員 延人数(人)	協力機関
認知症よろづ相談	47	32	92	認知症家族の会
知的障害児者相談	22	5	32	清水手をつなぐ育成会
	41	66	41	静岡手をつなぐ育成会
労働に関する相談	24	6	12	静岡県社会保険労務士会
法律 相 談	24	27	24	静岡県弁護士会
家計に関する相談	23	8	23	静岡県行政書士会
こころはればれ相談	23	30	23	静岡県精神保健福祉士会
合計	204	174	247	

(3)広報・啓発

①資材・HP等による広報活動

より多くの方に周知していくために、ポスターやチラシ、リーフレット等の広報資材を作成し配布した。

広報媒体として社協刊行物および静岡気分等の市広報紙や、静岡新聞、リビング静岡、中日ショッパー、ベイプレス等のコミュニティペーパーを活用した。

(4)合同支援会議(まるごと会議)

対象者の把握と適切な支援を行うことを目的に、3区地域福祉推進センターの担当者による合同支援会議を次のとおり実施した。

出席者 地域福祉コーディネーター ボランティアコーディネーター

地域包括支援センター職員 総合相談支援事業担当者

開催回数 葵区、駿河区、清水区 各区 12回

(5)支援調整会議

生活困窮者自立支援事業に基づき、行政および関係機関等とともに、相談者と協働で作成した個々の支援計画を協議し、支援方針の確認を行うために、支援調整会議を次のように開催した。

出席者 静岡市福祉総務課職員 就労準備支援事業所(受託団体)職員

3区福祉事務所 生活支援課職員 静岡市障害者協会職員

総合相談支援事業担当者

開催回数 12回

支援計画作成件数 183件

(6)大開拓会議

生活困窮者自立相談支援事業について第三者機関の方に客観的な視点を含め検討できるよう に次のとおり開催した。

[第1回]

期日 平成29年8月2日(水)

会場 静岡市清水社会福祉会館 3階 中会議室

構成委員 法テラス静岡 弁護士 長谷川堅司氏
静岡英和学院大学 人間社会学部コミュニティ福祉学科 講師 栗原拓也氏
特別養護老人ホーム 白扇閣 施設長 久保田和宏氏
静岡県社会福祉協議会 生活支援部権利擁護課長 海野芳隆氏

参加者 9人

[第2回]

期日 平成30年3月9日(金)

会場 静岡市清水保健福祉センター4階 大会議室

構成委員 法テラス静岡 弁護士 長谷川堅司氏
静岡英和学院大学 人間社会学部コミュニティ福祉学科 講師 栗原拓也氏
特別養護老人ホーム 白扇閣 施設長 久保田和宏氏
静岡県社会福祉協議会 生活支援部権利擁護課長 海野芳隆氏

参加者 18人

(7)医療・福祉なんでも相談会

平日に相談に来られない方を対象に相談会を開催する。医療・福祉・法曹・就労の関係者が、その場で専門的なアドバイスを行う。

[第1回]

期日 平成29年6月17日(土)
会場 静岡市清水保健福祉センター4階 大会議室・多目的室
相談員 14名 専門職アドバイザー 23名
相談者 8名

[第2回]

期日 平成29年9月9日(土)
会場 静岡市清水保健福祉センター4階 大会議室・多目的室
相談員 14名 専門職アドバイザー 25名
相談者 8名

[第3回]

期日 平成29年11月11日(土)
会場 静岡市清水保健福祉センター4階 大会議室・多目的室
相談員 14名 専門職アドバイザー 28名
相談者 14名

[第4回]

期日 平成30年2月24日(土)
会場 静岡市清水保健福祉センター4階 大会議室・多目的室
相談員 16名 専門職アドバイザー 34名
相談者 16名

(8)研修

相談対応職員向け研修会を次のとおり開催した。

①相談対応職員研修

期日 平成29年9月12日(火)
会場 静岡市清水社会福祉会館 3階 大会議室
内容 事例をもとに「相談の流れ」を改めて確認しながら、相談者の受け止め方、多職種協働での支援方法を学ぶ
参加者 42人

②つながつとけ!研修

期日 平成30年3月2日(金)
会場 静岡市清水保健福祉センター4階 大会議室
内容 個別支援を円滑に行うために障がい者の支援機関とお互いの連携の仕方を学ぶ
参加者 49名

改善事項

(1)特別支援助成金等の活用

制度等につなげるための手段として昨年度はモデル事業として実施した緊急支援事業を、平成29年度からは特別支援事業として活用できるようになった。

(2)支援調整会議へアドバイザーの参加

支援対象者に何らかの障がいが疑われる方が多く含まれていることを踏まえ、平成29年度より専門職アドバイザーとして静岡市障害者協会へ参加を依頼した。

(3)まるごと会議の実施

地域福祉推進センター内で受ける様々な相談を縦軸でなく、地域づくり・地域推進・地域包括・総合相談の各部門で検討し各業務の専門性を活かした支援を行っていくため、区ごとにまるごと会議(調整会議)を開催した。

(4)医療・福祉なんでも相談会

平成29年度より子どもの発育に関する相談にも対応できるように専門職アドバイザーとして小児科医、保育士等も参加して開催した。

(5)ふれあい福祉相談

より専門的な相談に対応するために、社会保険労務士による「労働に関する相談」、行政書士による「家計に関する相談」を新たに開設した。

課題

(1)生活困窮から脱却するための要因ごとの対応

発達障がいや知的障がい等、障害にかかる新規相談が増加している。スムーズな就労移行支援のために計画相談事業所の活用を円滑に行いたい。

金銭管理能力が乏しい方のために、制度につながるまでの一時的な金銭管理システムが必要。

(2)就労支援先の確保

課題を抱える方の就労経験の有無等の個人差により、目指す就労までの支援方針が異なる。就労訓練が必要な方が多く、就労訓練実施事業所の増加が望まれる。就労訓練を兼ねた第一次産業等をはじめとする幅広い支援先を確保したい。

(3)乳・幼児期からの介入

生活困窮となる要因は、多くの場合生まれ育った環境にあることが多い。将来の生活困窮者を予防するため、地域の発見機能による、早期発見・早期介入ができるしくみが必要である。

IV 権利擁護事業

1 日常生活自立支援事業

認知症や知的障がい、精神障がい等により判断能力が不十分で、日常生活を営むのに支障がある方に対し、福祉サービスの利用に関する相談・助言・情報提供やサービスの選択・契約の支援を行った。

また、日常的な金銭管理や通帳・権利書等の書類預かり、苦情解決制度の利用支援等を行うことにより、利用者が地域で安心して自立した生活が送れるように支援した。

(1)相談件数

(件数 過去5か年)

年度	本事業の利用に関するもの				その他の相談	合計
	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他		
29	355 件	93 件	385 件	323 件	7,043 件	8,199 件
28	347 件	108 件	194 件	280 件	7,100 件	8,029 件
27	634 件	245 件	406 件	555 件	8,791 件	10,631 件
26	930 件	346 件	607 件	471 件	9,639 件	11,993 件
25	2,477 件	474 件	845 件	475 件	7,246 件	11,517 件

※その他・・・判断能力が不十分な者に準ずる者

※その他の相談・・・業務遂行に関する一連の相談及び生活支援のための相談等

(2)実利用者数

(件数 過去5か年)

年度	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
29	167 件	62 件	128 件	131 件	488 件
28	189 件	63 件	134 件	145 件	531 件
27	203 件	61 件	127 件	142 件	533 件
26	206 件	56 件	128 件	131 件	521 件
25	217 件	57 件	125 件	122 件	521 件

(3)会議・研修・セミナー等の開催

①関係機関連絡会議

事業の円滑な運営及び効果的な実施のために各関係機関に対し、事業への理解促進を図ることを目的に情報交換等を行った。

期日 平成29年12月4日(月)

出席者 静岡家庭裁判所ほか10機関・団体

②生活支援員現任研修

生活支援員の資質向上を目的に現任研修を年2回開催した。(参加者延64人)

(4)広報啓発活動の実施

事業の広報啓発活動として、関係機関・団体が開催する研修会等に講師として職員を派遣した。
民生委員児童委員研修会ほか 7 回

(5)静岡県福祉サービス運営適正化委員会(運営監視合議体)

社会福祉法第 83 条に基づき、日常生活自立支援事業の適正な運営の確保のため、静岡県社会福祉協議会に設置されている「運営監視合議体」に年 4 回出席し、事業の監視、助言を受けた。

(6)視察研修の実施

本事業の実施状況や法人後見事業の実施状況、市民後見推進事業への取り組み状況等について、先駆的に取り組んでいる他都市を視察した。
期　日　平成 29 年 12 月 11 日(火)
視察先　社会福祉法人横浜市社会福祉協議会　横浜生活あんしんセンター

改善事項

(1)適正支援とニーズへの対応

利用者のモニタリングを積極的に行い、支援計画の見直しや必要に応じて成年後見への移行を勧めるなど適正支援に努めた。待機件数は平成 30 年 3 月末時点 16 件となり、前年度の 35 件から半減することができた。

(2)業務支援システムの活用による事務の効率化

業務支援システムの一部改修を行い、支援計画等のシステムによる一元管理を実施し、事務の効率化を図るとともに、適正管理に努めた。

課　題

(1)業務スケジュールの管理の強化

年間の訪問支援回数は 1 万件を超え、事故予防のためにも業務管理体制の改善が必要となっている。業務のスケジュール管理をシステムで行い、職員間で情報共有することでリスク管理体制を強化するとともに、業務の効率化を図る。

2 法人後見事業

判断能力が不十分なために意思決定が困難な方の判断能力を補うため、本会が成年後見人、保佐人、補助人になることにより、本人の権利擁護を図った。

(1)受任件数

(件数　過去5か年)

年度	後見類型	保佐類型	補助類型	合計
29	15件	3件	1件	19件
28	15件	3件	1件	19件
27	14件	5件	1件	20件
26	12件	4件	1件	17件
25	9件	4件	1件	14件

(2)法人後見事業審査検討会の開催

法人後見事業の適正な運営を確保するために法人後見事業審査検討会を年間4回開催した。

(3)成年後見相談モデル事業の実施

成年後見制度の理解促進及び適正な利用促進を図るため、静岡県弁護士会、(公社)成年後見センター・リーガルサポート静岡支部、(一社)静岡県社会福祉士会にご協力をいただき、成年後見相談を10月より毎月2回、計12回(相談件数31件)実施した。

(4)静岡市市民後見人制度検討協議会への参加

市民後見人養成研修の実施に向けて検討協議会(年間4回)に参加し、積極的に意見交換を行った。

改善事項

(1)適正な後見活動の実施

支援内容の定期的モニタリングを業務として位置づけ、適正支援に努めた。

また、事務手順を見直し通帳等の定期点検を実施し、内部牽制体制の確保、リスク管理体制の改善を図った。

(2)成年後見相談モデル事業の実施

成年後見相談を実施し、市民のニーズに対応するとともに地域ネットワークの強化を図った。

課題

(1)成年後見相談の充実

相談予約はすべて埋まり市民ニーズは高いため、事業の充実、継続実施のための体制及び財源確保が課題となっている。

(2)市民後見人養成研修の実施

平成30年度に静岡市より新規受託する市民後見人養成研修を適正かつ円滑に実施する。

V 共同募金

1 共同募金配分金事業

市共同募金委員会は、毎年10月から12月にかけて自治会・町内会、民生委員、ボランティア団体、小中学校、高等学校、各種団体等、多くの市民の協力を得て、共同募金活動を実施している。

募金は全て静岡県共同募金会に預けられ、静岡県共同募金会配分委員会の審査及び役員会の承認を受け、市内の社会福祉施設の整備や社会福祉団体の活動費等に25件32,818,000円が配分決定されたほか、高齢者サロン等小地域での福祉活動費等として7件1,333,000円が配分された。このほか、県下の社会福祉施設・福祉活動団体や社会福祉協議会に配分された。

平成29年度の募資金額は、総額で70,192,722円であった。

また、平成28年度の一般募金と平成29年度の歳末たすけあい募金により本会が受けた配分金は、総額40,071,311円であった。

平成29年度募資金額 70,192,722円

〔過去5か年の推移〕

区分	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
一般募金	47,183,131円	46,836,014円	48,457,969円	49,690,084円	50,503,120円
歳末たすけあい募金	23,009,591円	23,771,948円	23,949,815円	24,270,137円	24,657,391円
合計	70,192,722円	70,607,962円	72,407,784円	73,960,221円	75,160,511円

平成29年度配分額 40,071,311円

〔過去5か年の推移〕

区分	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
一般募金	18,950,190円	21,138,664円	24,247,525円	23,924,449円	21,361,517円
歳末たすけあい募金	21,121,121円	19,066,353円	18,484,271円	16,869,696円	18,195,709円
合計	40,071,311円	40,205,017円	42,731,796円	40,794,145円	39,557,226円

平成29年度は、共同募金配分金により、広報啓発事業やボランティア育成事業、高齢者や障がい者支援事業及び歳末たすけあい配分金事業を実施した。特に市民への社会福祉に関する広報啓発活動や小中高校生を対象にした福祉教育推進事業により、子どもたちの福祉への理解と参加を促進した。

また、ふれあい広場、福祉のまつり等の福祉啓発事業に関係機関団体と連携協働して取り組み、市民の福祉意識の拡大に努めた。

(1) 広報啓発活動

①広報紙の発行

社会福祉協議会が行う活動に、広く市民の理解を得るとともに、社会福祉への関心を高めるために「みんなの社協」を発行した。

「みんなの社協しづおか」(全市版) 年 6 回 1 回あたり 263,000 部発行

②ホームページの運営

社会福祉協議会の役割や活動を市民に広く周知するためホームページを開設している。あわせて、ブログによって事業の告知や報告を随時掲載し、いち早い情報の提供に努めた。

また、平成 29 年度は広報モニター等住民の意見を取り入れながら、ホームページ並びにブログの改修を行った。

URL <https://www.shizuoka-shakyo.or.jp>

ブログ <https://www.shizuoka-shakyo.or.jp/blog/>

③社会福祉大会の開催

多年に亘り社会福祉事業に功績のあった方々に感謝の意を表すとともに、市民が主体となった福祉のまちづくりを推進することを目的に、社会福祉大会を開催してし、市民約 1,000 人が来場した。

期 日 平成 29 年 11 月 29 日(水)

会 場 静岡県コンベンションアーツセンター 中ホール

表彰並びに感謝状贈呈

○名誉会長（市長）表彰	受賞者 37 名
○静岡市社会福祉協議会会长表彰	受賞者 112 名、 3 団体
○静岡市社会福祉協議会会长感謝状	寄付者 9 名、 23 団体
○静岡市共同募金委員会会长感謝状	共同募金運動協力者 2 名、 29 団体

内 容 ○大会宣言の採択

○記念講演

見たくないことも直視して南海トラフ地震対策を！

講師 名古屋大学 減災連携研究センター教授・センター長 福和伸夫氏

○中古衣料回収

○授産製品の PR 及び販売

協力 ラポール安倍川 ラポール・ファーム ラポール古庄

フォルテあしくぼ

○受賞者等へのインタビュー

④福祉啓発イベントの実施

市民の社会福祉への理解と参加を促進するために、市内 2 か所で福祉団体、ボランティアグループ等と協働して、福祉啓発イベントを実施した。

ア 第 38 回 静岡ふれあい広場(主催:第 38 回 静岡ふれあい広場 実行委員会)

期 日 平成 29 年 9 月 10 日(日)

内 容 ステージ、福祉関係団体の紹介、福祉体験コーナー等

場 所 青葉シンボルロード

来場者数 約 18,000 人

参加団体 59 団体

ボランティア 57 人

イ 福祉のまつり 2017(主催:福祉のまつり 2017 実行委員会)

期　日　　平成 29 年 9 月 24 日(日)
内　容　　各種団体によるステージ、ブース紹介、模擬店、バザー、手話や点字等の福祉体験
場　所　　清水マリンパーク
参加者数　約 30,000 人
参加団体　101 団体
ボランティア　103 人

⑤ボランティア情報誌の発行・情報提供

ボランティア募集や助成金情報を掲載したボランティア情報を発行し、公共施設や高校・大学に送付するほか、窓口来訪者に配布した。

発行部数　しづおかボラセン情報　毎月 1,200 部
　　　　　しみずボラセン情報　毎月 1,000 部

(2) 福祉教育の推進

①学校における福祉教育の推進

高齢期における生活上の課題や障がいについての理解を深める等、福祉の心を育む福祉教育活動を推進するため、年間を通じて交流活動や講演会の実施に向けた支援を行うとともに活動に対する助成金を交付した。

ア 学校における福祉教育支援事業

市内小学校、中学校及び高等学校の児童生徒の社会福祉への理解と関心を高め、共生の精神を養成するとともに、児童生徒を通して家庭及び地域社会への福祉意義の啓発を図ることを目的とし、年間を通じて交流活動や講演会の実施に向けた支援を行うとともに活動に対する助成金を交付した。

i) 平成 29 年度 福祉教育指定校 学校名

区別	福祉教育実践校
葵区 (1 校)	(小学校) 服織西

ii) 平成 29 年度 学校における福祉教育支援事業 助成学校数

区 名	小学校	中学校	高 校	合 計
葵 区	22 校	1 校	0 校	23 校
駿河区	13 校	0 校	1 校	14 校
清水区	22 校	3 校	1 校	26 校
合 計	57 校	4 校	2 校	63 校

②福祉教育研修の開催

学校における福祉教育の取り組み方について、福祉教育という考え方や取り組み方について研修会を実施したほか、担当教諭との学習会を実施した。

ア 福祉教育担当教諭連絡会

各校の情報交換と福祉教育の視点や考え方の学習を年 1 回実施した。

期　日　　平成 29 年 5 月 12 日(金)

場 所 静岡市城東保健福祉エリア保健福祉複合棟 3階第1・2研修室
 参加者 市内小・中・高等学校 福祉教育担当教諭
 〔葵区〕24人 〔駿河区〕13人 〔清水区〕26人

③福祉教育への協力・支援

各学校における福祉教育推進を支援するため、取り組み事例の紹介等を行うほか、プログラムの作成における企画立案の相談に応じた。

また、取り組みの成果を市民に広く周知するため、パネル展を実施した。

ア 相談コーディネート

福祉教育活動のための講師紹介、情報提供及びプログラムの立案協力

葵 区	駿河区	清水区	合 計
29校	17校	30校	76校

イ 福祉教育パネル展の開催

④福祉体験プログラムの実施

児童・生徒が長期休暇を利用し、様々な福祉体験や活動に参加し、福祉についての理解を深めるため体験事業を実施した。

区分	プログラムの内容
葵 区	<p>ア 夏休みボランティア・福祉体験「はじめの一歩」 自分たちの住む地域の福祉施設で働く人たちや福祉施設利用者、障がい当事者とのふれあいを通して地域の福祉に関心を持ってもらうことを目的として開催した。</p> <p>期 日 事前研修 平成29年7月21日(金)、22日(土) 体 験 平成29年7月29日(土)～8月27日(日) 会 場 葵区内の福祉施設、ボランティア団体、児童館等17団体 参加者 小・中・高校生、延べ165人</p> <p>(VII-1 地域福祉交流プラザ指定管理事業(2)-③にも記載)</p>
駿河区	<p>ア するが区夏休みボランティア・福祉体験 自分たちの住む地域の福祉施設で働く人たちや福祉施設利用者、障がい当事者とのふれあいを通して地域の福祉に関心を持ってもらうことを目的として開催した。</p> <p>期 日 事前研修 平成29年7月22日(土) 体 験 平成29年7月29日(土)～8月27日(日) 会 場 駿河区内の福祉施設、児童館等 参加者 延べ82人</p>
清水区	<p>ア 中学生・高校生夏休み福祉体験「夏休みボランティア体験 はじめの一歩」 清水区内の高齢者福祉施設、障がい者福祉施設、児童館、ボランティア団体等の活動に参加し、利用者や職員・スタッフとの交流や体験を通して、身近な地域での福祉に触れ、地域社会に対してどんなかかわりができるかを考えるきっかけを作ることを目的に実施した。</p> <p>期 日 事前研修 平成29年7月21日(金)、22日(土) 体 験 平成29年7月29日(土)～8月27日(日)の期間内 参加者 延べ54人</p>

(3)地区社協支援事業

地区社会福祉協議会が行う先駆的な事業等に対し事業開始時の支援を行うため、地区社会福祉協議会に「地区社協活性化事業等助成金」を交付した。

また、地区社会福祉協議会が行う地域住民の個別の福祉課題や生活課題の解決に向け、地区内に地域福祉活動を推進する拠点の設置及び運営支援を行うため、地区社会福祉協議会に「地域支えあい事業助成金」を交付した。

助成の区分	葵区	駿河区	清水区
地区社協活性化事業等 助成金	1 地区 100,000 円	0 地区 0 円	5 地区 500,000 円
地域支えあい事業 助成金	1 地区 100,000 円	0 地区 0 円	0 地区 0 円

(4)ボランティア育成事業

①市民交流まつり

市内で活動するボランティアグループや市民活動団体等の交流と市民へのボランティア啓発を目的に、ステージや活動紹介コーナー等を企画し、参加者同士の情報交換や交流を深める機会として開催した。

【中央福祉センター会場】

期 日 平成 30 年 2 月 17 日(土)
会 場 静岡市中央福祉センター
内 容 ステージ、活動紹介ブース、城内マルシェ、福祉啓発パネル展示等
来場者 約 800 人 当日運営ボランティア 22 人

【はーとぴあ清水会場】

期 日 平成 30 年 2 月 4 日(日)
会 場 静岡市清水社会福祉会館
内 容 パネル展示、ステージ発表、ボランティア相談受付、福祉体験等
来場者 約 1,200 人 当日運営ボランティア 120 人

②精神保健福祉ボランティアフォローアップ講座〔清水区〕

本講座はすでに精神保健福祉ボランティア活動に参加されている方や精神保健入門講座受講生を中心に心の病気に対する理解を深めフォローアップという形で地域に寄り添う「精神保健福祉ボランティア」として活動する市民を要請することを目的に実施する。

期 日 平成 29 年 11 月 4 日(木)～12 月 9 日(土) 全 4 回
会 場 静岡市清水社会福祉会館 3 階中会議室
静岡市支援センターなごやか
内 容 第 1 回「心の病 みてみよう、ふれてみよう」と題した講演会
第 2 回「親の会・ボランティア活動、役割について知ろう」と題した講演会
第 3 回「静岡市支援センターなごやかを訪ねてみよう」(施設見学)
第 4 回「晴ればれサロン活動体験」(活動実践)
参加者 15 人

③子育て支援ボランティア入門講座〔清水区〕

若年層を対象にボランティア活動とは何か、子どもを取り巻く現状について講義と活動体

験を通して子育て支援にかかる人材育成を目的として実施する。

期 日	平成 29 年 11 月 4 日(土)～12 月 16 日(土)	全 5 回
会 場	静岡市清水社会福祉会館	3 階中会議室 4 階機能訓練室
内 容	第 1 回「ボランティアってなあに？」 第 2 回「ボランティア活動体験①」 第 3 回「振り返り～活動体験先グループ別プレゼンテーション」 第 4 回「ボランティア活動体験②」 第 5 回「まとめ～ボランティア新聞作り」	
参加者	15 人	

④相談・コーディネート

市民からのボランティア活動への参加相談や社会福祉施設等からボランティアの派遣依頼の相談を受け、活動団体との連絡調整や活動先の紹介や情報提供等を行った。

【葵区】

(件数 過去 5 か年)

項目	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
ボランティア活動への参加相談	29 件	64 件	81 件	75 件	105 件
ボランティアの派遣依頼相談	34 件	56 件	53 件	94 件	36 件
その他の相談	0 件	4 件	8 件	15 件	10 件
合計	63 件	124 件	142 件	184 件	151 件

(VII-1 地域福祉交流プラザ指定管理事業(5)-①にも記載)

【駿河区】

(件数 過去 5 か年)

項目	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
ボランティア活動への参加相談	28 件	55 件	65 件	74 件	59 件
ボランティアの派遣依頼相談	29 件	60 件	42 件	33 件	41 件
その他の相談	4 件	6 件	4 件	5 件	4 件
合計	61 件	121 件	111 件	112 件	104 件

⑤ボランティア保険加入への受付業務(件数)

【葵区】

(件数 過去 5 か年)

項目	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
ボランティア活動保険	1,287 件	2,135 件	2,353 件	2,110 件	2,028 件
ボランティア行事用保険	107 件	122 件	141 件	110 件	59 件
ふれあいサロン保険	101 件	91 件	89 件	79 件	80 件
送迎サービス補償/福祉サービス総合補償	2 件	1 件	1 件	2 件	1 件
合計	1,497 件	2,349 件	2,584 件	2,301 件	2,168 件

【駿河区】

(件数 過去 5 か年)

項目	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
ボランティア活動保険	1,399 件	1,524 件	1,749 件	2,076 件	1,910 件
ボランティア行事用保険	90 件	79 件	71 件	83 件	55 件
ふれあいサロン保険	45 件	49 件	45 件	47 件	40 件
送迎サービス補償/福祉サービス総合補償	5 件	5 件	5 件	6 件	4 件
合計	1,539 件	1,657 件	1,870 件	2,212 件	2,009 件

⑥ボランティアグループ支援

駿河区内で組織化された学生ボランティア「静友の輪ぴーすくる」、災害ボランティア「復幸ボランティアやらざあ駿河」等に対して、定例会や行事開催等に協力し、その活動を支援した。

ア 「静友の輪 ぴーすくる」の活動支援

定例会出席 8回

企画行事支援 5回

(ボランティア参加者 延べ 54人、特別支援学校生参加者 延べ 16人)

イ 「復幸ボランティア やらざあ駿河」の活動支援

定例会出席 12回

⑦災害ボランティア入門講座

広く一般市民に災害ボランティアについて知っていただくことや災害時における一般知識や心構え、災害ボランティアセンターについて講義や体験を通して学ぶことを目的とした講座を行った。

【駿河区】

講座名 災害ボランティア入門講座ファシリテーション編

期 日 平成 30年 3月 17日(土)

会 場 南部生涯学習センター ホール

内 容 災害時にも平時にも役立つファシリテーション技術について学ぶ

講 師 NPO 法人日本ファシリテーション協会 フェロー 鈴木まり子氏

参加者 36人

【清水区】

講座名 清水区災害ボランティア入門講座

期 日 平成 29年 7月 9日(日)

会 場 静岡市清水社会福祉会館 3階大・中会議室

内 容 「災害ボランティアってどんなこと?」と題した講演会ほか

参加者 14人

⑧災害ボランティアコーディネーターの養成

災害ボランティアセンターの立ち上げと運営の担い手となる「災害ボランティアコーディネーター」の養成及びスキルアップを目的とした研修を行った。

【市域】

災害ボランティアコーディネーター養成講座

期 日 平成 30年 2月 24日(土)、2月 25日(日)

会 場 静岡県地震防災センター

内 容 「静岡市内の災害ボランティア体制を学ぶ」

「災害ボランティア本部とは」

「地区災害ボランティアセンター立上げまでの流れを学ぶ」

「地区災害ボランティアセンター運営シミュレーション」

「避難所運営・HUGについて学ぶ」

「静岡市における災害ボランティアの活動」他

講 師 災害ボランティアコーディネーター静岡 代表 笠原英男氏

協 力 災害ボランティアコーディネーター静岡

受講者 16人

(5)障害児者支援事業

①おもちゃ図書館の運営

子どもたちがおもちゃで遊んだり、ボランティアと交流したりする場としておもちゃ図書館を開設し、遊びを通じて子どもたちの成長を支援したほか、親子やボランティアの交流を深めた。

ア しづおかおもちゃ図書館運営事業

i)通常開館

毎月4日間(第1月曜、第2土曜、第3日曜、第4水曜開館)年間延べ46日
延べ来館者 1,157人(うち、子ども 641人)

ii)青年部のクラブ活動

ハンドベルグループ “かねの会” 每月第2土曜日、第3日曜日
ふれんずクッキー 毎月第1土曜日(4、5、8、12、1月はお休み)
“喫茶ふれんず” 毎月第3日曜日 (8、12月はお休み)

iii)ボランティア養成講座の開催

期 日 平成29年6月10日(土)
参加者 8人(うち新規会員登録者2人)

iv)移動おもちゃ図書館(静岡てんかん医療センターへの訪問)

期 日 偶数月第3木曜日 年間延べ6回
延べ利用者数 80人

v)クリスマス会

期 日 平成29年12月17日(日)
参加者 123人

vi)障がいを持つ子どもの学童クラブや障がい児、子どもに関するグループへの部屋の貸し出し

190回 延べ利用者 1,135人

イ しみずおもちゃ図書館運営事業

i)通常開館

毎月第1金曜日、第3日曜日、祝日以外は毎日開館 年間延べ291日
延べ来館者数 4,978人
ボランティア数 482人
貸出おもちゃ数 16点

ii)Bigおもちゃ図書館

期 日 平成29年8月26日(土)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 6階多目的ホール
参加者 大人55人、子ども81人 計136人
内 容 巨大な積み木や乗って遊ぶおもちゃ等、通常開館では遊ぶことのできない大きなおもちゃを使って遊ぶ

iii)クリスマス会

期 日 平成29年12月9日(土)
会 場 静岡市清水社会福祉会館 6階多目的ホール
参加者 大人56人、子ども73人 計129人
内 容 しみずおもちゃ図書館ボランティアによる歌、人形劇のこのこ氏による演目、高校生ボランティアグループチーズケーキによる参加型レクリエーション

②その他の支援事業

ア 清水区の障がい者・高齢者等の外出支援

リフト付・スロープ付車両の運行による移動支援（利用 506 件）

イ 障がい者スポーツフェスティバル開催への協力

参加者 約 1,000 人

ウ 車いすの貸出(清水区)

清水地区 218 件 252 台

蒲原地区 37 件 37 台

由比地区 29 件 29 台

合 計 284 件 318 台

(6)生活困窮者等特別支援事業

総合相談支援事業における相談者等の生活や生命の安全を図るため、緊急の支援が必要である場合に、円滑な相談支援を実施することを目的として経済的な支援を行う事業を実施した。

支援項目	件数	金額
宿泊場所提供的	4 件	171,760 円
ライフラインの確保	2 件	32,471 円
医療等の提供	20 件	96,900 円
日用品の提供	0 件	0 円
その他の支援	3 件	12,054 円
合計	29 件	686,088 円

(7)歳末たすけあい配分金事業

生活困窮世帯や児童福祉施設入所児童に対して、歳末たすけあい募金による配分金を基にして、次のとおり事業を実施した。

また、生活困窮世帯への支援として、緊急支援を要する世帯への援護金配分や生活困窮者等を支援する団体等への事業費の配分を実施した。

【配分の内訳】

区分	配分・対象者数	配分金額	配分基準等
生活困窮世帯	世 帯 数 1,090 世帯	17,666,000 円	世帯主 12,000 円
	人 数 2,619 人		家族 3,000 円
生活困窮者 緊急支援	世 帯 数 30 世帯	441,000 円	世帯主 12,000 円
	人 数 57 人		家族 3,000 円
施 設	児童福祉施設等 入 所 児 童 186 人	2,232,000 円	1 人 12,000 円
地域福祉事業	ボランティア団体等 6 団体	300,000 円	1 事業 50,000 円以内
生活困窮世帯 支援事業	生活困窮者等を 支援する団体 4 団体	350,000 円	1 事業 100,000 円以内
計	—	20,989,000 円	—
事務費(配分諸経費)	—	132,121 円	—
合計	—	21,121,121 円	—

【過去 5 か年の対象人数の状況】

区分		平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
生活困窮世帯	世帯主	1,090 世帯	949 世帯	1,011 世帯	1,119 世帯	1,354 世帯
	人 数	2,619 人	2,187 人	2,349 人	2,608 人	3,074 人
生活困窮者 緊急支援	世帯主	30 世帯	47 世帯	45 世帯	20 世帯	
	人 数	57 人	87 人	79 人	31 人	
施 設	児童福祉 施設等 入所児童	186 人	181 人	194 人	195 人	212 人
地域福祉事業	施設団体 地区社協等	6 団体	9 団体	5 团体	6 团体	99 团体
低所得者 支援事業	生活困窮者等を 支援する団体	4 团体	4 团体	3 团体		
配分合計		20,989,000 円	18,936,681 円	18,369,061 円	16,815,000 円	17,970,200 円

※事務諸経費を除く

改善事項

(1)赤い羽根共同募金の啓発と募金額の維持復調

運動開始以来 71 回目となった今年度募金運動は、「運動性の再生」が全国共通テーマに掲げられ、募金面では静岡県共同募金会と協働し企業に働きかけを行うほか静岡市及び各区共同募金会委員の協力等により広報啓発に努めた。その結果、前年比 0.7% 増を確保し、長く続いた減少傾向に歯止めがかかるった。

(2)歳末たすけあい募金援護金事業の周知と拡充

歳末たすけあい募金は当該年度に低所得世帯等の困窮世帯に配分をすることとされている。例年同様、民生委員に周知を依頼するとともに今年度は「子どもの貧困」をテーマに児童委員に協力いただき、小学校、中学校、高校への周知に努めた。

その結果、申請世帯件数は前年度比 11% 増、対象人数も前年度比 15% 増となり、援護金事業の拡充につながった。

(3)生活困窮者特別支援助成金の実施

歳末たすけあい募金配分を活用し平成 28 年度に実施した緊急支援モデル事業について、生活再建のための当面の課題解決と次の支援につなげていくため、生活困窮者特別支援助成金事業として拡充し、生活困窮者の支援を幅広く行った。

課題

(1)共同募金運動70周年答申に基づく推進方策への取り組み

共同募金運動70周年答申に基づく推進方策に基づき、「使途の見える化」や「多様な人材の参画による募金運動の展開」を行っている。具体的には、「DVDの作成」や「企業向け募金報告会」、「誰もが理解し共感できる年間テーマの設定」、「共同募金委員会運営委員構成の見直し」等であるが、これらについて具体的な展開方法を検討し実施を行っていく。

(2)歳末たすけあい援護金配分基準並びに方法の検討

少子高齢化や格差が拡大する中、現在の対象基準の場合、今後、援護金対象者の拡大が予想され、募金額と配分額のバランスが崩れていくことが危惧される。加えて「低所得世帯」という大枠な概念のため、周知に協力をしてくれる民生委員・児童委員等からわかりのくいとの声をいただいている。そのため静岡市共同募金委員会運営委員会にはかり、困窮状態を証明する書類の提出等も含め、わかりやすい援護金配分基準を検討していく。

(3)災害ボランティア本部の基盤整備

大規模災害は、いつ発生しても不思議ではなく、その備えが求められている。災害ボランティア本部立上げ訓練会により運営面は、社協職員、運営に携わる災害ボランティアコーディネーターの間で共有化がはかれているが、コピー機や通信機器等、災害ボランティア本部立上げにともなう環境面の整備は十分に検討がされてきていない。静岡青年会議所、行政等災害ボランティア本部の運営に関わる組織、団体等と協議し、災害ボランティア本部立ち上げ期に必要となる備品の選定や整備方法の検討を進めていく。

VI 介護事業

1 訪問介護事業

高齢者の方々に、住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を送っていただくことを目標に、市内全域で、入浴・排泄等の介助や食事の準備等生活に必要な支援を提供している。

各事業所の実績は次のとおりである。

区分	訪問介護			
	派遣時間（予防・総合）		利用者数（予防・総合）	
	平成29年度	平成28年度	平成29年度	平成28年度
ヘルパーステーションしづおか	23,992 時間 (2,285 時間)	22,428 時間 (5,996 時間)	1,986 人 (952 人)	2,068 人 (1,052 人)
ヘルパーステーションはーとぴあ清水	22,181 時間 (4,242 時間)	22,342 時間 (4,108 時間)	1,677 人 (596 人)	1,655 人 (608 人)
ヘルパーステーションかんばら	28,000 時間 (1,707 時間)	29,383 時間 (2,472 時間)	1,752 人 (275 人)	1,556 人 (367 人)
ヘルパーステーションゆい	6,187 時間 (360 時間)	6,758 時間 (272 時間)	424 人 (63 人)	406 人 (53 人)
合計	80,360 時間 (8,594 時間)	80,911 時間 (12,848 時間)	5,839 人 (1,886 人)	5,685 人 (2,080 人)

改善事項

(1) 静岡市新総合事業への積極的な参入

今年度より、要支援者へのサービスが介護保険から静岡市の新総合事業として再編された。しかし、採算性から事業受託に消極的な事業所も数多ある中、本会では全ての事業所において指定を受け、個々の利用者が必要とするサービスを途絶えさせることなく継続的に提供することを最優先とし、積極的に利用者の受け入れを実施した。

(2) 訪問介護民間事業所の撤退に伴う対応

ここ数年、人材不足に加え働き方改革等の余波を受け、訪問介護事業から撤退する事業所が相次いでおり、静岡市内の事業所でも統廃合が行われている。事業所の事情により利用者が不利益を被ることのないよう、サービス撤退事業所の利用者を可能な範囲で受け入れた。

課題

(1)慢性的な人材不足への対処

訪問介護事業所では本会に限らず、人材不足が慢性化して久しい。さらに本会においては、ここ数年で多数の主力職員が定年退職を迎えることとなるため、人材採用の成否が事業の存続をも左右しかねない状況である。人事給与を含め職員採用制度の抜本的見直しとともに、世代交代を円滑に進めるための人材育成が急務である。

(2)更なるコンプライアンス徹底を意識した人材育成とサービス提供体制の構築

介護保険法等各種法令の改正に加え、利用者並びに家族の介護に対する意識の変容も見られ、サービス事業所は日々新たなニーズへの対応を求められている。そのような状況においても、各種法令を踏まえつつ新たなニーズに柔軟に応えることのできる人材育成と提供体制の構築が必要である。

2 障害福祉サービス事業

本会では、障害者総合支援法に基づく指定事業所として、居宅介護・重度訪問介護・同行援護事業を静岡市内4事業所で実施している。

また、あわせて静岡市の地域支援事業である移動支援事業も受託している。

各事業所の実績は次のとおりである。

区分	障害福祉サービス			
	派遣時間 ※()は移動支援		利用者数 ※()は移動支援	
	平成29年度	平成28年度	平成29年度	平成28年度
ヘルパーステーションしづおか	11,086 時間 (375 時間)	12,453 時間 (418 時間)	1,075 人 (129 人)	1,035 人 (129 人)
ヘルパーステーションはーとぴあ清水	11,299 時間 (997 時間)	10,545 時間 (1,107 時間)	1,000 人 (204 人)	856 人 (228 人)
ヘルパーステーションかんばら	4,186 時間 (514 時間)	4,045 時間 (440 時間)	194 人 (48 人)	308 人 (47 人)
ヘルパーステーションゆい	983 時間 (312 時間)	915 時間 (290 時間)	151 人 (71 人)	130 人 (67 人)
合 計	27,554 時間 (2,198 時間)	27,958 時間 (2,255 時間)	2,420 人 (452 人)	2,329 人 (471 人)

改善事項

(1) 障害福祉サービス提供の強化による地域共生社会実現への寄与

静岡市内の訪問介護事業所においては、採算性や人材不足を理由に、障がい者を対象とするサービスの指定を受けない事業所も少なくない。本会では、地域に暮らす全ての人が住み慣れた地域で生活を送り続けることができる共生社会を実現すべく、障害福祉サービスの提供を強化した。

課 題

(1) 多種多様なニーズに応えられる介護人材の確保・育成と、そのための体制整備

障害福祉サービスは利用者の年齢や心身の状況、ニーズが多岐にわたり、サービスを提供する職員にも様々な知識や技術が必要とされる。ここ数年では、県外から観光に訪れる障がい者の支援依頼など、新たなニーズや利用方法も生まれている。

また、特に、精神に障がいを持つ利用者の増加が際立っており、従来の介護や生活支援だけではなく、精神的な支援も不可欠である。そのようなニーズ変容にも対応できる介護人材を育成すべく、本会職員育成計画等に基づいた研修への参加促進を行う。

3 通所介護事業

通所介護事業については、激しい競争下にある現状は依然変わらない。新規事業所の参入が進み、その一方で撤退を余儀なくされる事業所も少なくない。下表の実績からもわかるように、本会の通所介護事業も苦戦を強いられている。時代の流れを読み、利用者やその家族、ケアマネジャーの「ニーズ」を的確に掴む力は不可欠であり、それらをくだ上で本会サービス事業所の「強み」を発信しなければならない。ここで具体的な行動を起こせるかどうかが、選ばれる事業所になるか否かの分かれ道となる。

各事業所の実績は次のとおりである。

区分	利用回数(予防・総合)		利用者数(予防・総合)	
	平成29年度	平成28年度	平成29年度	平成28年度
デイサービスセンター エン・フレンテ	10,554回 (220回)	10,795回 (456回)	1,030人 (38人)	1,028人 (76人)
デイサービスセンター はーとぴあ清水	6,178回 (158回)	6,684回 (282回)	639人 (31人)	702人 (48人)
デイサービスセンター すこやか	7,826回 (535回)	8,430回 (538回)	744人 (90人)	826人 (102人)
合計	24,558回 (913回)	25,909回 (1,276回)	2,413人 (159人)	2,556人 (226人)

改善事項

(1)収益確保に向けた取り組み

職員一人あたりの利用者数の増減に合わせ、平成28年度に引き続き、各事業所において人員配置の見直しを行った。

(2)サービス提供環境の整備による利用者満足度の向上

エン・フレンテでは給食業者の変更、配管漏水修繕の実施、ルームテーブルの買替による導線確保等によりハード面の整備を進めた。はーとぴあ清水では室内装飾の見直しを実施。すこやかでは離設防止センサーを導入し、安全面を確保した。

また、全事業所においてリハビリ機能付きのカラオケ機器を導入し、利用者の健康増進を図る取り組みを開始した。

課題

(1) 内部サービス事業所間及び地域部門との連携

地域包括支援センターも参加する形での拠点会議の開催を進め、拠点内現状分析、課題整理、今後の具体的な行動に向けた役割分担等を行う。

(2) 情報発信による外部の認知度向上

各サービス事業所のアピールポイントを明確にし、本会はもちろん、他法人の居宅介護支援事業所に情報発信を行う。

(3) 機能訓練の強化

介護保険法の改正により、通所介護を対象として ADL 維持等加算が新設され、心身機能の維持や改善に対するアウトカム評価が進められることが予想されるため、各事業所においてリハビリ機器の導入を検討する。

4 訪問入浴介護事業

様々な疾病や障がいにより自宅浴室での入浴が困難な方のもとに、看護師を含めた職員が訪問入浴車で伺い、居室での入浴サービスを提供している。重度要介護者の介護を在宅から施設へ託す動きが顕著に見られる一方で、医療制度改革に伴う在宅療養患者へのニーズはなくなることはなく、訪問入浴サービスが在宅で介護を必要とされる方にとって必要なサービスであることに変わりはない。ただし、末期がん等重篤な疾病をもつ利用者が多いため、短期間でのサービス提供となることも多く、依然として訪問入浴サービスを取り巻く環境は厳しい状況にある。

各事業所の実績は次のとおりである。

区分	利用回数（予防）		利用者数（予防）	
	平成29年度	平成28年度	平成29年度	平成28年度
しみず	1,577回 (7回)	2,152回 (7回)	364人 (4人)	472人 (4人)
ゆい	997回 (0回)	1,045回 (0回)	164人 (0人)	194人 (0人)
合計	2,574回 (7回)	3,197回 (7回)	528人 (4人)	666人 (4人)

改善事項

(1)サービスの質の向上

これまで、東京で開催されてきた研修に参加するとともに、訪問入浴車両の製造元である「株式会社デベロ」から講師を招き、近隣の事業所と共同して、清水で職員研修を開催した。これにより、他の事業所との情報交換、多くの職員の研修参加が可能となった。

また、訪問入浴を重度在宅療養患者の健康管理の一環として提案できるよう担架スケールを導入し、健康管理の一環としてサービスの質の向上も図られた。

課題

(1)利用者の獲得と事業継続

静岡市では年4%減の割合で介護給付費が減少しているサービスで、ここ数年、民間事業所の撤退が相次いでいる。在宅で療養生活を送る方が安心して地域で生活をするためには、訪問入浴サービスは欠かすことのできないサービスである。しかし、事業継続には、相応の体制とそれを維持するための収益確保が前提条件になる。そのためには、利用者、家族、ケアマネジャー、医療機関等に対して、訪問入浴サービスならではの利点をアピールするとともに、老朽化した設備は、寄贈、助成事業で更新させながら、経営を担保しつつ事業継続させる必要がある。

5 居宅介護支援事業

介護支援専門員は、在宅で生活している方の相談に応じ、介護サービスの利用調整や関係者間の連絡等をすることで、利用者が心身の状況にあわせて自立した日常生活を営むことができるよう支援を行っている。本会では、葵区及び駿河区に各1事業所、清水区に3事業所を運営し、井川から蒲原まで静岡市内全域でサービス提供を実施している。

各事業所の実績は次のとおりである。

区分	居宅介護支援					
	利用者数(予防)		認定調査件数		平均担当件数	
	平成29年	平成28年	平成29年	平成28年	平成29年	平成28年
しづおか	3,413人(1,086人)	3,307人(1,062人)	70件	176件	34.3件	32.5件
エン・フレンテ	3,112人(552人)	3,181人(650人)	87件	193件	34.9件	34.0件
はーとぴあ清水	2,900人(538人)	3,042人(423人)	227件	123件	28.2件	32.1件
かんばら	1,634人(148人)	1,622人(103人)	93件	92件	29.5件	32.3件
ゆい	1,503人(160人)	1,569人(109人)	49件	52件	26.4件	32.5件
合計	12,562人(2,484人)	12,721人(2,347人)	526件	636件	30.6件	32.7件

改善事項

(1)特定事業所加算の算定とサービス提供体制の強化

本会にて事業展開する6事業所うち井川を除く5事業所において、主任介護支援専門員・常勤介護支援専門員を適正に配置することで特定事業所加算を継続し、サービスの質の向上とともに、安定的に運営ができる体制作りを行った。

(2)居宅介護支援事業と地域福祉活動事業の連携の強化

平成29年度から開始された新総合事業において、要支援者及び総合事業対象者に関するケアマネジメントを、本会が受託している地域包括支援センターとの連携を強化し、双方にとって効率的な業務運営を行った。

課題

(1) 医療と介護の連携強化

平成30年度介護保険法改正では、医療と介護の連携強化、介護保険と障害者福祉の共生型サービスの創設等があげられている。中重度の要介護者や障がい者等が、どこに住んでいても適切な医療、介護サービスを切れ目なく受けることができる体制作りが求められている。住み慣れた地域や自宅でずっと暮らしていただくために、主治医との連携を強化し、医療依存度の高い方にも対応できるケアマネジメント力を有した人材育成に取り組む必要がある。

(2) 居宅介護支援事業と地域福祉活動事業の連携強化

平成29年度から静岡市においても新総合事業が開始された。要支援者及び総合事業対象者に関するケアマネジメントの体系が大きく変容している。要介護者への居宅介護支援事業を継続しつつ、新たな介護予防ケアマネジメントについて、本会が受託している地域包括支援センターと連携を取りつつ、双方にとって効率的な業務運営を引き続き検討していく必要がある。

6 訪問看護事業

訪問看護ステーションでは、疾病や障がいを持った方が在宅でも安心して療養生活を送れるよう、主治医の指示のもと、健康状態のチェックから医療的ケア、ターミナルケア、リハビリテーション、清潔援助、介護支援、日常生活全般のサポートを行っている。身体的サポートのみならず、利用者及び家族の思いを尊重した上で精神面での支援や意思決定援助等のサービスを行っている。

事業所の実績は次のとおりである。

区分	利用者		利用回数	
	平成29年度	平成28年度	平成29年度	平成28年度
医療保険	204人	181人	9,662回	9,837回
介護保険	469人	447人	17,772回	16,833回
合計	673人	628人	27,434回	26,670回

平成29年度	訪問看護師等		平成28年度	訪問看護師等	
	常勤	15人		常勤	13人
	非常勤	29人		非常勤	30人

改善事項

(1) 多様な利用者ニーズへの対応

医療保険制度改革により療養の場が病院から在宅へと変化しており、本会においても、がん末期や終末期等医療依存度の高い利用者の割合が高くなっている。利用者の多様化するニーズに対応すべく、看護師に加えリハビリ専門職の配置の充実を図ってきた。

また、家庭への訪問だけでなく中央特別支援学校に通学している人工呼吸器装着している児童への滞在型訪問、就労支援のための職場への訪問等も行った。人生の最期を住み慣れた家で家族に囲まれて過ごしていただくことで、本人や家族の満足度を上げるターミナルケアを提供している。

(2) 地域医療への貢献

職員の充実とともに、外部事業所及び関係者等から外部講師派遣依頼が増加している。地域医療の質の向上に貢献することも機能強化型事業所としての算定要件になっているため、講師の派遣協力等積極的な取り組みを進めた。

課題

(1)体制の維持・強化

国が構築を進めている「地域包括ケア」において、訪問看護事業がその中心的存在として機能することは明らかである。24時間対応、超重症患者への対応、ターミナルケア等在宅医療を推進する役割を果たす機能強化型訪問看護ステーションとして、市内有数の規模や高い看護及びリハビリテーションの質を維持するためにも、安定した経営は必須条件である。

24時間対応体制加算を維持しつつ、利用者のニーズに沿った質の高いサービスを提供するため、職員の確保、看護スキルの向上を図るとともに、休日や時間外等の要望にもスムーズに対応できるよう勤務体制を整える。

(2)介護職・他課職員・地域住民との連携強化による個別支援

「本会ならではの訪問看護」を目指し、医療・介護の専門職との連携を強化するとともに、本会他課職員や地域住民と顔のつながる関係をつくり、個別支援を一層充実させていく。

VII 指定管理事業

1 静岡市地域福祉交流プラザ指定管理事業

静岡市から指定管理者として受託し、地域福祉の増進、地域福祉活動の場を提供することを目的に、各種地域福祉推進事業の実施及び情報の提供を行うとともに、会議室、ボランティア交流室等の管理運営を行った。

(1) 地域の実情に応じた社会福祉活動を行なうための研修会等の企画運営

①支え合いの仕組みづくり実践講座

支え合い活動の展開についてグループワークを通じて考えることにより、小地域における支え合い活動の拡大を図るために、ボランティア活動に関心のある市民を対象に、地域の福祉課題に関心を持ち、誰もが安心して住みやすい地域づくりの担い手となる人材を育成した。

期 日 平成 29 年 11 月 20 日(月)～12 月 18 日(月) 全 4 回

会 場 静岡市中央福祉センター 31 会議室

内 容 第 1 回 なぜ支え合い活動が必要なのか?

第 2 回 高齢者の日常生活を支える

第 3 回 子どもの健全育成を見守る

第 4 回 より暮らしやすい地域を目指して

参加者 延べ 56 人

②地域の支え合い活動シンポジウムの開催

介護保険制度等の改正や見直しでの制度の狭間である生活課題・福祉課題の解決に向けて、地域での支え合い活動の啓発を行い、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう地域の福祉力向上やインフォーマルサービスを一般市民に広く周知し理解を促し、支え合い活動の拡大を目指すことを目的に開催した。

期 日 平成 30 年 3 月 15 日(木)

会 場 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階第 1・2 研修室

テーマ 「地域の支え合い活動～今、地域に求められていること～」

【第 I 部】講演 「介護保険制度等の諸制度改正からみる地域住民による支え合い活動の必要性・重要性」

講師 静岡県立大学短期大学部 社会福祉学科 准教授 鈴木俊文氏

【第 II 部】葵区内の支え合い活動の実践事例発表

コーディネーター 静岡県立大学短期大学部 社会福祉学科 准教授 鈴木俊文氏

助言者 葵区地域福祉推進センター

主任兼生活支援コーディネーター 小久江陽子

a 麻機地区社協 福祉サポートーズクラブ

「ちょっとした困りごと支援事業」の取り組みについて

報告者 麻機地区社会福祉推進協議会 会長 岡山ミサ子氏

麻機地区社会福祉推進協議会 副会長 杉山正幸氏

麻機地区社会福祉推進協議会

福祉ホーラスクラブ クラブ長 高橋邦男氏

b 足久保地区 高齢者サロン

「まつぼっくり」の取り組みについて

報告者 足久保コミュニティーカフェ「まつぼっくり」 代表 志村渡氏

足久保コミュニティーカフェ「まつぼっくり」 スタッフ 清水密枝氏

足久保地区社会福祉協議会 副会長 高橋金二氏

参加者 142人(地区社協役員、自治会、民生委員児童委員、一般市民)

(2) 地域住民の社会福祉活動への理解と関心を高めるための啓発

①地域福祉交流プラザだよりの発行

地域福祉交流プラザの役割や事業内容、会議室の利用、地域福祉やボランティア活動について、広く市民に周知するために、講座の案内やボランティア活動の情報、会議室の利用方法等を掲載した広報誌「プラザだより」を年2回、計32,000部発行し、自治会、公共施設等に配布した。

②ホームページの運営

地域福祉交流プラザの役割や事業内容、会議室の利用、地域福祉やボランティア活動について、広く市民に周知するために、講座の案内やボランティア活動の情報、会議室の利用方法や空室情報等を掲載したホームページを運営した。

③夏休みボランティア・福祉体験「はじめの一歩」

自分たちの住む地域の福祉施設で働く人たちや福祉施設利用者、障がい当事者とのふれあいを通して地域の福祉に関心を持ってもらうことを目的として開催した。

期日 事前研修 平成29年7月21日(金)、22日(土)

体験 平成29年7月29日(土)~8月27日(日)

会場 葵区内の福祉施設、ボランティア団体、児童館等17団体

参加者 小・中・高校生、延べ165人

(V-1 共同募金配分金事業(2)-④記載 再掲)

④第13回城東保健福祉エリア「地域交流まつり」への参加

地域に開かれた施設として、保健予防や健康づくり、地域福祉について啓発を行い、城東保健福祉エリア内の施設紹介や体験コーナーを通じて、住民同士が楽しくふれあう場をつくることを目的に開催される地域交流まつりに参加した。

期日 平成29年11月11日(土)

場所 静岡市城東保健福祉エリア

内容 はとなを作ろう!、パネル展示、休憩室、中古衣料回収、フードドライブ、市民アンケート、共同募金、移動児童館、スタンプラリー

来場者 約3,500人

(II-1 地域福祉推進事業(6)-②ア記載 再掲)

(3) 地域福祉活動に関する調査

①地域福祉に関する市民アンケート調査の実施

市民の福祉及びボランティアに関する意識並びに地域の現状及び課題を把握し、今後の活

動に反映させるため、一般市民を対象に市民アンケート調査を実施し、368件のご協力をいただきました。

福祉に関する情報は静岡市の広報紙で知る方が多く、次いでテレビ、新聞、本会広報誌の順で知り、生活上の問題は親戚、知人・友人、行政、民生委員児童委員の順で相談し、地域で安心して暮らしていくためには、障がい者、高齢者、子ども、仕事と子育ての両立の順に今後特に力をいれてほしいと思っている結果であった。

問) 福祉に関する情報をどのような方法で入手されていますか。 (単位 件)

市の広報誌や HP	152
テレビ	115
新聞	114
市社協の広報紙や HP	62
自治会・町内会役員や回覧板	57
知人・友人	50
地域新聞	43
ラジオ	11
ケーブルテレビ	2
地区社会福祉推進協議会の役員や広報誌	8

問) 生活上の問題で相談したい時に、どなたに相談したいですか。

親族	216
知人・友人	104
行政（市役所・公共機関等）	59
民生委員児童委員	28
民間の福祉施設	24
近所の人	18
警察	16
自治会・町内会	11
相談相手がいない	10
その他	11

問) 地域で安心してくらしていくために、今後特に力をいれてほしいと思われることはどのようなことですか。

障がい者の福祉や社会参加の支援	180
高齢者の一人暮らしや二人暮らしの支援	165
高齢者の介護予防	129
次世代を担う子どもの育成支援	126
仕事と子育てを両立させる支援	114
防災に関する具体的な取り組み	112
母子・寡婦・父子家庭等の福祉や社会参加の支援	84
健康づくりに関する講座	67
NPOやボランティアの参加に関する情報発信	41
その他	9

(4)社会福祉に関する相談及び助言

市民が抱える様々な生活課題・福祉課題の相談に対して、「静岡市暮らし・しごと相談支援センター」と協働し、民生委員・児童委員、地域包括支援センター、児童館、城東保健福祉エリア内事業所、ボランティアや地域住民等と連携し、生活課題等の課題解決に導く総合的な相談支援を行った。

また、生活課題等について、関係機関や地域住民等とともに解決を考え対応する中で、地域の中の支え合いの活動の実践や仕組みづくり等を通じた地域づくりの助言を行った。

相談回数

区分	件数
新規相談件数	412 件
再相談件数	2,336 件

新規相談件数の主訴(複数回数)

区分	相談割合
経済的困窮	26%
就労困難	20%
債務・滞納	15%
障がい	13%
社会的孤立	11%
その他	15%

※(静岡市暮らし・しごと相談支援センター葵区窓口受付分)

(5)社会福祉に関する情報提供

①ボランティア相談・コーディネート

ボランティア活動の需給調整や必要なボランティアの養成を通して、個別の生活課題や地域の福祉課題の解決を図るとともに、住民の支え合いや福祉に対する理解を促進するために、市民やボランティアグループ、社会福祉施設等からのボランティア活動に関する相談や依頼を受け、連絡調整及び活動先の紹介、情報提供等を行った。

特に、話し相手や買い物の付き添い等、日常生活を支援するボランティアについての需給調整を充実させるために、生活支援コーディネーターや暮らし・しごと相談支援センター、地域包括支援センター等の相談機関と連携し、活動団体との連絡調整や活動先の紹介や情報提供等を行った。

項目	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
ボランティア活動への参加相談	29件	64件	81件	75件	105件
ボランティアの派遣依頼相談	34件	56件	53件	94件	36件
その他の相談	0件	4件	8件	15件	10件
合計	63件	124件	142件	184件	151件

(件数 過去5か年)

(V-1 共同募金配分金事業(4)-④記載 再掲)

②地域福祉活動に関する情報提供・支援

小地域における福祉活動を推進するため、高齢者や子育て等を対象とした、住民によるサロン運営者やこれから活動を始めようとする市民やボランティア団体、新たな活動を開拓しようとする地区社会福祉協議会等からの相談を受けた。その中で、他地区における活動事例の紹介、活動プランの提案、運営上の課題解決に向けた助言等の支援を行った。

また、ボランティア交流室に福祉活動に関する資料図書を閲覧できるようにし、活動に必要な情報提供を行うほか、ボランティア登録者に毎月1回、年12回ボランティア情報誌の送

付を行った。

③福祉に関する学習の支援

子どもから高齢者まで、福祉やボランティアについての理解を深めるとともに、地域福祉への関心を高め、福祉活動への協力や理解を広げるため、地域、会社、学校、家庭等の様々な場所で福祉を学ぶための相談に応じ、学習プログラムの提案や講師の紹介等を行った。

また、福祉教育における城東保健福祉エリア内の施設見学として、希望者に説明を行い、ユニバーサルデザインについての学習の場を提供した。

(6)社会福祉活動のための施設の提供

①会議室等の貸し出し、保健福祉エリア見学等

福祉団体やボランティア活動者等の住民活動支援として、会議室の貸し出し及びボランティア交流室の施設利用サービスを実施した。

また、福祉教育における城東保健福祉エリア内の施設見学として、希望者に説明を行い、ユニバーサルデザインについての学習の場を提供した。

区分	会議室				ボランティア 交流室	エリア見学
	第1	第2	第3	合計		
利用件数	516 件	288 件	261 件	1,065 件	917 件	17 件
利用人数	5,832 人	2,955 人	2,263 人	11,090 人	4,887 人	1,042 件

※利用件数、利用人数の推移（過去 5か年）

区分	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
会議室	1,065 件 11,090 人	990 件 10,866 人	972 件 11,586 人	987 件 11,185 人	833 件 9,319 人
情報コーナー	—	—	—	廃止	72 件 77 人
ボランティア 交流室	917 件 4,887 人	1,010 件 6,144 人	1,081 件 6,347 人	899 件 5,015 人	864 件 4,672 人
合計	1,982 件 15,977 人	2,000 件 17,010 人	2,053 件 17,933 人	1,886 件 16,200 人	1,769 件 14,068 人

②福祉活動資機材の貸し出し

福祉用具を貸し出しすることにより福祉体験や福祉教育の機会を増やし福祉への理解促進を図るとともに、用具を用いて催事等における障がい者等への配慮を図ることにより、社会参加を推進するため、希望者に福祉活動に必要な各種資機材（車いす、点字器、白杖、高齢者疑似体験セット、ループアンテナ、ワイヤレスアンプ、プロジェクター、スクリーン）の貸し出しを行った。

【平成 29 年度貸し出し状況】

福祉用具・備品	件数
車いす	50 件
アイマスク	11 件
白杖	6 件
福祉用具・備品	件数

点字器	6 件
シニアシュミレーター	23 件
簡易磁気ループ	2 件
プロジェクター	34 件
スクリーン	19 件
アンプ一式	2 件

③総合案内の運営

城東保健福祉エリアに来訪された方や電話による問い合わせに対し、行き先の案内や要望に基づく手続きについての助言等を行った。

④城東保健福祉エリアボランティアの育成支援

地域福祉交流プラザ及び城東保健福祉エリア内における、総合案内・館内案内、プラザ及び社協掲示物製作、福祉教育における城東保健福祉エリア内の施設見学、福祉花壇の水やり等のボランティア活動の推進を図り、ボランティア活動者とともに市民に親しみがあり、気持ちよく利用していただく施設を目指すため、ボランティアの育成・活動支援を行った。

主な活動	交流プラザ内の総合案内、会館案内受付補助員、 プラザ及び社協の掲示物製作、福祉教育の館内施設見学説明
登録人数	19 回
定例会	12 回
掲示物作成	8 回
情報紙封入作業	12 回

⑤利用者満足度調査の実施

地域福祉交流プラザが提供する市民サービス、職員対応、事業運営についてさらに市民の満足が得られるよう、利用者満足度アンケートを実施した。544 件の回答を得た中で、施設設備や使いやすさについては、掲示を評価する意見等をいただいた。職員の対応については、「あたりがやわらかい対応で嬉しい」といった良い評価をいただいた。

改善事項

(1) 地域福祉一般市民アンケート結果からの事業展開と利用者にやさしく、親切な施設運営

アンケート結果を踏まえ、支え合いの仕組みづくり実践講座や夏休みボランティア・福祉体験「はじめの一歩」、地域福祉活動に関する情報提供等を行った。

また、市民が利用しやすい施設運営がなされるようエリアボランティアの協力による総合案内業務の補助、印刷機等設備の使い方説明を実施した。また、ボランティア交流室の季節感を感じる飾り付けや清掃を実施し、心地よく施設利用いただけるよう心掛けた。

(2) 地域での支え合い仕組みづくりの推進

これまで実施してきた、一般市民向けの「地域の支え合い活動シンポジウム」や「支え合いの仕組みづくり実践講座」を葵区地域福祉推進センターと一体となって継続的に進めることにより、小地域の視点で地域住民が抱えているちょっととした困りごとを明らかにし、誰もが安心して暮らせるための「支え合いの仕組みづくり」の必要性について住民の意識を高め、支え合う心の醸成を図ることができた。

また、葵区内の生活支援体制整備の拠点、ボランティア活動拠点等、地域福祉活動全般の推進拠点として、葵区地域福祉推進センターの生活支援コーディネーターや地域福祉コーディネーター、葵区暮らし・しごと相談支援センターと協働し、住民が相談を寄せやすい相談窓口としての機能強化を図った。

課題

(1) 複合施設内外の相談機関との連携

最近は複合的な課題が多く、複数の相談機関で相談対応する必要が多い。地域福祉交流プラザが入居する城東保健福祉エリアは、葵区の保健・福祉の拠点として、行政、障害者施設、子育て施設、高齢者支援施設等、多機関と多職種で構成されている。その利点を更に生かし、課題を共有し対策を考える仕組みが必要である。

また、施設外相談機関との情報共有、役割分担を考える場については、葵区地域福祉推進センター事業と関連して、どのように連携するか考えなければいけない。

(2) 幅広い世代がボランティア活動に参加する機会の提供

ボランティア相談件数が年々減少してきている。ボランティア講座の開催や広報誌にて相談窓口の紹介をしてきたが、市民の認知度が少ないと思われる。高齢者の増加もあり、「静岡市元気いきいき！シニアサポート制度」を活用したり、学生層には各種学生向けボランティア講座をきっかけに、継続してボランティア活動が続けられるような仕組み作りが必要である。

また、小地域の福祉課題を汲み取り、課題解決に向けた活動に参加する担い手をどう育成し、活動につなげるかが課題である。

2 静岡市井川高齢者生活福祉センター指定管理事業

平成 29 年度をもって第 2 期指定管理が終了となり平成 30 年度より第 3 期指定管理が始まる。過疎化と高齢化が進んだ井川地区において、指定管理者として通所介護事業、短期入所生活介護事業、居宅介護支援事業、生活支援型居室事業を行っている。また地域における唯一の高齢者施設であり、利用者・地域住民に頼られるサービス事業所を目指していく。

事業所の実績は次のとおりである。

通 所 介 護			
利用回数（予防）		利用者数（予防）	
平成 29 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
1690 回(252 回)	1795 回(397 回)	240 人(46 人)	227 人(60 人)

短 期 入 所			
利用回数（予防）		利用者数（予防）	
平成 29 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
113 回(0 回)	134 回(0 回)	20 人(0 人)	25 人(0 人)

居宅介護支援			
利用者数（予防）		認定調査件数（市受託事業）	
平成 29 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
247 件(0 件)	275 件(0 件)	33 件	30 件

改善事項

(1)職員確保

介護支援専門員及び看護師等の専門職の補充。

(2)地域住民との交流

民生委員・児童委員と住民との地域会議が行われた事により、住民が掲げる問題に対しての課題を把握することができた。

課題

(1)施設の計画的修繕

来年で当施設も設立20年を迎える。老朽化が進み不良箇所が多く目立ってきた。本会が行う小破修繕から市と協議して行う大型修繕、複合施設(井川診療所・井川学校給食センター)で按分して行う修繕と複雑ではあるが優先順位を付け、修繕計画に基づき確実に行う必要がある。

また、危険を伴う緊急修繕(消防設備の不備)などにも早急に対応しなければならない。予算確保が難しい大型修繕も静岡市と協議を進め、近く実施していきたい。

(2)人材確保と職員の育成

高齢化が進んでいるため後継者を作ることが難しく、地区外から職員を確保する必要があるが、社宅等の数が限られている。

また、研修機会や事例が少ないため、他の事業所に積極的に派遣し、職員のスキルアップに向けた取り組みに力を入れていきたいが、受け入れ先の確保が難しい。

3 静岡市清水中央老人福祉センター指定管理事業

高齢者の社会参加・生きがいづくりの場として、静岡市が設置している静岡市清水中央老人福祉センターを受託運営し、仲間づくりや健康づくり、教養の向上を目的に初心者教室、清水壽大学等各種事業を実施した。

平成 11 年度からの指定管理者としての長年にわたる経験を活かし、より一層の市民サービスに努めている。

【利用状況】

(件数　過去 3 か年)

年度		平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
開館日数		332 日	332 日	332 日
利用者数 (延べ人数)	個 人	33,807 人	35,174 人	37,959 人
	団 体 (シニアクラブ)	11,915 人	13,638 人	14,432 人
	寿 大 学	1,689 人	1,767 人	1,879 人
	教 室	805 人	615 人	601 人
	合 計	48,216 人	51,194 人	54,871 人
団体数		609 団体	595 団体	611 団体
送迎バス	利用台数	95 台	100 台	114 台

改善事項

(1)個人利用者の促進

清水中央老人福祉センターは、シニアクラブ(旧名老人クラブ)の利用を対象にした施設として設立されていた。そのため、団体利用が中心で、個人の利用者のほとんどが入浴利用者であった。しかし、シニアクラブへの加入者や清水壽大学の受講生の減少により全体の利用者は年々減少してきている。そこで、平成 29 年度は高齢者が関心を持たれている健康や生きがい作りにテーマを絞り、教室を実施した。健康増進に関する事業では、自立体力トレーニング教室に 518 名、脳いきいき認知症予防教室に 124 名が参加した。生きがい作り事業では、絵手紙教室に 102 名、キットパス教室(安全なクレヨンを使用したコースター作り)に 10 名、スクラップブッキング教室(アルバム作り)に 20 名、折り紙教室に 31 名が参加する等、平成 28 年度に比べ教室事業に 190 名増の 805 名が参加した。

今後も、個人利用の促進に向けて、利用者のニーズに沿った事業を展開していきたい。

課 題

(1)社会環境の変化に伴う会場の改善

老人福祉センターはこれまで、畳のある場所が利用の中心であり、施設としても和室の部屋しか設置されていなかった。しかし、社会環境の変化に伴い日常的に畳に座る生活が少なくなり、家庭においても机や椅子での生活が一般的になっている。そのため、老人福祉センターのように畳の部屋での利用に不便さを感じる高齢者が増え、施設の改善を求める声が日増しに大きくなっているため、集会室の環境改善をどのように進めるかが課題である。

4 静岡市児童館指定管理事業

子どもの健全育成を目的に、地域住民の理解と参画を求めながら子どもの発達段階に応じた遊びの提供・指導や居場所づくりに努めた。

また、近年では、不登校や貧困など子どもを取り巻く多様な課題に対して、早期発見や見守り支援機能の構築に向けて、家庭や学校等の専門機関と連携を図った。

平成 29 年度は、5 年間の指定管理期間最終年度であることを踏まえ、今後の児童館運営について、本会が運営する放課後児童クラブや中央子育て支援センター等と有機的な連携を図る等、0 歳から 18 歳までの子どもの育ちを支援できる唯一の施設として、その特性を最大限活かした運営について検討した。

(1) 開館日数 287 日

(2) 来館者状況（延べ人数）

(過去 3 か年 単位 人)

館名	年度	幼児	小学生	中学生	高校生	保護者	一般他	移動児童館	合計
豊田	29	6,527	7,494	1,807	201	6,429	1,092	2,833	26,383
	28	6,539	9,057	874	125	6,294	1,202	2,942	27,033
	27	6,222	9,177	776	379	5,907	850	910	24,221
西奈	29	4,967	8,315	3,631	627	5,556	869	1,971	25,936
	28	5,598	9,522	3,746	775	6,312	1,053	2,602	29,608
	27	5,535	9,705	3,472	610	6,250	1,017	643	27,232
安東	29	12,552	14,154	1,656	257	11,783	2,810	1,784	44,996
	28	11,756	13,216	1,291	54	10,831	2,915	2,600	42,663
	27	12,022	12,936	1,241	98	10,871	3,135	1,160	41,463
美和	29	5,306	9,289	873	109	4,802	1,410	3,194	24,983
	28	5,164	11,276	377	197	4,450	1,312	2,997	25,773
	27	4,994	10,759	652	310	4,078	1,416	1,690	23,899
麻機	29	5,563	15,186	2,551	243	5,467	1,363	3,825	34,198
	28	6,699	16,694	3,021	280	5,993	1,358	3,260	37,305
	27	5,873	16,239	2,494	349	6,167	1,339	1,780	34,241
長田	29	27,788	19,906	1,783	243	25,125	752	2,121	77,718
	28	28,576	20,881	1,992	282	24,637	636	2,014	79,018
	27	30,688	20,158	1,704	347	27,465	773	579	81,714
中島	29	7,745	11,949	1,529	408	7,267	1,645	2,063	32,606
	28	8,040	12,992	2,141	471	7,568	1,535	2,182	34,929
	27	7,367	13,547	2,628	845	6,977	1,233	777	33,374

(過去3か年 単位 人)

館名	年度	幼児	小学生	中学生	高校生	保護者	一般他	移動児童館	合計
服織	29	4,186	20,664	2,669	299	3,662	784	3,795	36,059
	28	4,082	21,982	1,764	252	3,601	752	3,083	35,516
	27	4,557	19,203	1,963	191	3,734	776	1,735	32,159
蒲原白銀	29	2,883	6,957	1,188	180	4,000	1,191	3,332	19,731
	28	2,932	6,509	875	100	4,114	1,105	2,620	18,255
	27	3,969	7,441	988	99	5,220	1,068	1,059	19,844
由比	29	2,051	6,986	375	9	2,173	854	2,315	14,763
	28	2,554	8,581	800	30	2,520	912	3,108	18,505
	27	2,982	8,576	386	14	2,593	815	478	15,844
草薙	29	11,822	9,069	1,267	396	12,625	1,621	4,776	41,576
	28	13,223	9,689	1,500	951	13,476	1,334	4,550	44,723
	27	13,324	9,937	1,312	254	13,704	1,716	2,983	43,230
合計	29	91,390	129,969	19,329	2,972	88,889	14,391	32,009	378,949
	28	95,163	140,399	18,381	3,517	89,796	14,114	31,958	393,328
	27	97,533	137,678	17,616	3,496	92,966	14,138	13,794	377,221

改善事項

(1) 専門機関と連携した問題の早期発見と発生予防

児童館に来館する支援が必要な子どもや乳幼児親子に対して、児童厚生員が日々の関わりの中から信頼関係の構築に務めつつ、その対応について、公的な専門機関をはじめとする地域の様々な組織と連携を図り対応した。

また、各区児童館連絡会(各区地域福祉推進センターと共同)において、見守り支援を行っている事例の検討や研修会を定期的に開催し、関係機関との情報共有や職員の資質向上に努めた。

(2) 創意工夫及び強化事業の実施

平成25年度から创意工夫及び強化事業として実施してきた、「①子どもボランティアの育成、②地域貢献できる子どもの育成、③児童館における福祉教育の実施、④中・高生の居場所づくり、⑤父親・祖父母とのふれあい事業」を一貫して実施してきた。現在では、日頃来館する子どもたちが、自ら主体的にボランティアとして事業に参加したり、父親や祖父と一緒に来館する家族が増加した。

課題

(1) 子どもたちの豊かな育ちを考えた事業の実現

子どもたちの成長は連続的な日々の学び、生活等の繰り返しの中で育まれていく。児童館は子どもも租育で事業の中で、0歳から18歳まで切れ目なく支援できる事業である。「発達と学びの連続性」から「豊かな育ち」を鑑みた場合、縦軸としての児童館を中心に、横軸としての、本会が他に受託する放課後児童クラブや中央子育て支援センター、他本会事業等との連携を図り、子どもたちの豊かな育ちを実現していく必要がある。

5 静岡市中央子育て支援センター指定管理事業

子育て支援の拠点施設として、静岡市が設置している静岡市静岡及び清水中央子育て支援センターの受託運営を行った。事業内容は、就学前の乳幼児（0～6歳）を対象とした一時保育事業の実施と、子育て交流サロンの運営である。

一時保育事業は、保護者が一時的に保育できない時の時間単位での保育の実施であるが、清水中央子育て支援センターにおいては、子ども園等に入所が決定するまでの期間等に利用できる月保育も実施している。

子育て交流サロンでは、未就学の子どもとその保護者等を対象に、乳幼児を連れて気軽に利用できる憩いの場として開放するとともに、子育て相談を受ける等、子育てを支援するための講座、イベントを企画、実施した。

また、両センターには子育てに関する相談を行う子ども未来サポーター（利用者支援業務）を配置している。

（1）静岡中央子育て支援センター 一時保育

①保育時間

区分	保育時間
平日・土曜日	午前7時から午後11時
日曜日・祝日	午前8時から午後8時
休館日	年始 1月1日から1月3日

②乳幼児数 開館日 362日

（単位 人）

年度	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計	1日平均
29年度	1,345	2,087	1,899	1,295	750	543	243	8,162	22.5
28年度	1,186	2,447	2,033	897	672	701	269	8,205	22.9
27年度	1,228	2,054	1,978	1,054	734	585	170	7,803	21.5

（2）清水中央子育て支援センター 一時保育、定期保育

①保育時間

区分	保育時間
利用時間	午前7時から午後9時30分
休館日	年末年始 12月29日から1月3日

②乳幼児数 開館日 359日

（単位 人）

区分	年度	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計	1日平均
一時保育	29年度	650	469	458	243	89	172	97	2,178	6.1
	28年度	624	463	513	166	225	225	42	2,258	6.3
	27年度	506	645	404	284	263	152	13	2,267	6.3
月保育	29年度	376	842	1,283	860	26	304	27	3,718	10.4
	28年度	495	1,326	1,556	580	560	92	41	4,650	13.0
	27年度	227	1,249	1,364	1,237	172	204	144	4,597	12.8

(3)子育て交流サロン

①開所日数

区分	29年度	28年度	27年度
静岡中央子育て支援センター	309日	309日	308日
清水中央子育て支援センター	301日	305日	306日

②利用者数

区分	年度	来所者数	相談件数
静岡中央子育て支援センター	29年度	43,848人	236件
	28年度	45,075人	341件
	27年度	48,602人	431件
清水中央子育て支援センター	29年度	16,167人	391件
	28年度	12,186人	217件
	27年度	12,747人	302件

③子ども未来サポートーー相談件数

区分	年度	相談件数
静岡中央子育て支援センター	29年度	796件
	28年度	798件
	27年度	307件
清水中央子育て支援センター	29年度	314件
	28年度	183件
	27年度	146件

改善事項

(1)組織体制の見直し

これまで、同センター内にありながらも別事業として運営していたファミリー・サポート・センターを両センターの下に置くことで、職員間の相互連携の強化、事業の相乗効果を生むよう体制の再構築を図った。

(2)サービスの標準化

静岡・清水、一時保育室・子育て交流サロンのリーダーで構成されるリーダー会議を定期開催し、センター間及び事業間のサービスの差異をなくし、安全への取り組み等の不均衡が生じないよう努めた。

課題

(1)人材の確保と育成

保育士の人材不足が進む中、今後の人材確保の在り方検討や若手の雇用が課題である。在職中の職員は全員が保育士資格を有しているが、人材の確保が難しくなっていることから保育補助員の導入も含めた検討が必要である。

また、保育水準を保つための職員研修や会議等の在り方の見直しも課題である。

(2)事業周知及び利用拡大

平成30年度より仕様書において年間利用者数の目標設定がされたが、静岡市では小規模保育園、認定こども園の整備が進み、一時保育室においては利用者数が減少傾向にある。

また、子育て支援センター（子育て交流サロン事業のみ）も市内に19箇所設置されている中、子育て交流サロンにおいても今後の周知活動、利用者ニーズの把握等を進めていく必要がある。

6 静岡市中央福祉センター指定管理事業

社会福祉団体等の育成を図るため活動の場を提供する等、福祉の発展に寄与すべく、静岡市が設置している静岡市中央福祉センターを受託運営し、会議室や車いすの貸出、福祉情報資料の提供等を行った。

また、入居している静岡市社会福祉協議会ほか、静岡市ボランティア団体連絡協議会等 10 団体が参加する年 2 回の入居団体連絡会を開催し、市民アンケートを参考にしながら静岡市中央福祉センターの管理、運営について意見交換を行い、円滑な運営に努めた。

(1)会議室等の貸し出し

静岡市に登録された社会福祉団体等を対象に会議室 5 室の貸し出しを行った。

ア 開館日数・利用登録団体

開 館 日 数	347 日
利用登録団体数	45 団体

イ 会議室の利用状況

区 分	平成 29 度	
	件 数	利用者数
聴覚障害者集会室（21 会議室）	715 件	9, 258 人
31 会議室	706 件	15, 751 人
32 会議室	716 件	4, 941 人
33 会議室	861 件	3, 310 人
大会議室	766 件	30, 433 人
計	3, 764 件	63, 693 人

ウ 福祉情報資料室

区 分	年度	来館者数	利用登録者数	図書貸出数	ビデオ貸出数
利用実績	29 年度	8, 200 人	38 人	2, 717 冊	22 本
月平均	29 年度	683 人	3 人	226 冊	2 本

エ 車いすの貸し出し

外出支援やけが等で、一時的に車いすが必要な場合や福祉教育の車いす体験等に対し、短期間の車いすの貸し出しを行った。平成 24 年度から、ホームページ上で車いすの無料貸し出しを掲載している。

また、福祉教育用車いす(小学生向け)3 台、子ども用(幼稚園児～小学生低学年向け)も 3 台保有し、特にケガ、病気等の貸出にも対応している。

区分	利用実績	
年度	29年度	28年度
利用件数	97 件	126 件
貸出台数	242 台	308 台

(2) 平成 25 年度～平成 29 年度 各年度利用状況表

ア 登録団体数

△	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
団体数	45 団体	44 団体	48 団体	48 团体	46 团体

イ 会議室利用人数

△	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
21 会議室	9,258 人	9,108 人	9,504 人	9,329 人	8,842 人
31 会議室	15,751 人	16,017 人	15,232 人	15,266 人	16,566 人
32 会議室	4,941 人	5,582 人	5,444 人	5,971 人	6,044 人
33 会議室	3,310 人	3,742 人	3,557 人	4,220 人	3,831 人
大会議室	30,433 人	30,772 人	29,868 人	28,396 人	29,119 人
合 計	63,693 人	65,221 人	63,605 人	63,182 人	64,402 人

ウ 福祉情報資料室利用者数

△	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
来館者数	8,200 人	8,544 人	6,906 人	6,301 人	8,036 人
利用登録者	38 人	54 人	38 人	53 人	68 人
図書貸出数	2,717 冊	2,625 冊	1,947 冊	1,742 冊	1,460 冊
ビデオ貸出数	22 本	2 本	15 本	16 本	67 本

エ 車いすの貸出

△	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
利用件数	97 件	126 件	101 件	234 件	190 件
貸出台数	242 台	308 台	161 台	543 台	386 台

改善事項

(1)施設老朽化への計画的対応と光熱水費の節減

静岡市との協議の結果、空調設備の老朽化に伴う修繕計画により、平成29年度は3階の空調設備の改修、防災盤の改修を行った。

また、電力供給の自由化に伴い、平成29年4月より供給会社を変更し光熱費の削減を図った。

課題

(1)修繕計画に基づく計画的対応

耐用年数を経過した付属設備を中心に、利用度の高い会議室等の老朽化が著しく、修繕が追いつかない現状もある。今後、ますます老朽化が進む中、修繕の必要度は高くなると考えられる。効果的に修繕や設備の更新等進めるため、修繕の計画化を行い、建物、付属設備（電気、空調、衛生等）については、委託元である静岡市へ適切に要望を行っていきたい。

7 静岡市清水社会福祉会館指定管理事業

清水区の総合的な福祉活動拠点として、静岡市が設置している静岡市清水社会福祉会館を受託運営し、児童から高齢者まで誰もが気軽に利用でき、交流を深める施設の会館運営を行った。多種の会館ボランティアが活躍し、大きな力となっている。なお、清水区地域福祉推進センターや静岡市清水中央老人福祉センターも入居している。

(1)会議室等の貸し出し

①開館日数

平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
332 日	332 日	332 日	331 日	331 日

②会議室等の利用状況

室 名	平成 29 年度		平成 28 年度	
	件数	利用者数	件数	利用者数
ボランティアビューロー (1 階)	588 件	4,476 人	571 件	4,718 人
福祉団体室 (1 階)	610 件	5,785 人	612 件	5,003 人
喫茶ひだまり (1 階)	—	7,284 人	—	7,080 人
ボランティアワークスペース (2 階)	261 件	2,497 人	242 件	2,537 人
おもちゃ図書館 (2 階)	—	5,062 人	—	5,525 人
相談室 (2 階)	147 件	301 人	178 件	348 人
ケアマネジメントセンター (2 階)	—	2 人	—	8 人
デイサービスセンター (3 階)	—	6,265 人	—	6,890 人
中会議室 (3 階)	416 件	9,029 人	498 件	10,272 人
大会議室 (3 階)	322 件	9,480 人	382 件	11,767 人
調理実習室 (3 階)	154 件	2,493 人	195 件	3,134 人
社会福祉資料室 (4 階)	—	1,061 人	—	1,081 人
パソコンルーム (4 階)	102 件	851 人	102 件	858 人
機能訓練室 (4 階)	458 件	9,783 人	475 件	9,785 人
教養娯楽室 1 (4 階)	257 件	1,653 人	265 件	2,070 人
教養娯楽室 2 (4 階)	197 件	1,452 人	235 件	1,771 人
音楽室 1 (4 階)	103 件	293 人	93 件	264 人
音楽室 2 (4 階)	122 件	862 人	176 件	953 人
浴室 (5 階)	—	33,807 人	—	35,174 人
集会室 (5 階)	209 件	8,801 人	249 件	9,797 人
多目的ホール (6 階)	668 件	21,417 人	797 件	24,878 人
合計	4,614 件	132,654 人	5,070 件	143,913 人

③社会福祉資料室

図書数：5,725 冊、ビデオ 246 本、DVD・VHS : 209 本を所有し、資料等の貸し出しを行った。

区分	平成 29 年度			平成 28 年度		
	来館者	図書数	DVD・VHS	来館者	図書数	DVD・VHS
利用実績	1,061 人	505 冊	57 本	1,081 人	523 冊	69 本
月平均	88.4 人	42.1 冊	4.8 本	90.1 人	43.6 冊	5.8 本

改善事項

(1)駐車場不足における来館者への対応

開館当初より駐車場不足が課題であるため、会場使用申込みの際には、原則として公共交通機関での利用を条件としている。

また、自動車で来館し駐車場が満車の場合は、近隣の有料駐車場を利用するよう案内している。

(2)施設の維持管理

施設の経年劣化に伴い修繕が必要な箇所が多くあるが、部品等の保存期間が終了したものが多くあり、修理ができずに機器等全体の取替えでなければ対応できないものが各所に見られる。取替えは設備によっては高額なものもあり、直ちに取替えすることができない場合が多く、中古部品を探すなどして、設備の維持管理に対応している。

課題

(1)駐車場不足への対応

開設当初より利用人数に見合う駐車場の確保ができず、慢性的な駐車場不足が続いている。

(現在は、北側駐車場 16 台・第 2 駐車場 22 台・地下駐車場 12 台)

利用者には原則として公共交通機関を利用することを条件としているが、車での利用を削減するには至っていない。近隣の有料駐車場の利用も呼びかけているが、引き続いて駐車場不足への対応が課題である。

(2)施設の維持管理

会館建設から 19 年が経過し、修繕に必要な部品の調達も困難となり、設備全体を取り替えることが必要な設備が年々増加している。取り替えには高額な費用が必要となり指定管理料では対応できないことが多く、特に、空調設備、ボイラー、浴槽水循環ろ過装置、消防設備中央監視盤等は、何時作動しなくなるかわからないのが現状であることから、施設修繕をいかに進めしていくかが課題である。

(3) 福祉情報資料室の利用者拡大

福祉情報資料室は、福祉情報の拠点として開設され、資料室ボランティアの方々に受付、貸し出し、蔵書の整理などの運営をお願いし現在に至っている。

しかし、蔵書は福祉に関する書籍に特化されていること、資料室が4階に設置されていて認知度が低いことなどから、利用者が限定されているのが現状である。資料室を会場にした事業の実施、定期的な書籍の購入等、いかにして資料室の存在を知っていただくための取り組みを行っていくかが課題である。

VIII 受託事業

1 地域包括支援センター事業

高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して生活できるよう、介護、医療、福祉、健康等、様々な相談に応じるほか、権利擁護、介護予防マネジメント、介護支援専門員への支援等を行う地域包括支援センターの運営を静岡市から受託している。

今年度新たに清水区松原地区を受託し、本会は、葵区城東地区(井川相談窓口を含む)、駿河区大里中島地区、清水区港北地区、蒲原由比地区の5つの地域包括支援センターの運営を受託した。

(1)相談実績

ア 城東地域包括支援センター

年度	総合相談支援	権利擁護	ケアマネ支援	介護予防	その他	合計
29	2,980件	427件	198件	185件	298件	4,088件
28	2,971件	404件	110件	444件	247件	4,176件
27	3,581件	198件	9件	397件	207件	4,392件
26	3,157件	233件	28件	621件	426件	4,465件
25	3,076件	189件	44件	658件	355件	4,322件

イ 城東地域包括支援センター(井川相談窓口)相談実績

年度	総合相談支援	権利擁護	ケアマネ支援	介護予防	その他	合計
29	59件	1件	2件	0件	2件	64件
28	22件	1件	1件	1件	32件	57件
27	57件	1件	0件	2件	32件	92件
26	36件	0件	0件	18件	55件	109件
25	38件	0件	0件	20件	3件	61件

ウ 大里中島地域包括支援センター 相談実績

年度	総合相談支援	権利擁護	ケアマネ支援	介護予防	その他	合計
29	1,173件	161件	20件	46件	27件	1,427件
28	1,293件	251件	95件	69件	26件	1,734件
27	946件	140件	66件	108件	57件	1,317件
26	1,149件	57件	59件	299件	112件	1,676件
25	1,169件	128件	48件	319件	35件	1,699件

エ 港北地域包括支援センター 相談実績

年度	総合相談支援	権利擁護	ケアマネ支援	介護予防	その他	合計
29	3,687件	419件	30件	164件	33件	4,333件
28	2,307件	177件	78件	196件	116件	2,874件
27	1,469件	133件	22件	52件	168件	1,844件
26	1,700件	222件	29件	101件	123件	2,175件
25	1,409件	277件	128件	283件	117件	2,214件

オ 松原地域包括支援センター 相談実績(H29年度から実施)

年度	総合相談支援	権利擁護	ケアマネ支援	介護予防	その他	合計
29	2,118件	206件	76件	256件	120件	2,776件

カ 蒲原由比地域包括支援センター 相談実績

年度	総合相談支援	権利擁護	ケアマネ支援	介護予防	その他	合計
29	2,636件	125件	104件	107件	331件	3,303件
28	2,546件	251件	118件	613件	356件	3,884件
27	2,272件	239件	152件	561件	282件	3,506件
26	2,469件	156件	68件	526件	143件	3,362件
25	2,663件	114件	55件	628件	75件	3,535件

(2) 介護予防ケアマネジメント業務

ア 城東地域包括支援センター

年度	介護予防予防給付		総合事業		合計
	直営	委託	直営	委託	
29	1,323件	4,576件	439件	1,326件	7,664件
28	2,021件	5,798件	—	—	7,819件
27	2,128件	5,053件	—	—	7,181件
26	2,129件	4,151件	—	—	6,280件
25	2,316件	3,306件	—	—	5,622件

イ 城東地域包括支援センター(井川相談窓口)

年度	介護予防予防給付		総合事業		合計
	直営	委託	直営	委託	
29	52件	0件	16件	0件	68件
28	92件	0件	—	—	92件
27	101件	7件	—	—	108件
26	91件	0件	—	—	91件
25	72件	0件	—	—	72件

ウ 大里中島地域包括支援センター

年度	介護予防予防給付		総合事業		合計
	直営	委託	直営	委託	
29	706 件	1,743 件	294 件	547 件	3,290 件
28	992 件	2,194 件	—	—	3,186 件
27	955 件	2,197 件	—	—	3,152 件
26	1,062 件	1,821 件	—	—	2,883 件
25	1,005 件	1,783 件	—	—	2,788 件

オ 港北地域包括支援センター

年度	介護予防予防給付		総合事業		合計
	直営	委託	直営	委託	
29	987 件	1,280 件	240 件	228 件	2,735 件
28	1,276 件	1,419 件	—	—	2,695 件
27	1,068 件	1,390 件	—	—	2,458 件
26	1,053 件	1,379 件	—	—	2,432 件
25	1,279 件	991 件	—	—	2,270 件

カ 松原地域包括支援センター(H29 年度から実施)

年度	介護予防予防給付		総合事業		合計
	直営	委託	直営	委託	
29	767 件	2,100 件	211 件	653 件	3,731 件

キ 蒲原由比地域包括支援センター

年度	介護予防予防給付		総合事業		合計
	直営	委託	直営	委託	
29	1,083 件	650 件	482 件	208 件	2,423 件
28	1,562 件	709 件	—	—	2,271 件
27	1,639 件	417 件	—	—	2,056 件
26	1,682 件	410 件	—	—	2,092 件
25	1,455 件	432 件	—	—	1,887 件

改善事項

(1)城東地域包括支援センター

圏域内の伝馬町地区が、静岡市が指定する「自宅でずっとミーティング」モデル地区になり、住民から早期に相談が入るように民生委員・児童委員定例会や自治会会議等で啓発活動を実施。

また、地区内の開業医や福祉専門職、葵区地域福祉推進センター職員とも情報共有し、継続的に連携できる仕組みを再構築する等、地域包括ケアの仕組みづくりを継続して進めた。

井川支援部隊の地域ケア会議を3回開催し、井川地区関係者も参加して、地区の課題(見守り体制の構築等)を共有した。

相談が継続して寄せられる中、地域包括ケアへの理解が進み高齢者だけでなくひきこもりや障がいのある子どもに対する支援ニーズも見つけられた。このような個別課題の対応はについ

ては、本会の生活支援コーディネーターと協働するシステムを確立しつつある。

今後も地域ケア会議を開催し、潜在的な個別課題を共有して、現地のニーズに合った地区主体の見守りネットワークを構築していきたい。

(2) 大里中島地域包括支援センター

圏域の高齢化が進む中で多問題を抱える高齢者に関する相談が増え、地域包括支援センターだけでは対応が難しく、多職種との協働が不可欠となってきている。そのため、司法書士等多職種の参加による個別の地域ケア会議や圏域の地域ケア会議、勉強会を開催し、困難事例への多職種協働による支援体制の構築と連携構築及び強化に取り組んだ。地域ケア会議に参加した多職種と顔の見える関係ができ、それにより普段の相談支援業務の中で連携が取りやすくなつた。

地域の実情を基に、「老後の住宅問題」、「相続・身元保証」を題材にした、地域住民、多職種を対象とした勉強会を開催し、地域包括ケアシステムの啓発を図った。

(3) 港北地域包括支援センター

認知症独居高齢者、高齢者世帯の増加による高齢者支援をきっかけに、障がいや生活困窮者等、多問題を抱える世帯の支援が増加している。

圏域の医師、歯科医師、薬剤師、ケアマネジャー、介護サービス事業所、生活支援コーディネーター、民生委員・児童委員や関係機関、地域住民等と地域課題を抽出し社会資源を整理する場として地域ケア会議や他職種連携を意図的に実施することで、個別ケースへ連携して取り組むことができた。

(4) 松原地域包括支援センター

平成29年度より運営を受託し、運営体制の整備と地域住民、関係機関への周知に重点的に取り組んだ。総合相談においては、電話での受付だけではなく、訪問による相談対応も積極的に行い、月200件前後の相談を受け付け、福祉サービス、制度、関係機関へつなないだ。地域の支援が必要と思われる個別課題については地域ケア会議を開催し、関係機関とあわせて、自治会関係者や近隣住民の参加を得て支援体制の検討を行った。

(5) 蒲原由比地域包括支援センター

認知症の独居高齢者の相談が増える中、身近で関わる近隣住民と離れて暮らす家族や関係する専門職のそれぞれの距離感や価値観の相違から本人の課題に対する認識が異なり、わだかまりや支援の遅れが生じることが多い。このため支援導入に際し、地域住民や地域の関係者と家族や公的サービス支援事業者、専門職等によるケア会議を開催し、それぞれが把握する情報とそれに関する思いを共有していくことで、互いに理解し見守る側も安心感を持って、本人が住み慣れた自宅でその人らしい生活を継続できるような体制を整え、関係者との連携も密になつてきている。

課題

(1) 城東地域包括支援センター・井川相談窓口

地域住民から早期に相談が入るように民生委員・児童委員定例会や自治会会議などで啓発活動を行っているが、いかにして地域包括ケアによる個別課題の解決ができるかが課題である。

また、個別課題の解決には、専門職だけでなく、地区社協や自治会、民生委員・児童委員、地域住民の協力を必要とするため、いかにして連携していくかが課題である。

井川地区については支援者が限られており、既存の制度では対応できない課題も多いことから、井川地区で実践できる支え合いの仕組みづくりが必要である。

また、井川相談窓口の専門職が十分確保できないため、福祉人材の確保が課題となっている。

(2) 大里中島地域包括支援センター

圏域の高齢化は年々進み、それに伴い高齢者に関する問題も増えてきている。独居や高齢者世帯の増加、子どもとの連絡を拒む、精神疾患等障がいを持つ子どもと同居、認知症だが医療機関への受診を拒む、がん末期の在宅看取り、男性介護者の抱え込み等、高齢者の抱える問題が複雑化し支援が難しくなっている。高齢者の複雑化した問題解決のためには多職種とのさらなる連携が必要不可欠となっている。日常業務や地域ケア会議等を通じ、医療、福祉、介護の関係各機関、制度の枠を超えた多職種との協働、連携強化を図っていく必要がある。

また、将来的に介護や地域の中心になっていく若い世代を含む多世代に高齢者問題を自分の事として理解してもらえるよう、いかに啓発していくかが課題である。

(3) 港北地域包括支援センター

認知症独居高齢者や多問題を抱える世帯の支援が急増している。同居家族問題、生活困窮者、キーパーソンが不在である中での在宅生活の支援等、地域包括支援センターだけではその相談に対応していく事が難しく、各専門機関など多職種との協働が不可欠となっている。

医療関係機関等と顔の見える関係はできてきたが、それ以外の専門機関(障がい等、高齢者以外の専門機関)との関係づくりが出来ていない。今後、高齢者を取り巻く相談は益々複雑多様化していくものと予想されることから、高齢者の制度の枠を超えた専門機関等多職種との連携構築が課題である。

また、高齢者自身が自立に向けた意識を持つことができるようにするためリハビリ職等との連携強化が課題である。

(4) 松原地域包括支援センター

公営住宅が点在しているが、高齢化が進み、住民同士のつながりが弱くなっている。そのため、ちょっとした困りごとが解決できない住民も現れている。公的サービスだけでは対応できない、制度の狭間にいる人や、高齢、障がい、経済的困窮などから複数の問題を抱える住民への支援のために、自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員や専門機関だけではなく、福祉の枠を超えた様々な機関との連携が必要となる。多種多様な機関とのネットワークの拡充、強化が課題である。

(5)蒲原由比地域包括支援センター

担い手となる世代の人口が減少していく中で、高齢化率の上昇とともに独居高齢者も増えている。それに加え、同居家族が課題を抱える相談も多い。こうした課題に対応していくために、多くの機関との連携強化を図り支援を拡充していくこと、地域住民にも他人事ではなく我が事として関心を持ってもらい協力が得られるように、地域ケア会議の内容を工夫し誰にでもわかりやすい地域のネットワーク強化が課題である。

2 高齢者・障害者住宅改造費補助事業

日常生活に支障がある高齢者や障がい者の住居を対象に、玄関や居室の段差解消等の住宅改造費を補助する制度の利用相談及び助成の手続きを行っている。

なお、この事業は、静岡市からの受託事業で、補助決定となった金額については、静岡市から直接、申請者に交付されている。

【平成 29 年度の実績】

区分	相談件数	決定件数	決定金額
高齢者住宅改造	157 件	7 件	3,138,000 円
障害者住宅改造	67 件	4 件	1,533,000 円

【過去 5 年間の推移】

年度	区分	相談件数	決定件数	決定金額
29	高齢者住宅改造	157 件	7 件	3,138,000 円
	障害者住宅改造	67 件	4 件	1,533,000 円
28	高齢者住宅改造	192 件	7 件	2,718,000 円
	障害者住宅改造	59 件	2 件	1,038,000 円
27	高齢者住宅改造	220 件	13 件	4,743,000 円
	障害者住宅改造	77 件	4 件	1,352,000 円
26	高齢者住宅改造	239 件	12 件	4,806,000 円
	障害者住宅改造	60 件	2 件	1,099,000 円
25	高齢者住宅改造	170 件	4 件	881,000 円
	障害者住宅改造	58 件	5 件	2,503,000 円

改善事項

(1) 丁寧な制度説明の徹底による相談支援の充実

申請窓口として本会で事業を受託しているが、補助対象事業及び補助金金額の決定は静岡市が行うことからも、申請受付から決定までの過程において、書類差し替え等の負担を申請者に強いていることも多かった。そのため申請から決定までの流れを窓口で丁寧に説明することを徹底し、業者にも同様に行い理解が得られた。その結果、短期間での支援が完了するなどの事例がみられた。

課題

(1) マニュアル等の整備と職員の説明力の向上

本制度は介護保険制度、障害者福祉制度とも密接に関連し、対象、補助金額は静岡市が決定することから静岡市との密な連携が不可欠となる。

対象となる内容や補助金額は高齢者と障害者で異なる部分があり、マニュアルや制度フロー図を整備し、職員の市民への説明力を高めていく。

3 放課後児童健全育成事業

共働き等で放課後保護者のいない家庭の小学生を受け入れ、保護者の代わりに家庭的な機能を補完しながら「生活」の場を提供し、「遊び」及び「生活」を通して、子どもの健全育成を図ることをねらいとして、56児童クラブの運営を行っている。

受け入れ児童は、保護者の申請をもとに静岡市が決定しており、1日当たり約2,700人の児童が利用している。運営実施日は、日曜日、祝日及び年末年始（12月29日から翌年1月3日まで）を除く日となっている。

入会を希望する家庭は年々増加しているため、放課後児童クラブの量の拡充は積極的に進められている。同時に育成支援の質の向上も政策上謳われ、児童クラブの運営においては、安心・安全の保障と楽しさの両立がますます求められている。個々の児童クラブ規模が大規模化していく中、子どもにも保護者にも安心感を与えられる運営になるよう、全支援員・事務局（施設サービス課）ともに日々の対応に尽力している。

平成29年度の整備拡充および質の向上にともなう動きは次のとおりである。

①受入れ人数を拡大するための増設

整備対象 8 クラブ

②19時までの開設時間延長の実施

全56 クラブ

利用状況

(単位：人)

名 称	平成29年度			平成28年度		
	一日平均	実施日	延べ利用人数	一日平均	実施日	延べ利用人数
番町児童クラブ	77	293	22,415	74	293	21,600
長田児童クラブ	19	293	5,665	20	293	5,760
長田北児童クラブ	54	293	15,871	59	293	17,280
川原児童クラブ	71	293	20,925	68	293	20,160
服織児童クラブ	26	293	7,594	24	293	6,912
美和児童クラブ	18	293	5,176	35	293	10,368
千代田児童クラブ	72	293	21,218	60	293	17,568
千代田東児童クラブ	74	293	21,633	65	293	19,008
安東児童クラブ	109	293	31,839	109	293	31,680
井宮第二児童クラブ	24	293	6,886	28	293	8,064
東豊田児童クラブ	73	293	21,267	57	293	16,704
瀬名児童クラブ	8	293	2,368	10	293	2,880
新川児童クラブ	26	293	7,594	49	293	14,400
中田児童クラブ	66	293	19,265	53	293	15,384
西豊田児童クラブ	91	293	26,614	64	293	18,864
大谷児童クラブ	34	293	10,060	34	293	9,984
中央児童クラブ	41	293	11,940	34	293	10,104
麻機児童クラブ	48	293	14,137	52	293	15,264
中島第二児童クラブ	20	293	5,909	23	293	6,840

利用状況

(単位：人)

名 称	平成 29 年度			平成 28 年度		
	一日平均	実施日	延べ利用人数	一日平均	実施日	延べ利用人数
横内児童クラブ	63	293	18,483	33	293	9,576
西奈児童クラブ	56	293	16,457	55	293	15,984
井宮北児童クラブ	42	293	12,355	40	293	11,664
賤機南児童クラブ	65	293	18,923	51	293	15,072
伝馬町児童クラブ	58	293	16,994	51	293	15,024
長田南児童クラブ	53	293	15,602	57	293	16,800
富士見児童クラブ	68	293	19,851	59	293	17,208
羽鳥的場児童クラブ	68	293	19,997	65	293	19,056
竜南児童クラブ	100	293	29,300	85	293	24,840
長田西児童クラブ	74	293	21,804	69	293	20,280
南部児童クラブ	51	293	15,065	47	293	13,848
城北児童クラブ	103	293	30,106	106	293	31,152
宮竹児童クラブ	66	293	19,460	59	293	17,424
長田東児童クラブ	87	293	25,467	68	293	20,040
東源台第二児童クラブ	38	293	10,988	36	293	10,488
豊田児童クラブ	17	293	5,103	17	293	5,088
西奈南児童クラブ	89	293	25,955	78	293	22,872
足久保児童クラブ	38	293	11,061	41	293	11,904
田町児童クラブ	37	293	10,792	37	293	10,728
安西児童クラブ	46	293	13,380	40	293	11,616
大里東児童クラブ	28	293	8,277	32	293	9,264
新通児童クラブ	20	293	5,958	17	293	5,064
森下児童クラブ	39	293	11,427	34	293	10,056
東源台第一児童クラブ	41	293	11,915	36	293	10,656
中島第一児童クラブ	60	293	17,531	45	293	13,248
井宮第一児童クラブ	34	293	10,084	34	293	10,080
服織西児童クラブ	12	293	3,540	7	293	2,016
南藁科児童クラブ	20	293	5,933	18	293	5,184
葵児童クラブ	48	293	14,088	47	293	13,824
駒形児童クラブ	35	293	10,157	35	293	10,368
由比第二児童クラブ	27	293	7,789	23	293	6,624
蒲原東児童クラブ	35	293	10,182	31	293	9,216
上足洗児童クラブ	15	293	4,444	29	293	8,640
沓谷児童クラブ	28	293	8,106	22	293	6,336
安倍口児童クラブ	21	293	6,177	—	—	—
由比第一児童クラブ	11	293	3,296	—	—	—
大里西児童クラブ	56	194	10,841	—	—	—
合 計	2,700	16,309	785,264	2,422	15,529	710,064

改善事項

(1)専任支援員の処遇改善

静岡市と継続的に協議し、処遇改善のための環境整備の構築に向けて取り組み、平成29年度より段階的な改善を開始した。

(2)保護者負担金徴収事務の正確性の担保と効率化

負担金徴収事務については、正確性の担保と効率化を兼ね備えた解決策について静岡市と協議を重ねてきた。その中で、正確性を高め効率的に業務を行うための管理システムの導入を図った。

(3)児童クラブアドバイザーの充実

5人のアドバイザーによる担当ブロックへの訪問や相談対応を充実させるとともに、クラブ運営や保育内容について継続した助言指導を行った。

また、支援員の資質向上のため、アドバイザーが中心となって研修体系や内容を見直し、充実を図ったほか、新人支援員研修を始め、職種別研修、他クラブへの実地研修等を実施した。

(4)支援員の育成

ブロック研修を実施し、「安心子ども」「安全環境整備」「遊び仲間作り」の3部会に分かれ、支援員一人ひとりがテーマを持ち、それぞれの実践について他の支援員やアドバイザーからフィードバックを受けながら1年間取り組むことで、各支援員の力量を高めた。

同時に、ミーティングの機会を利用し、保育マニュアル理解の徹底、支援員間での情報交換やノウハウの共有を意識的に行なった。

事務局とクラブの運営方針や連絡事項の徹底を図るため、主任支援員会議を年4回開催した。

この中で主任支援員への研修を行うことで、主任としてクラブ運営にあたる責務・役割への理解を深めた。

課題

(1)専任支援員の深刻な不足

政策により、児童クラブの量の拡充と質の向上がさらに求められ、支援員の負担が増えたことから(労働時間の延長、質の向上に伴う仕事量の増加により)離職が進んでいる。

また、定年(65歳)を迎える支援員も多くなっており、新規採用者を募集するものの必要な人員の確保ができない状況にある。

さらに、受入児童数の増加により、支援員の配置が十分でないクラブも出てきており、支援員不足は一層深刻なものとなっている。

(2)保護者負担金徴収事務の正確性の担保と効率化

膨大な業務量に加え、保護者負担金の軽減と開設時間の延長保育料の発生により負担金徴収事務がより複雑化し、請求・収納・滞納・督促の負担金徴収業務の事故リスクが高まっている。管理システムの運用により、正確性の担保と効率化を図っていく必要がある。

(3)事務局体制の基盤強化

全 56 か所のクラブ運営を束ね、専任支援員約 200 名、補助支援員約 200 名、入会児童約 2,500 名を管理する事務局職員の業務は多岐にわたり、さらにその量も増加しているため、事務局体制・機能の強化を図る必要がある。

4 由比・長田子育て支援センター運営事業

就学前の乳幼児とその保護者等を対象に、気軽に利用できる憩いの場、交流の場として開放するとともに、保育士資格を有する職員や栄養士等専門職による子育て相談も行い、子育てに関する悩みごとの解決の手助けができた。

また、子育て支援に関する講座としては、0歳児、1歳～1歳5か月、1歳6か月～3歳未満、3歳以上等の年齢別に設定し、日時や内容を変え、その時期にふさわしい支援ができるよう、きめ細やかに対応している。

(1)由比子育て支援センター

①開所の状況

開所日・時間	毎週 火、水、金曜日 午前9時～午後3時		
年間開所日数	平成29年度	平成28年度	平成27年度
	149日	145日	149日

②利用状況 来所 延べ1,786人 相談15件

区分	平成29年度	平成28年度	平成27年度
親	845人	1,181人	1,440人
子	941人	1,275人	1,707人
合計	1,786人	2,456人	3,147人
月平均	149人	205人	263人

(2)長田子育て支援センター

①開所の状況

開所日・時間	毎週 火～金曜日 午前9時～午後3時30分		
年間開所日数	平成29年度	平成28年度	平成27年度
	246日	256日	258日

②利用状況 来所 延べ36,397人 相談87件

区分	平成29年度	平成28年度	平成27年度
親	16,527人	16,714人	16,742人
子	19,870人	20,773人	20,580人
合計	36,397人	37,487人	37,322人
月平均	3,033人	3,124人	3,110人

改善事項

(1)子育て支援にかかる情報の収集

平成27年度より長田子育て支援センター事業が加わり、2センターを受託運営するようになり、センター間での情報交換を密にし、事業実施にあたり相互のネットワークを活用した。

また、市内の地域子育て支援センターが参加する「子育て支援センター連絡会及び研修会」に出席し、乳幼児のいる家庭の現状や傾向等の子育て支援に必要な情報の共有を図り、事業に役立つことができた。

課題

(1)地域の実態にあわせた運営

地域子育て支援センターの整備が進む中、児童館併設の支援センターとして、児童館の遊び環境を活かした独自の事業展開や情報提供など、一層の創意工夫が求められる。

5 ファミリー・サポート・センター運営事業

生後 2 か月から小学生までの子育ての援助を受けたい人と、子育て支援講座を受講し会員登録をした援助を行いたい人が、育児について助け合う会員組織を静岡市から受託している。ファミリー・サポート・センター事務局では、援助活動の斡旋や連絡調整のほか、会員を対象とした講習会や交流会開催等の支援事業を実施した。

区分	会員の種別	区分	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	
会員数	援助 (まかせて) 会員	静岡	487 人	456 人	464 人	
		清水	326 人	312 人	296 人	
		小計	813 人	768 人	760 人	
	依頼 (おねがい) 会員	静岡	2,167 人	2,163 人	2,080 人	
		清水	819 人	783 人	768 人	
		小計	2,986 人	2,946 人	2,848 人	
	援助・依頼 (どっちも) 会員	静岡	174 人	203 人	197 人	
		清水	74 人	73 人	84 人	
		小計	248 人	276 人	281 人	
	計	静岡	2,828 人	2,822 人	2,741 人	
		清水	1,219 人	1,168 人	1,148 人	
		合計	4,047 人	3,990 人	3,889 人	
援助活動件数		静岡	8,199 件	8,262 件	8,408 件	
		清水	4,965 件	6,683 件	5,022 件	
		小計	13,164 件	14,945 件	13,430 件	

改善事項

(1) 子育て支援講座の見直し

まかせて会員確保のため、まかせて会員養成を目的とした子育て支援講座（年 4 回開催）の開催場所を、全て異なる地域で開催した。開催前に生涯学習交流館等の掲示や広報紙に掲載を依頼し、地域住民の参加を促した。

(2) 組織体制の見直し

併設している静岡・清水平中央子育て支援センターの所管とすることで、両所長によるマネジメント、利用者支援事業との連携強化、子育て支援センター利用者への事業周知の恒常化を図った。

課題

(1)まかせて会員の確保

依然として、おねがい会員の数に対しまかせて会員の数が少なく、ニーズはあるがサポート調整が成り立たない結果が多くなっている。まかせて会員確保のため、手を変え様々なアプローチをしていく必要がある。

(2)安全に運営するための注意喚起

車を使用してのサポートやまかせて会員の自宅での預かり等、本事業はリスクが高い。加えて、事務局と会員のやりとりは電話等となり直接会う機会はないため、サポートに対しての注意喚起をする機会が極めて少ない。利用にあたってのルールの徹底と、安全にサポートするための注意喚起を様々な方法で周知していく必要がある。

【各課等所掌事務】

部	課	所掌事務
総務部	総務課	<input type="radio"/> 法人運営 <input type="radio"/> 理事会・評議員会 <input type="radio"/> 組織内連絡調整 <input type="radio"/> 印章管理 <input type="radio"/> 後援名義 <input type="radio"/> 寄付 <input type="radio"/> 広報事業 <input type="radio"/> 社会福祉大会・表彰 <input type="radio"/> 福祉団体等助成 <input type="radio"/> 人事・研修・給与・福利厚生・労働衛生 <input type="radio"/> 個人情報保護制度 <input type="radio"/> コンプライアンス対応
	経理課	<input type="radio"/> 法人財務 <input type="radio"/> 経理 <input type="radio"/> 出納 <input type="radio"/> 財産管理 <input type="radio"/> 電算システムの管理・運用 <input type="radio"/> 監査 <input type="radio"/> 苦情解決委員会 <input type="radio"/> 情報システム管理
	施設サービス課	<input type="radio"/> 指定管理施設統括・総合調整 <input type="radio"/> 静岡市中央福祉センター <input type="radio"/> 静岡市児童館（11館） <input type="radio"/> 児童クラブ(56) <input type="radio"/> 子育て支援センター（静岡・清水・由比・長田） <input type="radio"/> ファミリー・サポート・センター
地域福祉部	地域福祉推進課	<input type="radio"/> 地域福祉推進事業 <input type="radio"/> 地域福祉活動計画 <input type="radio"/> 地区社協への総合的支援 <input type="radio"/> 福祉教育 <input type="radio"/> 静岡ふれあい広場 <input type="radio"/> ボランティア・市民活動センター静岡 (ボランティアの育成・活動支援) <input type="radio"/> 当事者活動の支援 <input type="radio"/> 福祉相談事業 <input type="radio"/> 共同募金運動 <input type="radio"/> 静岡市民生委員児童委員協議会事務局 <input type="radio"/> 会員制度
	地域福祉 権利擁護センター	<input type="radio"/> 日常生活自立支援事業 <input type="radio"/> 法人後見事業

部	課	所掌事務
地域福祉部	葵区地域福祉 推進センター	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 地域福祉推進センター運営 <input type="radio"/> 地域福祉推進委員会 <input type="radio"/> 社会福祉広報啓発活動 <input type="radio"/> 福祉教育 <input type="radio"/> 地区社協への支援 <input type="radio"/> ボランティアの育成・活動支援 <input type="radio"/> 当事者活動の支援 <input type="radio"/> 総合相談支援事業 (各種福祉相談、生活困窮者自立相談支援事業、無料職業相談) <input type="radio"/> 会費・寄付・共同募金等の受付 <input type="radio"/> 静岡市地域福祉交流プラザ <input type="radio"/> 葵区民生委員児童委員協議会事務局 <p>【城東地域包括支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 福祉・医療・介護等の総合的相談 <input type="radio"/> 自立生活支援 <input type="radio"/> 高齢者の権利相談・支援
	駿河区地域福祉 推進センター	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 地域福祉推進センター運営 <input type="radio"/> 地域福祉推進委員会 <input type="radio"/> 社会福祉広報啓発活動 <input type="radio"/> 福祉教育 <input type="radio"/> 地区社協への支援 <input type="radio"/> ボランティアの育成・活動支援 <input type="radio"/> 当事者活動の支援 <input type="radio"/> 総合相談支援事業 (各種福祉相談、生活困窮者自立相談支援事業、無料職業相談) <input type="radio"/> 会費・寄付・共同募金等の受付 <input type="radio"/> 駿河区民生委員児童委員協議会事務局 <p>【大里中島地域包括支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 福祉・医療・介護等の総合的相談 <input type="radio"/> 自立生活支援 <input type="radio"/> 高齢者の権利相談・支援
	清水区地域福祉 推進センター (清水・蒲原・由比)	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 地域福祉推進センター運営 <input type="radio"/> 地域福祉推進委員会 <input type="radio"/> 社会福祉広報啓発活動・福祉のまつり <input type="radio"/> 福祉教育 <input type="radio"/> 地区社協への支援 <input type="radio"/> ボランティア・市民活動センター清水 (ボランティアの育成・活動支援) <input type="radio"/> 車いす用リフト付き・スロープ付き車両の貸出、 運転ボランティアの育成(清水・蒲原) <input type="radio"/> 当事者活動の支援

部	課	所掌事務
地域福祉部	清水区地域福祉 推進センター (清水・蒲原・由比)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合相談支援事業 (各種福祉相談、生活困窮者自立相談支援事業、無料職業相談) ○ 会費・寄付・共同募金等の受付 ○ 清水区民生委員児童委員協議会事務局 ○ 静岡市清水社会福祉会館 (はーとぴあ清水) ○ 静岡市清水中央老人福祉センター <p>【港北地域包括支援センター、蒲原由比地域包括支援センター、松原地域包括支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉・医療・介護等の総合的相談 ○ 自立生活支援 ○ 高齢者の権利相談・支援
介護事業部	介護事業課	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護事業統括・企画調整 ○ 総合介護サービスセンター (エン・フレンテ) ○ ホームヘルパーステーションしづおか、 はーとぴあ清水、かんばら・ゆい ○ 訪問看護ステーションしづおか ○ ケアマネジメントセンターしづおか、 エン・フレンテ、はーとぴあ清水、 かんばら・ゆい ○ デイサービスセンターエン・フレンテ、 はーとぴあ清水、すこやか ○ 訪問入浴サービスはーとぴあ清水、ゆい ○ 移送サービス事業 (由比) ○ 井川高齢者生活福祉センター ○ 静岡市介護保険事業者連絡協議会事務 ○ 静岡市清水介護保険事業者連絡会事務